



研究開発実施報告書

平成27年度指定 スーパーグローバルハイスクール 第3年次

平成30年3月

学校法人 創価学園



関西創価高等学校

2017 年度 SGH 研究開発成果集発刊にあたって

関西創価高等学校校長 中西 均

2015 年に SGH の指定を受け 3 年、文部科学省による中間評価におきまして、ありがたいことも最高評価を頂戴いたしました。多くの皆様のご支援とご協力の賜と心より感謝申し上げます。

本校には「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」という平和教育の第一の信条があります。それは「他国の犠牲の上に自国の繁栄を追い求めることはしない」というグローバル社会が目指すべき信条でもあります。私たちは、そこに脈打つ「いのちの尊厳」を根底に、地球的課題を軸にした「世界市民教育プログラム」を目指し、SGH に取り組んでいます。ですから、ここに記録した教材、資料はすべて、「世界市民教育」の教科書を作る思いで、全教職員が関わり開発したものです。

本校の SGH メインプログラムは全校生徒を対象にした探究型総合学習 GRIT と、その集大成たる学年模擬国連です。さらに希望者には地球的課題を探究するために用意された SP クラス、UP クラスなどがあり、さらに選抜された生徒が全て英語で課題探究を行う Learning Cluster があります。国内外のフィールドワークも充実しています。加えて語学力の向上は顕著で、英検 1 級をもつ生徒は SGH 初年度の 1 名から 3 年目の本年度は 8 名へ。準 1 級は 10 名から 48 名へと飛躍しました。SGHA の時から取り組んだ Active learning とともに、地球的課題に取り組むことで生徒自身の意識が大きく変容し、語学の必要性を深く自覚したことが理由です。

昨年 7 月 7 日、国連において核兵器禁止条約が採択されました。122 カ国の正義の声が、ヒバクシャの声が、「いのちの尊厳」を叫ぶ声が、世界を大きく動かしたのです。

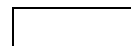
次はその魂のバトンを受け継ぎ、私たちの「TRY 人の郷・交野から、平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム」で育まれた若き世界市民たちが、世界中で地球的課題の解決に奮闘する時代がくることを確信しております。

最後に、本校 SGH 運営指導委員である梶田叡一先生、米田伸次先生、朝野富三先生、また提携していただいております大学、国際機関、研究機関、企業、地元・交野市教育委員会の皆様、ユネスコスクールの皆様、そして多くの SGH(A)校の皆様に深く感謝申し上げます。

2018 年 3 月 16 日

報告書 目次

I	【別紙様式5】平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要	4
II	実施報告書.....	6
1	研究開発の概要.....	6
2	各研究の取り組み.....	7
2-1	G R I T (Global Research and Inquiry Time)	
2-2	Global Citizenship Seminar	
2-3	FW (Fieldwork LC 東京・東京・広島・アメリカ・東北)	
2-4	LC (Learning Cluster)	
2-5	UP (University Partnership)	
2-6	Active Learning	
2-7	N I E (Newspaper in Education)	
3	成果と分析.....	98
III	関係資料.....	126
1	SGH中間研究発表会・第一回運営指導委員会議事録	
2	SGH最終研究発表会・第二回運営指導委員会議事録	
3	SGH最終研究発表会・第三回運営指導委員会議事録	



平成 27 年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	かんさいそうかこうとうがっこう					②所在都道府県	大阪府
27～31	①学校名	関西創価高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1 年	2 年	3 年	4 年	計	普通科 生徒数 1075 名（2014 年度） 同キャンパスに中学校を併設		
	普通科	359	357	359				
⑥研究開発構想名		TRY 人(じん)の郷・交野から 平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム						
⑦研究開発の概要		<u>Active Learning の土台の上に、国連が提起している地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力を育む教育活動を高大連携して開発する。</u>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	(1) 目的・目標 1600 年前に日本に技術を伝えた渡来人が住み着いたとされる交野。21 世紀はこの交野より世界へ飛び立ち、 <u>地球的課題の解決に果敢に挑み、世界の平和に貢献するグローバルリーダーを育成することを目的とする。</u> SGHA として 2014 年度に取り組んだプログラムをさらに発展させ、創価大学・アメリカ創価大学・オタゴ大学等の高大連携を強力に推進し、UNDP 等国際機関とも提携して、地球の今を学び、体験し、問題解決へ発信する新教育プログラムを作り上げる。						
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 最近 5 年間ににおける海外大学進学者数の累計は 53 名であり、本校から創価大学に進学した者の 40%は留学等海外経験を行うなど意識は高いが、さらなる語学力の向上や主体的な学びの姿勢を育む授業改革が必要であり、高大連携しての Active Learning、ICT 教育に取り組むことで大きく改善が期待できる。 生徒自ら地球的課題に挑み解決しようとする「使命感」は、第一に世界の現状を知り、苦しみを分かち合う「共感力」の向上の中で培われるものであると信じる。 <u>世界が課題とする「環境・開発・人権・平和」の 4 分野について、大学、国際機関、企業と提携し、国連が具体的に提起している諸問題を探究し、生徒たちがチームとして新たな視点からその解決を目指すプロセスを確立することとする。</u> そのため、教育の根幹たる授業において、友と協力し自ら学ぶ学習スタイルを確立することが今後のグローバルリーダー育成の取り組みの土台となるので、Active Learning を全教科にわたり積極的に導入するべきである。その基礎の上に、全員で取り組む探究型総合学習 GRIT での「環境・開発・人権・平和」の 4 分野の学びはより進むものと確信する。さらに興味関心を抱く希望者には、高大連携プログラムとして、SP（SOKA Progress）クラスと呼ばれるグローバルイシューの基礎講座を実施。そこで学びを深めた生徒からさらに選抜して、国際機関と提携しての LC（Learning Cluster）プログラムを行う。						
		(3) 成果の普及 専用 WEB サイトでの発信とともに、他の指定校と連携しながら、SGH 教育報告会を開催。またオープンキャンパスにおいて、内外に向けた取り組み成果の報告を行う。新たに開発した教材はデジタル化し、広く公開していく。						

⑧ -2 課 題 研 究	(1) 課題研究内容 グローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力の育成を図るため、「<u>環境・開発・人権・平和</u>」の4分野について国連が具体的に提起している諸問題を探究し、チームとして解決方法を目指すプロセスを確立する。 ※コアとなるグローバルイシューは、「ポスト 2015 開発アジェンダ」の検討内容を中心として各チームがテーマを設定し探求する。 (2) 実施方法・検証評価 ①<u>探究型総合学習 GRIT (Global Research and Inquiry Time)</u> ○土曜日に実施 ○全校生徒を対象 ○「環境・開発・人権・平和」の4分野について大学・国際機関・企業と提携し探究活動 ○大学院生を各クラスに TA として配置 ○1 年生「環境・開発」 2 年生「人権・平和」 3 年生では模擬国連と論文作成 ○GRIT 講演会 Global Citizenship Seminar を学期毎に開催 ○全員が EarthKAM を体験し、宇宙から地球を見つめる視点を育成 ○「天の川ホテル復活プロジェクト」で自然との共生の心を育む ②<u>高大連携プログラム SP (SOKA Progress) Class</u> ○希望者を対象 ○グローバルリーダーの資質向上に資する連続講座 ○提携大学・国際機関から講師を招き実施する UP(University Partnership)Class ○2016 年度から単位を付与 ○GRIT を推進し、LC へつなぐ ③<u>国際機関と提携して行う先進的な特設プログラム LC (Learning Cluster)</u> ○2・3 年生の希望者から最大 32 名 (2015 年度は 20 名を予定) を選抜 ○4 名 1 チームで 4 分野からコアとなるテーマを設定 ○活動の全ては英語 ○創価大学と提携した東京・アジアフィールドワーク ○アメリカ創価大学と提携したカリフォルニア環境人権平和フィールドワーク ○UNDP と提携した開発フィールドワーク ④<u>高大連携で授業改善 — 友と協力し自ら学ぶ Active Learning を強力に展開</u> ○全ての課題研究の推進の土台として、主体性あふれる学びの姿勢を築く ○<u>ICT 教育も同時に研究、推進</u> ○創価大学教育学部と提携し全教科で導入 検証評価 学年・学期毎に SGH 委員会が作成したルーブリック評価を導入し、生徒の変容を評価するとともに、提携大学関係者を交えた評価委員会により行う。 (3) 必要となる教育課程の特例等 なし
⑧ -3 上 記 以 外	(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 ①<u>留学生と地球的課題を語るプログラム Global Camp</u> ②<u>語学力向上の取り組みを強化</u> ○Critical Writing Center の設置 外国人講師が face to face で添削指導他 ③<u>世界に、社会に目を向ける NIE (Newspaper in Education)</u> ④<u>日本人としての identity を育成する Feel Japan Program</u> ○海外高校生徒との共同生活体験 ○留学生への古都案内 ○国語の授業、図書館、クラブでの「日本文化」の深化など 検証評価 教養とリーダーとしての資質向上を期し、授業連携や読書教育をさらに進める。各種コンテストの参加数、生徒へのアンケートをもって検証評価を行う。 (2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし。 (3) <u>グローバル・リーダー育成に関する環境整備, 教育課程課外の取組内容・実施方法</u> ①校長を長とする SGH 委員会等教職員体制の整備、強化 ②保護者の意識変革 ③専用 WEB サイトの開設 ④図書館に「環境・開発・平和・人権」「グローバルビジネス」専用書架の設置 ⑤SGH カリキュラムを含め研究開発計画に沿って実施
⑨その他 特記事項	提携校の創価大学は SGU であり、本校の研究開発を効果的に進めることができる。

研究開発の概要

(1) 研究開発の概要

関西創価高校がSGHを通して生徒に身につけさせたい力は、国連の提起する地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」である。Active Learning の土台の上に、全校生徒を対象とした「環境・開発・人権・平和」の4分野について学ぶ探究型総合学習 GRIT (Global Research and Inquiry Time)やGlobal Citizenship Seminar、希望者を対象とした知的好奇心を高揚させる高大連携プログラムのUP(University Partnership)Class、希望者から選抜された生徒がオールイングリッシュで徹底した探究を行うLC(Learning Cluster)で、確かな知識と広い教養の涵養を目指す「世界市民教育」の教育課程を研究開発する。

【別紙様式5】平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要を参照)

(2) 本年度の研究開発の経緯

SGH3年目となりGRITプログラムが完成した。1年次は「グローバルイシューとの出会い」をテーマに、知識のインプットとディスカッションを中心としたプログラム、2年次は「グローバルイシューとの戦い」をテーマに、「環境・開発・人権・平和」の4分野からトピックを選んで探究活動を行い、それぞれのチームが大学教授に探究成果と提言を発表、3年次は「世界を一つにする力」をテーマに、合意形成の力を培った。その集大成として、3年生全員、92ヶ国で取り組んだ模擬国連では「ゼロハンガーを目指す食料流通システムの構築」について総会を開催。採択された決議を元国連事務次長のチョウドリ大使に提出、全員が探究したことを論文にまとめ、英語サマリーとして発信した。論文作成にあたり、大学教員を招いての「アカデミック・ライティング講座」を開催した。本年より全校生徒にタブレットを貸与、ICTを活用したActive Learningや協働作業が飛躍的に進んだ。また、GRITで行われているActive Learningの様々な手法が全教科に渡って大きく取り入れられ、主体的で対話的な深い学びが進展した。高校3年生のCEFRのB1B2以上の合格者は61%と飛躍的に大きな伸びを示した。高大連携、国際機関とも提携して、地球の今を学び、体験し、問題解決へ発信する教育プログラムが完成した。生徒意識調査を行い、生徒の心がどのように変容し、実際に行動がどう変わったのか調査した。今年度の取り組みの分析及び次年度以降の取り組みの方向性の検討を実施した。

(3) 本年度の具体的な取り組み内容

①GRIT

- ・アクティブラーニングを中心に、本校SGHのテーマである「環境・開発・人権・平和」4分野について全校生徒で探究し、3学期に生徒による成果発表会を行う。

②Global Citizenship Seminar

- ・国内外の国際機関や大学等の学術機関、社会で活躍する著名人から直接講演を受講。

③LC (Learning Cluster)

- ・希望者から選抜し、オールイングリッシュによる探究・調査・提言作成を行う。

④SP(Soka Progress)class ならびにUP(University Partnership)Class

- ・希望者を対象にした高大連携プログラム国内外の大学教授などから受講。

⑤FW (Fieldwork 東京・広島・アメリカ・東北)

⑥NIE (Newspaper in Education)

GRIT (Global Research and Inquiry Time)

1 2017年度 GRIT 概要

2014年度に SGH として採択されてから、登校する土曜日を利用し、総合学習 GRIT の授業を行っている。GRIT では、関西創価高校の SGH テーマ「環境・開発・人権・平和」の4分野についての基礎知識をビデオやプリントで学び、フィールドワーク、体験学習を行ってきた。GRIT は全員が4分野について学ぶ、本校の SGH プログラムの根幹となるものである。

2017年度は2016年度までの流れを組み、少し変更を加えた。特に2年生が1年間を通じての「課題研究」を行うようになった。

1年生では、「環境・開発・人権・平和」の4分野について、概要と体験型授業をもとにグローバルイシューを体感できるようにした。

2年生は、6月に行われる創価大学での研修において、4分野に関する課題研究の研究計画を各分野の専門の教授の前で行った。これは2015年度より始めたものである。今年度はさらに、その研究を年間通したものとし、2月に保護者に向けて発表会を行うこととした。その発表をよりよいものとするために、大学院生からのアドバイスをいただく機会を2回持ち、クラスをシャッフルした発表も行った。

3年生では、今まで学んだことを利用し、全クラスを92ヶ国に分け、模擬国連の形式で交渉を行い、食糧問題に対する解決案を考案しまとめた。そして、その内容を一人一人が論文にし、英語でサマリーを書いた。

2 GRIT 授業までの流れ

GRIT は土曜日に全学年同時で開催する。授業の担当は、担任もしくは学年担当の教員である。授業考案者や専門の教員が実施しないため、どの教員でも担当できるよう準備に時間をかけている。

流れとして、まず GRIT 担当の教員が授業内容を考案し、SGH 委員会で検討して修正を加える。その後職員会議（学年ごとに内容が違うときには週1回行われる学年会）で、授業を実施する教員に説明し、質問を受けた。その際、授業の内容をまとめ、流れがわかるような指導案も作成した。

指導案を用いて授業を行う中で、担当者がこうしたらいいのではないかと改良をし、フィードバックをすることにより PDCA サイクルが行われ、よりよい授業になっていっている。

3 GRIT リーダー

GRIT の1年生の授業において、フィールドワーク、ディスカッション、体験学習などを行う際には、授業担当者の教員のみではなく、生徒に進行役をさせることがある。この役割を担うのが GRIT リーダーと呼ばれるメンバーである。GRIT リーダーが必要な授業の前に、クラスで募集をし、事前に授業内容に関する研修を受け、生徒が進行を行う。

4 GRIT 授業内容詳細

① 2017/4/15 GRIT ガイダンス

4.1 1年生 テーマ：「環境」「開発」「人権」「平和」概要

SGH 校に採択されたことを受け、関西創価高校の SGH 構想の説明と、GRIT の意義、4テーマの

概略を放送システムで説明した。1年生にはこれからの3年間で学ぶこと、2・3年生には改めてGRITを学ぶ意味を説明し、考える時間とした。

日付	回	テーマ	詳細
2017/4/15	1	ガイダンス	ガイダンス
	2	環境	環境入門
	3	環境	校内フィールドワーク
5/6	4	開発	世界が50人の村だったら
	5	開発	SDGs
5/27	6	人権	ビデオ・世界の人権問題
	7	人権	ポスターツアー
6/3	8	環境	蛍復活プロジェクト
	9	平和	現在の戦争・紛争
6/24	10	開発	グッドアース藤原さん講演
	11	開発	グッドアース藤原さん講演
7/19	12	FW	インタビュー方法決め
9/2	13	フィールドワーク	国内フィールドワーク報告
	14	フィールドワーク	インタビューポスター発表
10/14	15	平和	被爆体験朗読会
	16	平和	核兵器の現在
10/28	17	人権	いじめといじりディベート
	18	人権	いじめといじりディベート
11/4	19	環境	アースカム・環境かるた
	20	平和	核兵器禁止条約・平和のためにできること
11/11	21	開発	貿易ゲーム
	22	開発	貿易ゲーム
12/16	23	プレゼンテーション	プレゼンテーション立ち上げ
	24	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備
2018/1/13	25	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備
	26	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備
	27	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備
1/20	29	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備
	30	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備
	31	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備
2/3	34	平和	平和提言学習
	35	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備
	36	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備
2/17	39	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備
	40	プレゼンテーション	発表
	41	プレゼンテーション	発表

②③ 4/15 テーマ：環境 環境概要講座、校内環境フィールドワーク

環境クイズを行った後、セヴァン・スズキさんのスピーチを視聴。自分たちがもっとも大切だと思う環境問題への対策法を考えた。

校内環境フィールドワークは、2014年度から続けているプログラムである。校内の自然に触れる環境クイズに答えながら、校内をめぐりスタンプラリーを行った。クラスで説明ののち、グループごとにまわり、最後に教室で答え合わせを行った。

○GRIT 用 PowerPoint：環境入門、校内フィールドワーク（抜粋）

GRIT「環境」入門
人・自然・宇宙のつながりと
私たちの生活

1

ケニアのことわざ

「地球を大切にしない。
それは、額からもらったものではなく、
子どもたちから借りているものだから」

2

青春対話「大自然との語らい」より

「自然を壊すのは、人間を壊すことになる。
なぜなら、自然は人間の『ふるさと』
だからです」

3

環境問題とは

「人間の健康や生存に直接関わる問題」

- みなさんが知っている環境問題はどんなものがありますか（1分）
- 1人で書いたあと、発表して他の人の内容を書き加えよう（2分）

4

NHK 環境問題の歴史を知ろう

5

セヴァン・スズキ「伝説のスピーチ」

1992年、リオ・デ・ジャネイロで開催された「地球サミット」の席上、当時12歳の子供がおこなったスピーチの映像を見てください

6

「伝説のスピーチ」を聞いて

- セヴァン・スズキさんのスピーチを聞いたあなたの感想を記入してください。（2分）
- 1人で書いたあと、発表して他の人の内容を書き加えよう（2分）

7

「フィールドワーク」→「見える化」

「環境」は身近なだけに、なかなか変化に気づかない。
気づいた時には既に手遅れということも…

→「見える化」が重要！

8

「見える化」の主な技法

- 数値化…水質調査（pH・COD・水温）
本数調査 etc.
- 類型化…樹生調査 etc.

↓

記録を比較することで、変化がわかる！

9

フィールドワーク

学園の自然を見て、なぜこういうことになっているのか？ どういうデータがとれるのか？ 記録をとってみよう。

ワークシートを各班に配布してください
課題とスタート地点を次のスライドで説明します。

10

校内フィールドワークで

- 課題1：校内の池で水質調査を行う
- 課題2：校内の桜の木を20本観察しよう
- 課題3：創立者が命名された場所について、各ポイントの情報を調べてみよう

11

課題1：校内の池で水質調査

- 各班で1か所水質調査（CODの測定）を実施。
- ワークシートの地図をもとに、目標の場所へ向かう。「青いバケツ」が目印

12

課題2：桜について調べよう

13

課題2：学園の桜を観察しよう

課題1が終わったら、ワークシートのマップの矢印に従って、反時計回りで校内を一周しましょう。その中で、桜の木を20本選び、よく観察してみましょう。選んだ20本の桜の木の中で、傷んでいる木と無事な木の本数を数えて、ワークシートに記入しましょう。

14

傷んでいる桜の例 ①折れている

15

傷んでいる桜の例 ②キノコ

16

傷んでいる桜の例 ③中が空洞

17

グループスタート地点（水質調査の池）

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組
1池	1	1	1	1	1	1	1	1
2池	2	2	2	2	2	2	2	2
3池	3	3	3	3	3	3	3	3
4池	4	4	4	4	4	4	4	4
5池	5	5	5	5	5	5	5	5
6池	6	6	6	6	6	6	6	6
7池	7	7	7	7	7	7	7	7

18

○生徒の感想

- ・私たちが普段あたり前のようにやっていることが、未来の子どものこと、地球のことを考えずに

今の自分のことだけを考えてやっていることだと気づかされ、このままではいけないと、強く感じました。「行動」が大切だと思いました。また、「分け合うこと」の重要性を感じ、もっと広い視野で物事をとらえて考えていきたいと思いました。

- ・眼で見ることによって、普段意識していなかったところの環境が破壊されていることに気づき、身近で環境問題が起こっていると実感しました。

④ 5/6 テーマ：開発 「世界が50人の村だったら」

現在の世界の状況をクラス内の人数で表現するとどうなるかをモデル化した「世界が50人の村だったら」のプログラムを行った。開発教育協会が発行している教材を中心に学んだ。

クラスごとに生徒に役割カードを配布して、そのカードにかかれた人種・言語などによってグループ分けをし、世界の状況をモデル化した形で確認した。

例えば、カードに書かれているネパール語「座ってください」を、全員が起立した状態でプロジェクトに表示して、座る人が何人いるか。つまり世界の識字率が何%あるのかを確認し、読めない人はもしかすると薬と間違えて、毒を飲んでしまう可能性があるということを考えた。

最後に「世界が50人の村だったら」の文章を全員で読んで、気づいたことを話し合わせた。

○GRIT 用 PowerPoint：世界が50人の村だったら（抜粋）

The image displays a series of 12 PowerPoint slides from a presentation titled "GRIT 開発① 世界の現状を知ろう" (GRIT Development ① Understanding the Current State of the World). The slides are arranged in a 4x3 grid, numbered 1 through 12. The content includes:

- Slide 1:** Title slide for "GRIT 開発① 世界の現状を知ろう".
- Slide 2:** "GRIT「環境」の次は？" (Next is GRIT "Environment"?). It lists 4 themes, with "開発" (Development) being the focus. It defines "開発" as economic growth and development, contrasting it with environmental degradation.
- Slide 3:** "今日のGRITは？" (What is GRIT today?). It encourages students to observe the world's status and set goals.
- Slide 4:** "「世界が50人の村だったら」" (If the world were a village of 50 people). It explains the model where 100 people represent the world's population, and 50 people represent the village.
- Slide 5:** "役割カード確認" (Check role cards). It instructs students to use the role cards to understand the village's structure and to write down the number of people in each category.
- Slide 6:** "このあとの流れ" (Flow from now on). It outlines the steps: PowerPoint explanation, role card distribution, and a quiz.
- Slide 7:** "クイズ第1問" (Quiz Question 1). It asks for the current world population (approx. 7 billion).
- Slide 8:** "第1問答え！" (Answer to Question 1). The answer is B. 73億人 (7.3 billion).
- Slide 9:** "クイズ第2問" (Quiz Question 2). It asks for the world population in 1960 (approx. 3 billion).
- Slide 10:** "第2問答え！" (Answer to Question 2). The answer is B. 30億人 (3 billion).
- Slide 11:** "クイズ第3問" (Quiz Question 3). It asks for the projected world population in 2050 (approx. 11.5 billion).
- Slide 12:** "第3問答え！" (Answer to Question 3). The answer is B. 95億人 (9.5 billion).

クイズ第4問

現在の世界の人口において、男性と女性どちらが多いでしょうか？

A. 男性
B. 女性
C. ほぼ同じ

13

第4問

●実際に、この村の中で数えてみよう！
●男性は右、女性は左(役割シート上)へ移動！
熟えた数を書いてみよう

	男性	女性
欠席者		
合計		

実際には男性50.4%、女性49.6%でC(2010年国連人口推計)

14

クイズ第5問

現在の世界の人口において、お年寄りの割合は何%でしょうか？

A. 7%
B. 17%
C. 27%

15

第5問

●実際に、この村の中で数えてみよう！
●子どもは前、お年寄りは真ん中、大人は後ろへ移動！
熟えた数を書いてみよう

	子ども	お年寄り	大人
欠席者			
合計			

(実際)大人65%、お年寄り7%、子ども28%でA(2010年国連人口推計)

16

クイズ第6問

ところで、世界の分類において、子どもは0歳から何歳までで分類されている？

A. 9歳
B. 14歳
C. 19歳

17

第6問答え！

●答えは B. 14歳です。
●世界の統計では15歳は労働力としてカウントされていることが多いです。
●世界人口統計によると

- 0～14歳が 子ども
- 15～64歳が 大人
- 65歳以上をお年寄り としています。

18

クイズ第7問

では、日本の人口において、お年寄りの割合は何%でしょうか？

A. 13%
B. 18%
C. 23%

19

第7問

●実際に、この村の中で数えてみよう！(日本版の年齢)
●子どもは前、お年寄りは真ん中、大人は後ろへ移動！
熟えた数を書いてみよう

	子ども	お年寄り	大人
欠席者			
合計			

(実際)大人64%、お年寄り23%、子ども13%

20

どういふことに気が付きましたか？

●アフリカと日本の子どもと大人の割合
Unicef「世界子ども白書」による・18歳未満を子どもとする

	子ども	大人	子どもの人口
世界	33%	67%	22億人
日本	16%	84%	2055万人
アフリカ	47%	53%	4億7000万人

●どんなことが言えるでしょうか？

21

クイズ第8問

アジアの人口は世界人口の何%にあたるでしょうか？

A. 40%
B. 60%
C. 80%

22

大陸ごとの人口

●世界を作ろう(机をくっつけよう)
40個の机を大陸ごとにくっつける

- アジア 10個
- アフリカ 9個
- ヨーロッパ/ロシア含む 7個
- 北米 5個
- 中南米 7個
- オセアニア 2個

●自分の住む大陸の周りで椅子に座ろう。

23

第8問

熟えた数を書いてみよう

	アジア	アフリカ	ヨーロッパ	北米	中南米	オセアニア
欠席者						
合計						

●世界の人口の大半が、アジア・アフリカにすんでいる

24

⑤ 5/6 テーマ：開発 「SDGs 学習」

2時間目の GRIT では、昨年9月に国連で採択された SDGs「持続可能な開発目標」の概要を学んだ。国連が SDGs を考えた背景のビデオを視聴し、新たな国連による指標を学んだ。そして、その目標を達成させゆくために自分たちがもっとも重要視すること、そのためにできることを考えるキックオフの授業とした。

○生徒の感想

・今の地球では、地域などによって、生活の差、貧富の差がとても大きいことが数で表されることで、よくわかりました。同じ時代を生活していると思えないほどの差があります。私たちにできることも何か必ずあると思うので、自分が周りを変えていくために、現状を知り、考え、行動していこうと思いました。

⑥⑦ 5/27 テーマ：人権「世界の人権問題ポスターツアー」

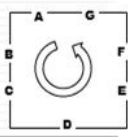
GRIT 人権の初めは世界の人権問題のインプットを行うことを目的とした。ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさん紹介ビデオと、国連でのスピーチを視聴した。

次に、人権問題に関して多くのテーマを生徒が学べるよう、ジグソー法を発展させたポスターツアーの形式で発表を行うことにした。

まず、少人数のグループに分かれ、国際 NPO「アムネスティ」のホームページに掲載されている人権問題を、グループごとに違うテーマで読ませた。次にポスターを作り、発表ができるようにした。ポスターといっても、項目ごとに付箋を使い、内容をまとめたものである。ポスターが完成したら、グループを作り直し、新しいグループには最初とは違うグループのメンバーが集まるようにした。時間を区切って、ポスターを回り、自分の作成したグループのポスター前ではそのグループ員が発表するようにした。

したがって、全員が必ず発表を行うようにした。2年生でも行った。

○GRIT 用 PowerPoint：人権問題ポスターツアー（抜粋）

2018.03.28 GRIT 人権①・②	今日のGRIT人権①・② - 今日のGRITでは人権について考えていきます - 世界で起きている人権問題 - 身近な人権問題を考えていきます - ところで、みなさんは「人権」って大切にしていますか？ - 何をすることが「人権」を守ることになりますか？ - 世界ではどんな「人権」問題が起きているかを知っていますか？	ビデオ マララ・ユスフザイさん スピーチ 2014年ノーベル平和賞を17歳の年齢で受賞したマララ・ユスフザイさんのビデオを見ます 「カローヌスアップ現代」(2014年1月8日(水))抜粋 「国連でのスピーチ」(2013年7月12日)抜粋 - パキスタン北部で、女性が教育を受ける権利を訴え続けてきたマララ・ユスフザイさん。タリバンによって銃撃を受けたが、奇跡的に一命を取り留めました。それでも彼女が訴え続ける権利とは？と考えながら見て下さい。
1 	世界の人権問題を学ぶ - グループごとに世界の人権問題を学んで、ポスターを作ります。 - 資料は国際人権NPOアムネスティによる内容です - まずは、各グループごとに配布されたプリントの内容を理解してください。(必要があれば、タブレットで調べてみよう) - ポスターにして全員2分で説明できるようにしてください！ - 全員に説明してもらいます！！	ポスターの作り方 - それぞれの人権問題に対して、A3用紙にふせんを貼ってポスターにしてください。 - きれいなポスターではなく、内容がまとまっているものというポスターです。 例一 
4 ポスター例 	ポスター 内容 - ポスターにはそれぞれの人権問題について、「概要」「現在」「対策」などの項目ごとに、ふせんをはっていく。 - 項目は自分たちで変更してかまいません(資料ごとに内容が異なるため) 「対策」の項目は必ずつこう。 - ぜひ自分たちの意見も書いていこう。 - 休憩を含め、11時20分までに完成してください。	新グループ作成！ - 各グループから1人ずつになるような新グループをつくってください(担当の先生の指示にしたがってください)。 - ポスターはホワイトボード、壁、窓にはって、そのまわりに新グループごとに集まってください。 
7 ポスターセッション - ポスターの前に集まって、自分の発表を聞こう - もしグループの中に、発表者がいはいいポスターの前に来たら、2分間ポスターを読んで待ってください - 聞く側もしっかりとメモをとりながら、どうすれば解決できるかを考えていこう！ 	10 ポスターセッション様子 	11 さあスタート - ポスターの前に集まって、自分の発表を聞こう - もしグループの中に、発表者がいはいいポスターの前に来たら、2分間ポスターを読んで待ってください - 聞く側もしっかりとメモをとりながら、どうすれば解決できるかを考えていこう！ 

○生徒の感想

世界には本当にさまざまな人権侵害がたくさんあることを知りました。特に、テロとの戦いの中で

人権侵害が起こることを知ったときは驚きました。また、日本も無関係ではないことを改めて感じました。できることとして、とにかく問題について知っていかうとする気持ちを持つことと、その中で現状に対する問題意識を持つていくことが大切だと思いました。日本も無関係ではないので、これからもどんどん学んでいきたいです。また、節水もしていきたいです。

⑧ 6/3 テーマ：環境 「ホタル復活プロジェクト」

関西創価高校には蛍保存会があり、開校当初より校内で蛍を飛ばそうという挑戦の歴史がある。現在は6月に蛍が飛び、地域の方が見学する会も開催している。蛍が生息するためには、さまざまな環境に対する考え方を構築しなければならない。そのことを通し、創立者が「ホタルは平和のシンボル」とおっしゃられている理由などを考えた。

授業は、「ゲンジボタルの生態」のビデオを視聴し、学園の蛍保存会として活動をしてきた杉本創価教育センターの関西センター長がお話をしてくださったあと、ディスカッションを行った。

○生徒の感想

昔に比べて今はあまり身近にホタルが見られなくなったのは環境が悪くなったからだと思います。なので、平和の象徴であるホタルが学園で見られるということは、本当にすごいと思いました。たくさんの方の苦勞の中、飛び、今も続いているホタルを大切にしたいと思いました。

⑨ 6/3 テーマ：平和 「現在の戦争・紛争：ソマリア・南スーダン」

平和の回の最初は、今世界で起きている戦争・紛争の様子をVTRでみてもらう回にした。まずは、数多くの現在の戦争・紛争をリストアップし、知っている戦争・紛争には丸つけをつけてもらった。また、クローズアップ現代「破綻国家”衝撃の潜入ルポ ～混迷するソマリア・南スーダン～」の回を視聴し、平和な国日本にあって気づかないところもあるが、世界ではまだ紛争が起きており、子どもたちが巻き込まれているということを実感できる形とした。

そして、TED「テロリストの子どもに生まれて」の回を視聴し、どうやったら差異を乗り越えられるかを考えた。

この回は2年生のGRITでも同様に視聴した。

○GRIT 用 PowerPoint：現在の戦争・紛争（抜粋）

GRIT 平和① 現在の戦争・紛争	GRIT 平和 - GRITも4分野目、「平和」について学んでいきます。 「平和」については、「格闘技」などを学んでいきます。 10月27日、「国連総会の委員会が停戦止暴動の交渉開始決議」のニュースが流れ、日本が反対したということが話題になりました。 - そんな中、世界の平和のためにできることがあるのか？などを考えていきたいと思います。	現在の戦争・紛争 - さて、みなさんは、21世紀に入ってから起きている戦争・紛争について、どこまで知っていますか？ 21世紀に入ってから戦争・紛争についてワークシートの一覧に、 - 知らない * - 聞いたことがある * - どうも戦争が起きている * - 説明できる *
ビデオ1:「クローズアップ現代」(抜粋) - 実際に現在起きている紛争のうち、2つ「ソマリア・南スーダン」の現状をビデオで見たいと思います。 “破綻国家”衝撃の潜入ルポ～混迷するソマリア・南スーダン～NHK 2016年9月20日放送 - ビデオを見ながら、新たに知ったこと・気づいたこと・疑問に思ったことを書いていこう。	ビデオ2:「TED」ザック・エブラヒムさんの講演 - 前理知識 2005年1月26日、ニューヨークの世界貿易センタービル(WTC)の地下駐車場で爆弾を爆弾を爆弾が爆発。 - 爆発により3人が死亡し、少なくとも66人が負傷したという - 彼が自分の友人だとして、話を聞いてみよう	ビデオを見て、ワークシート記入 - 感想を書こう - あなたは彼の友人だとします。スピーチを聞いて、彼の話を初めて聞きました。スピーチのあと、何をするか考えてみよう。 - GRIT平和でも、ぜひこの問題などを考えていきます。戦争・紛争について、平和について、どう取り組んでいこうか考えてみてください。

○生徒の感想

- ・いっどこでだれが襲ってくるかわからない恐怖と不安は、本当におそろしいものだと思います。どこにいても安心することができないというのは、とてもつらいものだと思います。難民やテロ、ビデオの中でもあったように、これらの問題は世界全体が問題意識をもって解決していかなければならないと思います。また、南スーダンの問題では、武力に対し武力を用いるような今の状況ではいけないと思いました。
- ・とても衝撃を受けるお話でした。憎み続けるということは、無駄にエネルギーを消費するという言葉がとても強く印象に残りました。偏見を持っていたとしても人との出会いでそれがよい方向に変えることができるということを知りました。

⑩⑪ 6/24 テーマ：開発 「グッドアース藤原さん 講演」

○生徒の感想

今、日本人の暮らしが、アフリカやアジアに負担をかけたり苦しめたりしていると知って、申し訳なさ、悔しさを感じました。また、アフリカで働きたいと言っている割に、今の自分は何も知らない状態だから、もっと調べていかないといけないなと思いました。

⑫～⑭7/19 9/2 フィールドワーク（インタビュー）

本年も高校1年生全員が探究活動の課題として夏休みにインタビューに取り組んだ。フィールドワークリサーチとして、「環境、開発、人権、平和」の4分野の中からテーマを選び、身近でその分野で働く人々にインタビューを行うことにより、現実の中でどんな活動が行われているのかを学ぶことを目的とした。

NHKの高校講座「国語表現」から「インタビュー」の回を抜粋して視聴し、その後、課題を説明。

生徒はそれぞれ夏休みに身近な人にインタビューを行い、内容を、B4のポスターとしてまとめた。

9月のGRITの時間に、ポスター発表会として、グループで自分のポスターを見せ、内容を発表していき、優秀作品をグループでひとつ決め、代表はクラスみんなの前で発表。更に、クラスで最優秀作品も決め、全作品を廊下に掲示した。

○GRIT用PowerPoint：インタビュー説明（抜粋）

1 GRIT 夏の課題「フィールドワーク」
4分野をインタビューで学ぶ

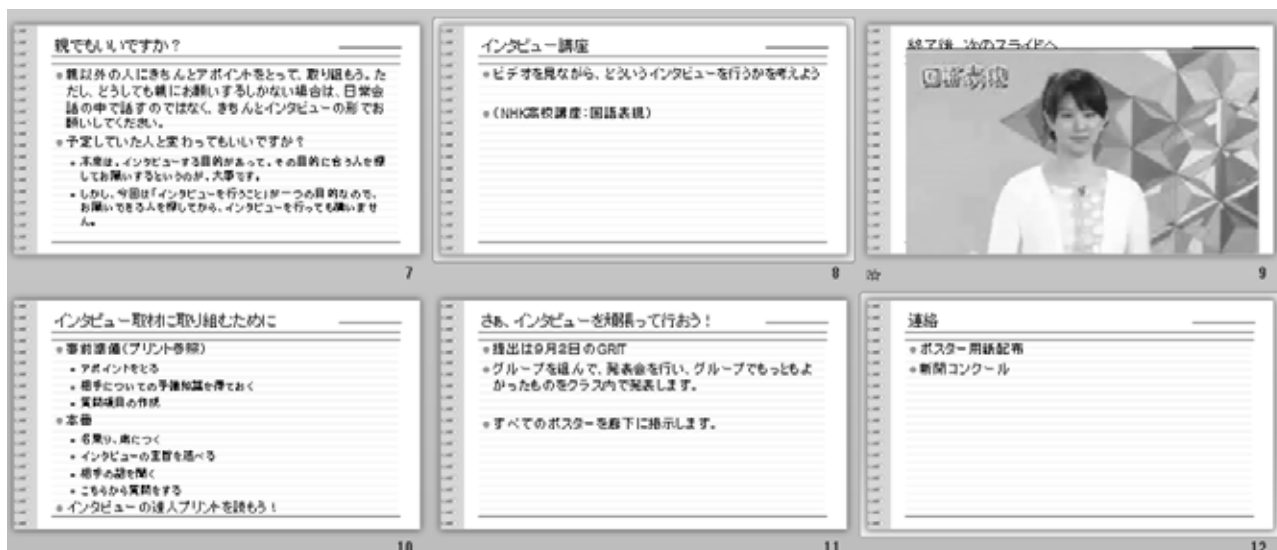
2 目的
①、1・2年生のGRITで学習する「環境」「開発」「人権」「平和」の4分野について、身近な人にインタビューを行うことにより、実社会の中でどんな4分野に関する活動が行われているのかを学ぶ。
また、身近に存在する4分野を考えるきっかけにする。
②、フィールドワーク(インタビュー)を行うことにより、研究や分析に必要な調査の基礎を学ぶ。

3 フィールドワーク(インタビュー)内容
●「環境」「開発」「人権」「平和」に関する仕事、活動をしている身近な人にインタビューを行う。
●インタビューは個人個人が行う
●相手と一緒に写っている写真を撮って、ポスターに貼ろう。(ただし、お断りされた場合は、建物の写真など)
●提出方法
●A3用紙(縦)にまとめて提出(廊下に掲示)
●8月2日GRITにて発表、提出(ポスター作成時間はありません)。

4 見本
教師という仕事について

5 見本
環境について

6 どんな人にインタビューを行えばいいの?
●基本的には、すでに自分が知っている人をお願いしてみてください。思いつかなければ、保護者の方に相談して、地域の方などを紹介してもらいましょう。
●たとえば、
●環境: 地域のゴミ清掃を担当している人
●開発: 街づくりの担当者
●人権: 弁護士・教員
●平和: 議員の方



⑮⑯ 10/14 テーマ：平和 「被爆体験朗読会・核兵器について学ぶ」

核兵器について学ぶために、広島フィールドワークの際に国立広島原爆死没者追悼平和祈念館で行われている「被爆体験朗読会」を行った。広島フィールドワークに参加した生徒が全クラスを分担して担当し、フィールドワークのときの報告が行われた。その後、原爆被害の概要をまとめた「被爆の爪痕」のビデオを視聴。その後 GRIT リーダーさんが被爆体験を2つ朗読した。

次に4つの原爆詩を全員で音読、その後グループごとに1つずつ音読した。そして、その様子を思い浮かべながら、感想を話し合った。

休憩をはさんで、原爆の問題点がかかれたプリントを学び、ジグソー法をつかって、新しいグループでそれぞれが発表した。さらに NHK スペシャル「スミソニアン展示」を視聴し、アメリカの意見を学んだ。

進行は GRIT リーダーさんをお願いした。

○GRIT 生徒用プリント：原爆詩朗読会（抜粋）

GRIT 平和 ワークシート

- ① ビデオ1の感想
- ② 朗読会をしてみても思ったこと
- ③ 自分たちの班の内容を1分で発表できるようにまとめよう
- ④ 他の班のメンバーの発表をメモしよう
- ⑤ 学んだこと・感想

○GRIT リーダー用進行プリント

11/19 2・3限 GRIT リーダー会1・2年平和用

よろしくお願いします。シナリオ付き PowerPoint は木曜日の帰りの HR で担任の先生から配ります。今日は流れと、あらかじめ準備しておいてほしいことをお話します。

GRIT テーマ：核兵器

核兵器の悲惨さを広島での体験談を使って学び、問題点を資料によって、ジグソー法で学ぶ。2限（GRIT の1時間目）は広島 FW メンバーが全クラスに入って、思いなどを話してくれます。（各クラスに担当の広島 FW メンバーがいます。他クラスからくる場合もあるので、進行は基本的に GRIT リーダーさんをお願いします。もし可能なら、あらかじめ打合せができると素晴らしいです）

GRIT リーダーの役割

- ①. GRIT 進行役（シナリオ付き PowerPoint を準備中）
- ②. グループワーク用グループ（1 グループ 5～6 人）作成（途中で解体します）
（公欠がないかなど担任の先生とあらかじめ相談しておいてください）
- ③. 体験談の朗読（一人ずつ）

GRIT（2・3 限）流れ 波下線はあらかじめ GRIT リーダーが準備すること

2時間目:

- ①. 導入説明（教員）・プリント配布・グループ移動（5 分）

グループをあらかじめ作成しておいてください。

- ②. 広島 FW メンバーによる一言（5 分）
- ③. ビデオ（PowerPoint 内にあります）（10 分）
- ④. 被爆体験記朗読会（20 分）：別紙参照

被爆体験記を渡しますので、それを 1 人ずつ読んでください。（ぜひ最大限気持ちを込めて読んでください）

- ⑤. ディスカッション・感想記入（10 分）

3時間目(グループは変えても変えなくてもかまいません)

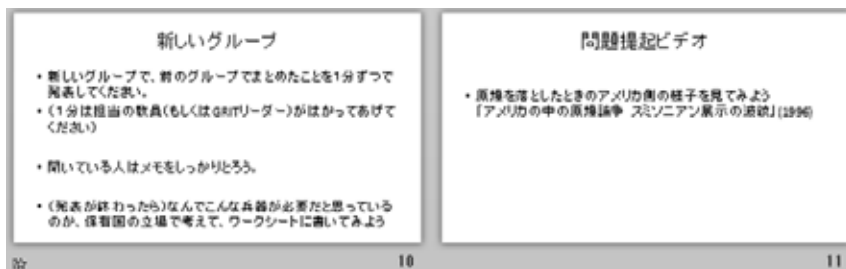
- ①. 説明＋資料配布（5 分）
- ②. 資料をグループごとにまとめ、全員が 1 分で説明できるようにする。（10 分）
- ③. グループ移動（5 分）

全グループがばらばらになるように移動をさせてください。（前回のポスターツアーの方法を思い出して、担当の先生と相談してください）

- ④. 新グループ内で前グループでまとめた内容を発表（10 分）
- ⑤. ビデオ（10 分）
- ⑥. ディスカッション・感想記入（10 分）

○GRIT 用 PowerPoint：原爆詩朗読会（抜粋）

GRIT 平和 核兵器を学ぶ	GRIT 平和「核兵器」 - 今日の GRIT の 2 時間では、「平和」に対して最も脅威となる「核兵器」について、学び、考えていきます。 - 今日の進行は GRIT リーダーさんです。よろしくお願いします。 - ワークシート・朗読用紙を配布して、グループになってください。	大切なもの、愛するものを守る？ - 人間には、愛するものを守りたいという感情があります。 - 大切なもの、愛する人々を守りたいという思いが、軍事技術を開発する動機にもなってきました。 1945 年、核兵器が開発され、使用されるまでに至りました。
ビデオ 原爆被害の概要をまとめた「被爆の爪痕」を見てください。		どう思いましたか？ 1945 年 8 月 6 日、9 日、原爆によって、日本は大きな被害をおきました。その様子を見て、どう思いましたか？ - 感想を記入してください。 - ここで被爆体験に関する朗読会を行います。 - まずは GRIT リーダーが、被爆体験を 2 本朗読します。目を閉じて、心で聞いてください。
続いて、原爆詩の朗読 - 原爆詩を読みたいと思います。 - まずは、全員で声を合わせて読んでいきます。 - 次に、各代表が（男女交互になるように）、4 つのうち、心に残ったものを 1 つ選んで読んでください。 → 同じものが選んでもかまいません。 （時間があれば）グループで「原爆詩を読んだ感想」「自分がその場にいたとしたら思うこと」「自分の家族を思い浮かべて感じたこと」を話してみてください（感想用紙に書いてください）。	- さっきの時間では、原爆被害にあった人たちの声を読んでみました。 - この時間は、いかに「原爆」に問題があるのかをグループごとに学んで発表するようにしたいと思います。 - 各グループ別に資料を配ってください。 - グループごとに配られた資料を全員が 1 分で話せるようにまとめてください（10 分間）	グループ移動 - 各グループメンバーがばらばらになるように、グループを移動します。 - GRIT リーダーさんの指示で移動してください。



○生徒の感想

アメリカと日本の考え方のちがいは、とても考えさせられました。でも、私はやはり原爆投下は絶対いけないことだと思いました。そもそも戦争がいけないのです。立場による考え方の違いも踏まえて、これからもっと平和について考えていきたいと思います。

⑩⑪ 10/28 テーマ：人権 「いじめといじりディベート」

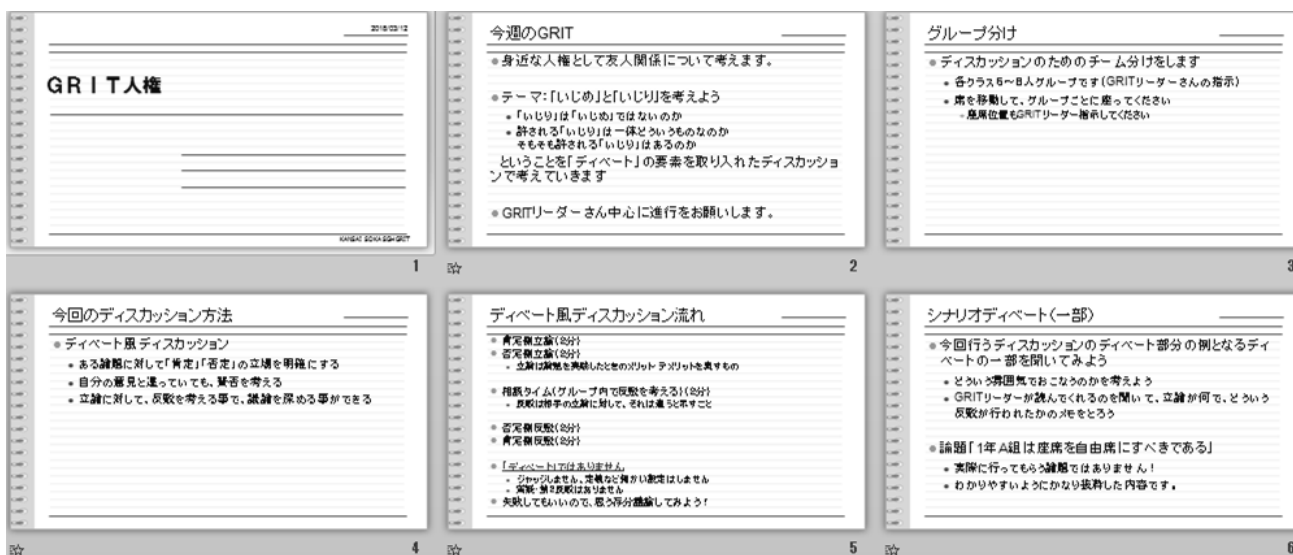
日々当たり前前に使っているあだ名も、エスカレートし本人が嫌がるといじめにつながる。「いじり」と「いじめ」の境界線を考え、今近くにいる友達の人権を考えるためにディスカッションを行った。

まずは、NHK「いじめをノックアウト」あだ名は禁止するべきですか?」の回を視聴し、あだ名を嫌がっている子、あだ名は禁止すべきであるという意見を紹介した。その後まずは個人でメリット・デメリット・あだ名がいじめにならないための解決策3か条を考え、グループごとにディスカッションし、グループごとに解決策を考える、それをクラスで発表し、またグループでディスカッションし、クラスのルールを1つ作成した。

スムーズにディベート風ディスカッションができるように、ワークシートには穴埋め形式のシナリオを準備した。

できる限り全員一致のルールがつかれるように、GRIT リーダーに進行役を依頼した。

○GRIT 用 PowerPoint : 「いじり」と「いじめ」ディスカッション (抜粋)



肯定側立論:「1年A組は席を自由席にすべきである」

- メリットは「学校生活が楽しくなる」ということです。
- なぜ、・・・
- なぜこれが大切かというと、・・・

否定側立論:「1年A組は席を自由席にすべきである」

- デメリット:「仲間はすぐが生じる」
- なぜこれが重大かというと、・・・

否定側反駁:「1年A組は席を自由席にすべきである」

- 肯定側立論のメリットである「学校生活が楽しくなる」ですが、・・・
- 肯定側は自由席になると好きな人と座れると言いましたが、それは必ずしもそうとは言え切れません、・・・

肯定側反駁:「1年A組は席を自由席にすべきである」

- 否定側はデメリットとして、「仲間はすぐが生じる」と言いましたが、それは起きません。
- どうしてかというと、・・・
だからこのデメリットは重要ではありません。

このように

- ディベート風ディスカッションの流れ:
 - メリット・デメリットを述べる
 - それはなぜかを説明
 - 相手のメリットが起きない・重大でない理由を説明
- という流れになります。

今回の議題

- 今回の議題:「あだ名で友人を呼ぶ事を禁止する」
- 肯定:禁止する
- 否定:禁止しない
- このテーマについて、グループの中で肯定・否定の立場にわかれて、他のグループとディスカッションを行います。
- 議題を議題して、10分のビデオを見てください。
- 「いじめをジャックアウト」(Eテレ)(2年分編集)

どう思いましたか?

- グループを「肯定(禁止)」「否定(禁止しない)」に分けてください。
- 11:05からグループ内でディベートを行います。
- そのあと、別のグループとディベート風ディスカッションを行います。
- ワークシートをグループごとに配ってください。

議題:「あだ名で友人を呼ぶことを禁止する」

- ルール確認
 - 議題であげられるメリット・デメリットは2つまでです。
 - 全員が一度は発言してください。
 - 時間(2分)がきたら、そこで発言をやめてください。
- 「友人」とは、知り合いすべてをさします。
「友人」じゃないから、あだ名でもOKではありません。
- 「あだ名」とは、名字・苗字をそのまま呼ぶ事以外すべてのことを指します。

グループでしなずけなければならないこと(11:05まで)

- メリット・デメリットを肯定、否定にしなす
- お互いにいきなり、考えよう
- なぜそのメリット・デメリットが起きるのか、デメリット・デメリットがどうして重要(課題)なのかを肯定、否定しなす理由を述べよう。
- 各グループに配布されているワークシートに記入してください。
- 各グループのワークシートは時間内に記入してください。
- 各グループのワークシートは時間内に記入してください。
- では、グループごとに議題を肯定・否定「禁止する」「禁止しない」

11:05～ グループ内ディベート

- この次のスライドから自動で時間がスタートします。
- 30秒間・10秒間に音がなります。
- 今回は相談タイムはありません。
- 準備はいいですか?
 - 肯定側立論(2分)
 - 否定側立論(2分)
 - 相談タイム(2分)
 - 肯定側反駁(2分)
 - 否定側反駁(2分)
- では、スタート！(次のスライドからは自動で進みます)

終了

- グループ内打合せ
 - 今のディベートを通して、内容を思い出して整理しましょう。
 - 今回のディベートは、ジャッジをしません。でも、自分たちが一番好きだったと思うメリット・デメリットをあげましょう。
- グループ移動
 - GRITリーダーさんの指示にしたがって、各グループ肯定のみなさんは移動しましょう。
 - 移動できたら、いよいよディスカッション開始です！
 - 時間は先ほどと同じです。

- では、始めましょう。クリックしたら、スタートします。
- この次のスライドから自動で時間がスタートします。
- 30秒間・10秒間に音がなります
- 準備はいいですか?
 - 肯定側立論(2分)
 - 否定側立論(2分)
 - 相談タイム(2分)
 - 肯定側反駁(2分)
 - 否定側反駁(2分)
- では、スタート！(次のスライドからは自動で進みます)

終了

- 元のグループに戻ってください。簡単にうまいかどうかの報告をしてください。
- 他のチームのメリット・デメリット、どんな反駁をしたのかを報告してください。

ディスカッション

- ルールを作ろう
- 「あだ名が「いじめ」につながるようにするための具体的なルール」
- 明日から使えるルールを3つ以内で考えよう
 - できるだけ具体的に
 - 今日からでも自分たちが実践できるもの
 - 紙に書いて、朝のホワイトボードに掲げておく
- 最後に各グループ発表してください。

例えば

- (ビデオを見て、原簿あなさんが作った3か条)
- その手の風情にならなくて得える
- その手にあだ名を隠れる
- あだ名は優しい子につける
- どう思いますか?
- 友達・クラスメイトの人格、どうすれば守れるでしょうか?を考えたから、感想を記入してください。
- (提出の先生、時間とコメントあればお願いします)
- GRITリーダーさんありがとうございました！！

○生徒の感想

人を傷つけるあだ名はつけない。私のグループでは名前の省略ならOKとしていましたが、他班の発表から「何て呼べばいい?」と聞くのは良いなあと思いました。また、自分がOKでも、相手にとって辛いこともあると思うので、第3者の目線に立つことや、表情をしっかりと読み取れる人になった

いです。

⑭ 11/4 テーマ：環境 「EarthKAM プロジェクト」・「環境かるた」

ISS のデジタルカメラを地上から操作し、地球を撮影しその写真から地球について考えるプロジェクトである。その EarthKAM を疑似体験する授業を行うことで、地球の今を考える授業を行った。

進行は GRIT リーダーが行った。

EarthKAM の説明、EarthKAM のミッション・ISS についてのビデオを見た後、実際に EarthKAM プロジェクトが撮影した写真をもとにクイズを行った。

その中で宇宙から地球を見る視点を学び、地球全体のためにできる行動を考えた。さらに、大阪府が提供している環境カルタの絵札を見て、読み札をつくり、実際の読み札と見比べてみるということを行い、どう啓発するかを考えた。

○GRIT 用 PowerPoint : EarthKAM ・ 環境カルタ (抜粋)





○生徒の感想

(かるたを見て) 私は今までディポジットなるものを知らなかったもので、てっきりこの絵ではすでに地球ではバナナはもう育たなくなっていて、いくら金を積んでも無駄ということかと思ったら違ったので、今日新しいことを知ることができて良かったと思いました。

一人ひとりの日々の行動の積み重ねだと思うので、エアコンの設定温度やエコバッグなど、1つ1つ心がけていくことが大切だと感じました。

②⑩ 11/4 テーマ：平和 「平和のためにできること」

GRIT 平和最後の回では、2016年に国連で核兵器禁止条約に日本が反対をしたということから、そのことに「賛成」「反対」の立場の意見を読み、同時に12月に行われた「国連軍縮会議」の様子、「核廃絶を訴える高校生たち」とのビデオを見て、じぶんたちができることは何だろうかと考えた。

○GRIT 用 PowerPoint：平和のためにできること（抜粋）



○生徒の感想

ビデオの中にもあったように、日本は被爆国でもあり、アメリカに守られている国でもある、という非常に複雑な立場にあると思います。しかし、日本だからこそ言えることもあると思います。非核保有国と核保有国の溝を深めるのではなく、互いに意見を交わしあい、平和に進めるような世界になっていかなければならないと思いました。

世界中の高校生が平和について考えている様子を見ると、私も平和について考え、行動していこうと改めて決意することができました。また、ビデオを見てみると、世界中の人々と話し合うためには英語が重要だと感じたので、これからも語学に励んでいきたいと思っています。

②⑪ 11/11 テーマ：開発 「貿易ゲーム」

この日は貿易ゲームを通して、フェアトレードについて学ぶ時間とした。この日の進行は GRIT リーダーに依頼した。この GRIT は毎年好評を得ており、全員が大きな学びとしている。

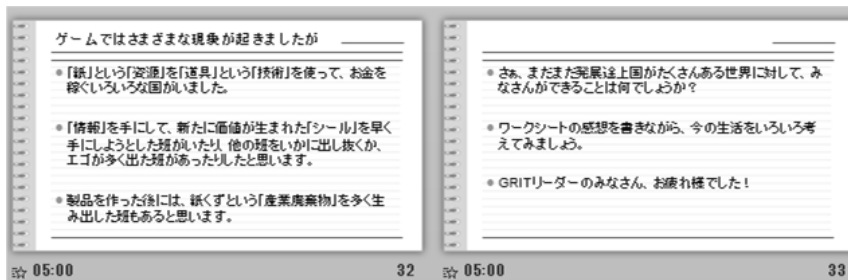
「フェアトレード」とは、公正な国際貿易のこと。途上国の原料や製品を、適正な価格で継続的な購入を通じて、立場の弱い人たちの自立と生活を改善することを目指す取り組みであることを理解するとともに、現実の国際社会では、経済的に豊かな力の強い国に有利な不公平・不公正な貿易が行

われており、貿易ゲームを通じて、世界の不公平な貿易の状況を学んだ。

さらに、2016年に来日したウルグアイのムヒカ元大統領の紹介ビデオとスピーチ動画を視聴した。このビデオは「世界で最も貧しい大統領」として知られており、資産の80%を寄付、個人資産は約18万円の車のみ、月に約10万円強で生活をされており、そのビデオを見て、開発の必要性、などを考えた。

○GRIT 用 PowerPoint：貿易ゲーム（抜粋）

GRIT 開発③④ 貿易ゲーム	GRIT 「開発」 ● 今回のGRITでは、ゲームを通して世界の仕組みについて考えてみたいと思います。 ● 今日の進行はGRITリーダーが行います。クラスみんなで協力して、GRITの成功につなげていきましょう。	貿易ゲーム！ ● さっそく、貿易ゲームを行いたいと思います。 ● GRITリーダーの指示でグループごとに分かれてください！ ● 必ず机上はきれいにしておいて移動してください。 ● 筆記用具のみを持参してください。 ● 机をグループ体制にしてください。								
05:00 1	05:00 2	05:00 3								
説明：ゲームの目的 ● グループに渡されたものだけを使って、できるだけ多くのお金を稼ぐことが目的です。 ● 渡されたもの以外（封筒の中以外のもの）を使うことはできません。もってきた筆記用具も使うことができません。（グループに道具の封筒を配ってください）封筒はスタートになるまで触れないでください。 ● お金を稼ぐには、紙を切って「製品」を作り「マーケット」で売ってください。	ルール ● 「製品」は、ハサミを使ってきれいに切らなければなりません。決められた大きさにしなければなりません。 ● 「マーケット」で「製品」を売るときは、必ず3枚1組でなければなりません。 ● 暴力、脅し、道具の強奪、盗みは禁止です！ ● 困ったことがあってもグループで相談して解決してください。 ● GRITリーダー・担任には、ゲーム中に相談はできません。 ● ゲームが何分経つかは発表しません。いきなり終わる可能性があります。	マーケットで売ることのできる製品一覧（3枚1組の値段） <table border="1"> <tr> <td>8cm×10cmの長方形</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>1辺 7cmの正三角形</td> <td>1500</td> </tr> <tr> <td>配布された大きさの 分度器の形</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>直径 7cmの円</td> <td>500</td> </tr> </table>	8cm×10cmの長方形	300	1辺 7cmの正三角形	1500	配布された大きさの 分度器の形	500	直径 7cmの円	500
8cm×10cmの長方形	300									
1辺 7cmの正三角形	1500									
配布された大きさの 分度器の形	500									
直径 7cmの円	500									
05:00 4	05:00 5	05:00 6								
● 説明は以上です。 ● 状況はどんどん変化します。配られたものの何が役に立つのかはわかりません。役に立たないものもあるかもしれません。 ● 最後まで気持ちよく頑張ってください！ ● さっそく始めようと思います。準備はいいですか？ ● ここで音がでるかチェックをします。次のスライドに進んでください	このスライドに進むときに音が出ましたか？ ● 音が出なければ、音が出るように設定してください。 ● 次のスライドに進んだら、カウントダウンのあと、ゲームがスタートします。いろんなことを考えて、できることをめいっぱいやってみてください。 ● あと自動でゲーム終了までスライドが進みます。PowerPointには触らないようにしてください。	では始めよう！ （音が出るようにしてください） 5 4 3 2 1 スタート！								
05:00 7	05:00 8	00:10 9								
各種の金額を発表してください！ ● 1位になった組おめでとうございます！ ● 次の時間、いろいろ振り返りをしていきたいと思います。 ● とりあえず休憩！（11:00まで） ● 休憩後、振り返り用紙を配布し、振り返り用紙を書いてください。（11:05まで）	各種の情報を発表 ● 組が最初から持っていたもの（紙の枚数、道具など） ● 自分のグループの勝敗、敗因（うまくいったポイント、うまくいかなかったポイント） ● （あれば）状況が変わったときに工夫したこと ● （あれば）他の組と交渉したときに苦労したこと、驚いたこと（こんな理不尽な交渉があったなど） ● 感想 ● 各組1分以内で発表してください。	状況の変化の確認 ● ゲーム中にどんな変化があったか確認してみましょう ・ 不平等な持ち物 ・ 長方形の集積 ・ 情報漏れ？どんな情報が流れてました？ ・ 長方形が集積するらしい ・ シールを貼ると集積するらしい ・ マーケットの買い ・ 途中で8・10組への援助 ・ 時間で回答無用で終わるマーケット								
05:00 25	05:00 26	05:00 27								
こんな組ありませんでしたか？ ・ 情報を手に入れて、シールという貴重な財産を安く手に入れようとした ・ 安く売った紙を高く売ろうとした ・ 他の組の様子を見て、情報がどんなものか推測した ・ 自分たちからの交渉は高圧的に行うのに、他からの交渉は一切無視 ・ 何をしたいのかわからず、他の組に言われたままに従ってしまっ ● これはいったいどういうことでしょうか？	各組でディスカッション ● 今日のゲームは現実社会をあらわしているとしたら、どのような現象をあらわしていると思いますか？ ● また、これは現実と違うと思うことはありますか？ ● また、ゲームの途中の変化や「紙」「道具」「結束」、途中で使われた「シール」などは一体どういうことを表しているのでしょうか？ ● ワークシートに書いたことをもとに、各組考えてみてください。（11:25には次のシートにうつってください）	ここで ● 昨年4月、南米ウルグアイのムヒカ元大統領が来日しました。 ● 世界一貧しい大統領と呼ばれた元大統領の2012年リオ会議でのスピーチを見たいと思います。（授業で一部見ているかもしれませんが、今のゲームをした自分たちの世界と見比べて、メモをとって振り返ってください）								
05:00 28	05:00 29	05:00 30								



○生徒の感想

（ビデオを見て）本当にその通りだと思いました。働いて、高いものを買うためにもっと働いて…という人生は、まさしく今の社会の様子です。今の文明を見直していく必要があると思いました。私も自分の生活を振り返って改めていきたいと思います。

今日のGRITは楽しい上にいろいろなことを考えるきっかけになりました。今の世界の様子は、本当に消費によって成り立ち、支配されていると思いました。協力して進められたので良かったです。

○ 12/16～2018/2/17 プレゼンテーション準備・発表

6人グループを作成し、1年間学んできたことをまとめ、学園生からの提言という形でまとめて、保護者の前で発表した。この発表では、寸劇・紙芝居・模造紙によるまとめ・パネルディスカッションなどの手法を使うことにより、どう発表したいことをまとめるのか、表現するのかを学んだ。



（保護者感想）

- ・一人一人、それぞれ役割があり、協力しあっていく姿が良かったです。テーマもよく、いろいろな発表があり、聞く側も学べたと思います。
- ・それぞれが考え、友の意見を聞いて学びあった成果を感じました。
- ・寸劇形式を盛り込んだプレゼンを楽しませていただきました。人前に出るのが苦手な人も一生懸命活き活きと取り組む姿に感動しました。

4.2 2年生 テーマ：「課題研究」

2年生のGRITではグループによる課題研究が行われた。今年度は1年間をかけて、課題研究を行うことにした。昨年度までは1学期と3学期にばらばらに行われていた課題研究を1年間としたため、より深くテーマを掘り下げ、自分達にできること、44期生（高校2年生）の一步が世界を変えるとの目的で発表を作成した。

4/15 課題研究立ち上げ

内容説明ののち、先輩たちの発表ビデオを見て、グループ分けを行った。1年間研究するテーマを考えた。昨年度までは創価大学研修の際に研究結果の発表を行っていたが、今年度は2月に結論を発表するために、研究計画を大学で発表することにした。スライドはフォーマットを準備し、それをもとに内容を深めるようにした。

GRIT課題研究 - GRIT課題研究とは - GRITで学んだ4分野について、1年間グループで研究を進めます。 2月の保護者会で完成し、各グループごとに発表をしてもらいます。 - ただ、発表が目的ではありません - 目的は、世界で起きている諸問題を解決する方法を考え、まとめることです。 - 答えのない問題を研究し、自分たち流の解決策を考え、提言としてまとめてみよう - まずは昨年先輩43期の発表を見てみよう。	現状の目標 - 創価大学研修における教授の前でのプレゼンを行います。 - 内容は研究計画書です。 - 調べようとしている問題はどのような問題か - どこに問題点があると考えているのか - 何をどうやって調べるのか - どんな文献を読むのか などです。 - どのような内容を考えるかは次回(5/6)ゆっくり説明します。
先輩(43期)からの研究開発のアドバイス1 - テーマ決めをしっかりとしないと、ぶれてしまうので、一番始めの、テーマをしっかりと考えたほうが良いと思う - まず最初に自分たちの伝えたいことを明確にしてから調べていく。 - やってるうちは大変なことの方が多く、めんどくさいと思うこともあると思うが、カッコつけずに必死でやれば、終わった後に自分の自信にもつながるので、しっかりと取り組んでほしい。 - やるなら徹底的にやる方が面白い！！	先輩(43期)からの研究開発のアドバイス2 - 一つ一つの調べることはなぜ調べているかなどが大事だと思った。 - 作業できる時間が少ないので、てきぱきするようにしてください - 自分が興味ないこと調べる方が面白い - 世界の問題の説明より自分たちの考えを言うべき - 最後の方にやる気を出しても、時間がないから、やるなら初めから本気で！でも、やってるうちに楽しくなっちゃうから、皆初めから本気で！
スケジュール 4月 グループ決め・テーマ設定 5月 テーマに関する現状調査・研究計画づくり 6月 創価大学研修 - 研究計画書発表 7月 フィールドワーク計画 - 夏休み 各自フィールドワーク 9月 フィールドワーク報告 10月 リサーチ 11月 考察 12月 完成 1月 発表準備 2月 発表(保護者会)	グループ決め・分野決め - 各クラスグループを作成してください。 8グループを作成してください。班長も決めてください - 各クラス2グループずつに「環境・開発・人権・平和」の4分野を決めてください。 4分野が決まったら、その分野に属するテーマにどんなものがあるのかを考えよう。1年間考えるテーマです。簡単に決めず、興味あるものを選ぶようにしよう。 - 今日決定するのではなく、どんなテーマがあるかの候補をたくさん出そう。 1週間調べてみたり、関連するニュースを見てみたり、関心を持って、5月6日のGRITの初めに決定しよう！

ワークシート内容：GRIT 課題研究ワークシート1（個人用）

関連するキーワードをたくさんあげてみよう・テーマに関する問いをたくさん書いていこう GRIT 課題研究ワークシート1（グループ提出用） 関連するキーワードリスト 参考文献一覧 問い一覧

5/6～6/3 リサーチ・問い作成・研究計画発表作成・リハーサル

研究計画発表を行うために、準備や考察をおこなった。6/3 にはリハーサルを行った。

ワークシート内容：GRIT 課題研究 研究計画書の項目

- ・題名 ・テーマ（テーマの説明）
- ・このテーマを選んだ理由、研究の目的・意義（なぜこのテーマを調べようと思うのか）
- ・そのテーマの背景・現状・リサーチ内容（今わかっていること：今一番詳しくできること）
- ・リサーチクエスチョン（この研究で一番明らかにしたい問い）
- ・（現在わからなくてさらに調べたいと思っていること）
- ・仮説（リサーチクエスチョンに対する答えの予想）
- ・調査手法（どうやって答えを探すか）
- ・フィールドワーク先
- ・参考資料（文献）・読む創立者の対談集

4月26日の新聞



- ・「関西創価高校生」が大阪大学で研究報告(2チーム)
- ・これは前回ビデオで見たGRITのグループが発表したもの
- ・ぜひ来年のこの舞台を目指して頑張ろう！

1

創価大学研修で発表すること

- ・研究計画
 - －タイトル
 - －キーワード
 - －背景
 - －研究の目的・意義
 - －リサーチクエスチョン(一番明らかにしたい問い・問題)
 - －仮説
 - －手法
 - ・フィールドワークを行う(インタビュー・施設(博物館など)訪問・実験)
 - －参考資料(文献) など
 - ・創立者の対談集を読んで考えること

2

今後の日程(予定)

- ・5/6(今日) リサーチ・問い作成
- ・(この間、LHRでの作成時間がある可能性ありますが、それぞれでリサーチをどんどん進めること)
- ・5/27 スライド作成・完成
- ・6/3 リハーサル

3

今日考えること(一覧)

1. テーマ決定
2. 現時点での状況・わかっていることをリサーチ
3. 参考文献・フィールドワーク先を探す
4. わかっていないこと、疑問点をリストアップする

4

1. 研究テーマを決める

- ・前回配布した参考となるテーマ一覧(classroom参照)、ニュースなどを調べ、グループ全員でテーマを考えよう
- ・世界で起きている問題で、なおかつ、自分自身の身の回りにも影響があること・自分が行動することによって解決に少しでもつながることがよい。
- ・また、例えばSDGsの17の目標と169項目の具体的な達成基準の1つを具体化できるようにするのもよいと思います。(17の目標と169の具体的な項目一覧はclassroomで配信します)

5

2. 現時点でわかっていることのリサーチ

- ・テーマに関わるキーワードをたくさんあげよう。個人であげたものをグループでシェアしよう。
- ・そのキーワードに関連することをしっかり調べよう。
- ・調べ学習ではないですが、知識がないと的外れな内容になります。ここが深くなればなるほど、よりよいものになります。
- ・調べながら、「これってどういうことだろう?」「これは本当なのか?」と考えていこう。
- ・例えば、「貧困」をテーマにしても、「貧困」とはどういうものか説明できるのか? 「貧困」とはだれが認めるのかを調べよう。
- ・ワークシートにどんどん書いて、まとめていこう(一人ずつ)
- ・ただし、GRITでの時間はあまりないので、各自でしっかり調べておこう。

6

3. 参考文献・フィールドワーク先を探そう(各自)

- 今回の課題研究においては、参考文献として創立者の対談集を1冊夏休みに読了し、その内容も含めて発表を2月に行います。
- そこでどの対談集を読むのか、また、他にもどの文献を調べるかを調べよう。
- また、できる限り夏休みにフィールドワークを行って発表できるように、どういふフィールドワークができるかを考えよう
ーただし、この内容はもっとリサーチをしないとわからないこともあるので、できる限りでかまわない。夏休み前までには考えよう。

7

4. わかっていないこと、疑問点をリストアップする

- 思いつくままテーマに関する疑問点、これから調べたいことをできるだけたくさんあげていこう。
ー調べればわかることでも、まずは疑問にしてあげよう
- classroomに視点の例をアップしています。参考にできるだけたくさん出そう。
- リストにあげた疑問文の中で最も自分たちが関心があったり、自分たちなりの答えを見つけてみたいものを選び出そう。
- 次回までに各自でしっかり調べてきてください。

8

6/8 創価大学研修 GRIT 発表

創価大学において8教室にわかれ、グループごとに担当教授の前で発表を行った。



7/19 課題研究夏休み前計画・創価大学研修振り返り

創価大学で担当教授からもらったアドバイスをジグソー法で共有し、夏休みの課題研究の調査、創立者の対談集の選択を行った。

GRIT課題研究

- それぞれでリサーチを進めていますでしょうか？
 - 忘れてしまっているグループもいませんか？
 - 年間を通してのグループワークです。意識をもって、情報をさがしましょう。
- 夏休みは大きく研究を進めるチャンス。
- 研究計画で考えていた計画を実行しよう！

1

夏休みに行くこと

- 各グループがインターネット・書籍での調査以外にできることを1つ決めてよう
 - インタビュー
 - 博物館など施設訪問
 - 実験・観察など
- 関連する創立者の対談集を1冊読もう
 - 9月2日 GRITで全員が発表を行う予定です。
 - (現代文の課題にもなっていると思います)
- もっと研究が深まるように、関連する書籍・研究を読んでいこう！

2

今日やること

- 1. ワークシートのチェックリストを見ながら、研究がどこまで進んでいるのか、進め方がうまくいっているのかチェックしよう。
- 2. 夏に読む対談集(1人1冊・グループごとに同じ)を決定し、「師子の館」から入って、スプレッドシートに入力
- 3. 夏休みに行く調査・探究活動(書籍などでのリサーチ以外)の計画を立てよう
 - どこへ行くのか ・誰のところへ行くのか ・誰が行くのか など

3

次回予定

- 9月2日 GRIT
 - 対談集ポスターの発表会(全員がジグソーで発表をする予定)
 - 夏の調査の報告会(グループ内で情報シェア)
 - 完成に向けての作戦会議
 - 内容をどんどん深めていけるようにしよう

4

ワークシート内容： 夏休み研究計画

1. チェックリストを見ながら、自分たちの研究の進捗状況を考えよう。
 - ☐ ①. 用いられてる言葉の定義は明確ですか？
 - ☐ ②. 研究テーマの現状を示すデータを示しているか？
 - ☐ ③. 関連する先行研究・事例を理解しているか？
 - ☐ ④. 研究目的（リサーチクエストとその仮説）は明確になっているか？
 - ☐ ⑤. リサーチクエストに取り組む意義を見いだせているか？
 - ☐ ⑥. 示されているものに不備はないか？
 - ☐ ⑦. 調査・実験は実行可能か？
 - ☐ ⑧. インターネット以外の文献調査ができているか？
 - ☐ ⑨. 根拠は明確になっているか？
2. 夏休みに読む対談集1冊を決め、classroom から入力しよう。
3. 夏休みの研究行動（書籍などでのリサーチ以外）の計画をたてよう。
 すること： 誰が行う： 準備に必要なもの： いつ行うのか： どうやって行うのか：
4. 夏休みに読む対談集以外の本のリストをあげ、分担をしよう。

9/2 GRIT 課題研究文献発表

課題研究のテーマに関連する創立者と海外の識者との対談集を読んでまとめた内容を発表し合いました。グループごとに7月に本を決め、グループごとに同じ本を読んだの発表だったが、それぞれの生徒によって感じるところが違うことに驚いていた。

その後グループで1つに発表をしぼり、その内容を他のグループ員も発表できるようにし、ジグソー法で再構成したグループでグループでの発表内容をさらに発表した。

今日の内容 ● お互いが作ったポスターの内容を発表して、各グループの対談集の内容を確認しよう ● グループで一番いいポスターを選び、そのポスターの内容を他のグループに全員が発表できるようにしよう ● グループを組み替えて、他のグループに発表 ● 他のグループの発表を聞いて、参考にしよう	グループ内発表 ● グループ内でお互いのポスターを発表しよう。 ● 一人2分半で発表しあって、全員が発表しよう ● ナンバー1ポスターを決めよう(～9:50) ● 2時間目はグループを混ぜて、そのナンバー1ポスターを見せながら、他のグループに対談集の内容を全員が発表してもらいます。 ● ナンバー1ポスターの内容を2分半で発表できるように内容をみんなで考えよう。(～10:05)
新グループへ移動し、発表 ● 新しいグループ(7～8人)に移動してください ● どのグループをスタートにするかは指示を聞いてください。 ● スタートしたグループから順番に次のグループを回っていきます。(タイミングは指示にしたがってください) ● 発表するグループ員がいない場合はポスターを読んでください。 ● ぜひ、質疑応答もしてください！ ● 発表開始！(1人2分半)(～10:35)	クラスナンバー1ポスター決定 ● もとのグループに戻り、他の人からこんなコメントがあったなどを共有してください。 ● 全員で投票して、クラスナンバー1ポスターを決定してください。(自分のグループ以外) ● 次回9月16日の1限で夏休みに調べたことを共有し、今後の方針を決めていきます。 ● 今後のGRIT日程や発表の日程などを16日に伝えます。 ● また、ポスターは現代文の宿題なので、全員分を回収してください。

9/16～10/28 GRIT 課題研究 振り返り・今後の考察、調査キックオフ

グループごとにあらためて課題研究のテーマ・目的・リサーチクエスト・仮説などを1枚にまとめ、それに自分たちでつっこみを入れ（疑問点をあげ）、論理的に正しいのか、表面的になっていないか、具体的かどうかを考えた。

10月には大学院生への中間報告に向けて、調査の結果わかっていることは何なのかをまとめる作業を行いました。文献リストや調査内容をまとめる中で、さらに調べなければならないこと、現状わかっていることは何かを考えた。

あらためて「課題研究」とは(言い換えると)

- 先人たちの研究の業績をふまえて、
—(できるかぎりたくさんの情報・知識を集めて)
- 自分たちが取り組むべき課題を見つけ
—(なぜ自分たちがこのテーマに取り組むのかを明確にし)
- 客観的なデータをもとに
—(自分たちの意見だけでなく、調査やフィールドワークなどを利用し)
- 自分自身の考察やアイデアなど新たな知見を創造・探究し
—(その結果として新たな課題解決の方法を考え、探し)
- 他者と共有して課題解決に貢献すること
—(わかったことを多くの人に伝えていくこと)

創立者の財源も
ここに入ります！

1

あらためて「課題研究」とは(言い換えると)

- 先人たちの研究の業績をふまえて、
—(できるかぎりたくさんの情報・知識を集めて)
- 自分たちが取り組むべき課題を見つけ
—(なぜ自分たちがこのテーマに取り組むのかを明確にし)
- 客観的なデータをもとに
—(自分たちの意見だけでなく、調査やフィールドワークなどを利用し)
- 自分自身の考察やアイデアなど新たな知見を創造・探究し
—(その結果として新たな課題解決の方法を考え、探し)
- 他者と共有して課題解決に貢献すること
—(わかったことを多くの人に伝えていくこと)

ここまでは創価
大学研究で探
わっている予定
→
できているかを取
りまとめよう
2学期最終にやる
べきはここ！
11月以降2学期
3学期

2

今後の予定

- 11月4日 自分たちの調べた内容を大学院生に説明し、アドバイスをもらいます
- 今やっている方向性が正しいのかどうかをアドバイスをもらおう予定です
- そのために準備できる時間は2時間です。
(10月14日・28日の土曜日1時間ずつ)
- そこで発表するのは、自分たちの課題研究がどういふものか、
どういふことを調べたかです。
その説明のための資料のもとを今日からつくっていきます。
- 基礎となる知識が足りなければ、リサーチをまっすはしっかりしよう！

3

今日やること(夏のリサーチを終えて)

- 今日は今後の課題研究を進めていくために、今までの自分たちの内容を確認していきたいと思います。
- 今後の予定を明確にし、よりよいものになるよう考えていきたいです。
- 自分たちの調べたことを共有し、そこからわかることを明らかにしていこう。
- 「こう思う」という意見ではなく、「これが多い」誰がみても同じ結論になること(できる限り)を明らかにしていこう
- そして、本当に正しいのかを自分たちでつっこんでいこう

4

セルフつっこみをいれよう

- 自分たちの課題研究の内容をまとめたら、チェック項目にチェックをつけよう
- もし、チェックが入らないところがあれば、そこはチェックがつけられるように変更しよう。
- そして、そのあと、自分たちの内容に自分たちでつっこみをいれよう
- 例えば、「本当にそういことがいえる？」「その資料正しいの？」などです。
- みんなでどんどん言い合って(思いついたことは全部言おう)、それも記入しておこう→そのつっこみにすべてこたえられるようにしよう

5

つっこみ内容例

- テーマ
 - テーマを説明することはできるか
 - 背景を説明することができるか
 - テーマが壮大すぎないか、専門的すぎないか(高校生で調べることができるか)
 - 言葉の定義は明確になっているか(人によって取り方が違うということになっていないか)
 - 社会に貢献できるものか
- 仮説
 - リサーチクエストの答えになっているか
 - 検証可能か
 - 他の仮説は考えられないか
- 調査結果
 - 仮説に関する内容になっているか
 - この結果で仮説が正しいかどうかを判断することができるか
- リサーチクエスト
 - テーマを深めることができる内容か
 - 検証できるのか
 - 具体的な質問になっているか
- おかしいところは修正していこう
- 足りない調査を進めていこう！

6

ところで

- そもそも課題研究なんでやってるんだろう？とってる人 いませんか？
- 「もう完成した！」から、やらなくても大丈夫と思ってる人、いませんか？

1

- この課題研究は、世界で起きている諸問題を自分たちで調べ、自分たちの力で解決に少しでも進めようというプログラムです。
- 答えのない問題を考えることは「なぜ学ぶのか？」という本質的なものにつながります。
- 世界の諸問題について、まだ知らないことはあると思います。→ぜひ今調べてる問題については、誰よりも(教員よりも)知っているようになってください。
- 問題を解決するために、自分たちにできることもあると思います。→今後、どうやって問題を解決するかを考えていきます。
- 課題研究で考えて、関西創価発の問題解決をつくっていきってください！

2

GRIT課題研究		組	班
○テーマなどをまとめた、そのテーマについてチェックをしよう 印刷されているチェック内容以外も自分たちで考えて確認しよう！		環境 人権	開発 平和
テーマ 			
☐ 高校生で調べることができる ☐ ☐			
☐ テーマがただの興味・関心ではなく、調べる目的がある ☐ ☐			
目的(なぜこのテーマを選んだのか) 			
☐ 社会に貢献することができる目的である ☐ ☐			
☐ リサーチクエスションが解決できれば、目的が達成できる ☐ ☐			
リサーチクエスション 			
☐ 少し調べれば答えが出る問いではない ☐ ☐			
☐ 仮説がリサーチクエスションの答え(自分たちが予想する)になっている			

仮説
☐ 他にも考えられる仮説に比べて、最も有力である ☐ ☐
☐ 仮説を検証する有効な調査がわかる ☐ ☐
調査・実験・研究方法
☐ 自分達に調査可能な方法になっている ☐ ☐
リサーチしてわかったこと(自分たちの意見ではなく、客観的事実) (裏面に書こう)
☐ 自分たちの都合のよいところ以外にも目を向けている ☐ ☐
☐ 考察するのに十分な調査結果がある ☐ ☐
考察(これからの作業)
自分たちが次回までにしなければならないこと

調べる能力は高いと思いました。情報を得る力がよかった。またプレゼンテーションのデザインは非常によかった。しかし、応用する力が非常に弱いように感じた。内容をまとめる力がまだこれからだと感じた。

- ・とても好意的に迎えていただき、気持ちよく話ことができました。積極的に質問もあり、良い発表を造ろうという意欲が感じられた。参考文献はもう少し読んでほしい。ネット検索だけで書いている班もあったので、読書のアドバイス、新聞の読み方をアドバイスさせていただきました。

11/11 振り返り・結論づくり

大学院生や担任のコメントのもと、内容をまとめ、結論づくりを開始した。

○ワークシート内容

GRIT課題研究 結論・提言を作ろう 組 班

○リサーチクエスト

○仮説

○結論 リサーチしてわかったのは○○である。(リサーチクエストの答え)

○結論の根拠 結論が○○なのは、...だからである。

○提言 ○○すれば、問題は解決する

○提言の根拠 提言を実行すると、問題解決するのは...だからである。

○提言の実行可能性 この提言は私たちがどうやって実現する

○提言の有効性の検証方法 この提言が有効なのはこうすれば確かめられる

○説明スライド内容

1. 今回つくる結論は

「○○ということがわかった」

「○○すればこの問題が解決できる」という提案

自分たちが「○○すれば」というものにしてみましょう

結論・提言には根拠を明記しましょう

「○○すれば」をどうやって自分たちで実現するか、さらに検証方法をしてみてください。

ワークシートを完成させよう

2. 「44期の小さな一歩が世界を変える！」

発表が終わったら、グループごとに前回の続きを考えよう。

12/16まで(冬休みを使うのも可)、何か1つ問題を変える行動をしてみよう。

自分たちが提案する行動を何かして見て、その成功・失敗というリアクションも最終発表に入れていこう。

行動を考え、いつ行うか、誰(できるだけ全員)が、どうやって行うか、どうやって結果をまとめるかを決めていこう。

11/21 大学院生アドバイス共有

各グループが大学院生からもらったアドバイスを他のグループにも共有するため5分間でまとめて

1分で発表してもらい、それをもとに他のグループも結論作りを考えた。

12/15 プレゼンテーション講座

株式会社 GOODEARTH 藤原さんによるプレゼンテーション講座を開催した。

その場では希望する2グループが全体の前で発表を行い、プレゼンテーションの仕方、スライドの内容について、コメントをしていただいた。その後、クラスに戻って準備を行ったところに藤原さんも入っていただき、アドバイスをしていただいた。



12/15～1/20 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を開始した。

○その際、気を付けるように伝えたポイント

- ・スライドを作り始める前に、何がわかったのか、何を伝えるのかの準備をしっかりしよう（いきなりスライド作成スタートではなく、準備！）
- ・テーマ・リサーチクエスチョン・仮説・リサーチ・考察・結論をまとめよう
- ・「44期の小さな一歩が世界を変える」：何か起こした行動を記述し、提言をまとめよう
- ・自分たちのかかげたテーマがSDGs 17項目のどれと関連するのか（1つじゃなくても可）をプレゼンの最初に書くようにしよう

1/20・24 分野別プレゼンテーション

環境・開発・人権・平和の4分野をそれぞれ2つにわけた8グループごとに集まり、プレゼンテーションを行った。それぞれのグループに対し、他のグループから質問やコメントを伝え、ブラッシュアップを行った。

2/3 大学院生へのプレゼンテーション

前回、各グループにコメントをくれた大学院生が再度クラスに入ってくださり（別の大学院生のクラスもあり）、ブラッシュアップを行った。今回は、各グループがリハーサルのつもりでクラス全員の前で発表を行い、クラスメイトからの質疑応答と大学院生からの質疑・コメントがあった。発表に対しての姿勢、最後の結論の矛盾点など効果的なアドバイスがあった。クラスメイトからも、するどい指摘があり、最後の発表に向け、どう準備をするかを検討した。

（大学院生感想）

- ・発表のレベル（内容やパフォーマンス）が前回より向上していて成長のはやさを感じました。クラス内で質疑応答が非常に活発に行われていたことも、続けていくとよいと思いました。自発性や議

論の力・経験も身に着けられると思います。自分の考えと既存の考えが明確に区別されていない班もあったので、既存なものをよく学ぶことが大切だとアドバイスしました。

- ・前回のコメントを覚えてくれていたのか、コメント通りに直してくれている班が多かったのが、非常にうれしかったです。まだまだこれからの班も、何とかしようと頑張っているようだったので、さらにブラッシュアップできるのではないかと思います。時間が限られていたので、もう少しコメントしてあげたいと思った班もありました。

2/7・14 ポスター作成

大学院生への発表が終わり、結論が確定したので、ポスター（模造紙1枚）を作成した。また、発表に向け、グループごとに練習を行った。

2/17 課題研究プレゼンテーション

クラスごとに各グループが8分の発表時間で保護者を対象にプレゼンテーションを行った。google slideを使いながら、途中で寸劇を挟んで、具体例を演じてみたり、自分たちが実験した様子を動画として紹介したり、意見を広めるためにステッカーを配布したりと工夫あふれる発表となった。今回は、発表は原稿を見ないで行うという指示があったので、それぞれが準備をしっかりと行い、素晴らしい発表になった。廊下には3月に行う、1年生向けのポスターを掲示した。



（保護者感想）

- ・素朴な疑問から世界的な大きな課題へと展開しており、高校生らしい純粋な発想で自分たちに今できることを考え、果敢に行動していて、感動しました。
- ・国連のSDGsに大変強く関心を持っています。生徒の発表は、よく調べ、よく考えており、示唆に富んでいました。
- ・各班の課題研究発表は視点もユニークで興味深く聞かせてもらいました。高校生ならではの具体的な提案など勉強になりました。他民族、他文化など他者に目を向け、自分のこととして考えていくGRITに感動しました。

2/24 2017年度SGH最終研究発表会

「環境」「開発」「人権」「平和」の4テーマの16グループの中から、担任などの推薦により、1グループを選び、そのグループが最終研究発表会で2ブースに分かれて発表を行った。選抜されたグループに対しては、SGH委員会の教員、学年の教員、管理職の前で2度プレゼンテーションを行い、よりよい発表になるよう鋭い指摘と、改善案のアドバイスがあった。当日朝まで必死に準備を行い、4

グループともに大きな改善ができ、素晴らしい発表を行った。参加者からも質疑・コメントをいただき、今後の活動の参考となり、学びがより深まった。



(参加者感想)

- ・よく調べ、よくまとめられているのも素晴らしかったのですが、何よりも生徒の皆さんが、堂々と自信をもって発表している姿に感動しました。(大阪府内私立学校)
- ・身近な課題に対して試行と振り返りの繰り返しにより、理解が深まり、もっと学びたいという意欲を一層高めるというサイクルの中での学びになっていることがわかりました。生徒が進んで楽しく実践しているのが素晴らしかったです。(大阪府外私立学校)
- ・環境と人権のグループの発表を拝聴させていただきました。両グループともテーマ設定から提言までまとまりのある高校生の考える実現可能な案として素晴らしいものでした。また、発表後、生徒に質問させていただいたのですが、1つのテーマを多角的に研究されていることがよくわかる解答だった感動しました。(大阪府外公立学校)

3/8 課題研究ポスターセッション

1年間研究した内容を模造紙1枚にまとめたポスターを使い、1年生に向けてポスターセッションを開催した。1年生が指定されたグループとタイトルを見て行ってみたいグループを訪れ、5分の発表と3分の質疑応答を4回行った。2年生にとっては1年間のまとめの発表であり、1年生にとっては、来年度1年間発表を行う概要をつかむことができた。



(感想)

- ・1年生が真剣に聞いていたので、緊張した。1年生からの質問が少なかったから、質問をもらえるような発表にしたい。見ていた先生からもアドバイスをもらえたから、それを生かしたい。(男子)
- ・1年生も2年生もうなずきながら聞いてくれて、いろいろ調べてポスターを作った甲斐があったとうれしくなりました。違う班の違う分野の発表も見れたので楽しかったです。(女子)

- ・私たちの班は、多くの人に広めることが目的なので、多くの人に発表を聞いてもらえてとても良かったです。1年生にも熱心に聞いてくれ、質問もしてくれたので、よかったなと思います。(女子)
(テーマ一覧)

高校44期生 GRIT課題研究 タイトル一覧

高校2年生では、グローバルイシューに関する研究を深めて、「答えのない」問題に対する解決策の提言に挑戦します。全員が4分野に分かれて課題研究を進め、創大研修や大学院生とのセッション等で磨きをかけて、3学期の授業公開で発表。さらに代表グループはSGH最終研究発表会で、全国から来校された方々に発表しました。

本日のポスターセッションは、各グループの課題研究を1枚のポスターにまとめて発表するものです。1年生の皆さんが来年度のイメージを持つことで、より素晴らしい課題研究をしてもらえれば幸いです。

Aグループ(1回め11:05～ & 3回め11:25～)

環境	1A	アグボグブローシー	人権	1A	いじめによる人権侵害
	2A	インドの水を救い隊		2A	男性差別
	3A	フードロス		3A	ペットの殺処分
	4A	エルニーニョ現象		4A	性の多様性
	5A	森林破壊		5A	非識字率とノンフォーマル教育
	6A	日本の生ゴミの減量とリサイクル		6A	女性専用車は差別じゃない
	7A	食品ロス削減に向けてのドギーバッグ導入		7A	日本と移民問題
	8A	ごみ問題		8A	自傷行為
開発	1A	震災復興	平和	1A	テロの脅威
	2A	靴の重要性		2A	テロの脅威
	3A	洋服の大量廃棄問題		3A	児童労働
	4A	フードロス		4A	こども兵
	5A	命をくれる水、命を奪う水		5A	ONE BOOK 1冊の本が世界を変える
	6A	日本を環境先進国に		6A	犯罪の減少に向けて
	7A	乳幼児死亡率の削減		7A	いじめ
	8A	虫歯に蝕まれないために		8A	今一番世間を騒がしている国

Bグループ(2回め11:15～ & 4回め11:35～)

環境	1B	捨てる方法	人権	1B	宗教への偏見
	2B	LIFE ON LAND		2B	難民を減らすために
	3B	光らない蛍と実らない稲		3B	日本のLGBT
	4B	侵略的外来種との共存		4B	日本の教育とLGBT
	5B	エコバッグと環境問題		5B	同性婚
	6B	バングラデシュの地下水問題		6B	LGBTについて
	7B	We must reduce waste		7B	発展途上国の人権
	8B	環境教育		8B	先住民の人権
開発	1B	発展途上国の水問題	平和	1B	核廃絶
	2B	文房具の再利用		2B	テロの被害を防ぐには
	3B	カレーライスからみる食の現状		3B	ステルス紛争
	4B	食料保存と飢餓		4B	平均寿命の相互性
	5B	捨てるな残飯！～学校現場での取り組みを考える～		5B	足元から広がる笑顔
	6B	世界の水問題		6B	オリンピックで見るテロ問題
	7B	バングラデシュの水問題		7B	尖閣諸島は誰のもの？
	8B	No money No study?		8B	メディアとわたしたち

(代表グループスライド：テーマ「人権」LGBTについて)

GRIT課題研究「人権」 LGBTについて

今井 宇野木 大堀
鈴木 播磨 尾藤

1

LGBTとは

L→レズビアン
G→ゲイ
B→バイセクシュアル
T→トランスジェンダー



LGBTのシンボル→レインボーフラッグ

2/20

SDGsとの関連

5 ジェンダー平等を
実現しよう



10 人や国の不平等を
なくそう



16 平和と公正を
すべての人に



3/20

このテーマを選んだ理由

1. LGBTと人権の関係への興味
2. LGBTに関する現状
3. LGBTが何故人権問題なのか

4/20

リサーチクエスチョン

- 何故問題として取り上げられているのか
- 皆の意見は？意識は？
- 日本でできる、LGBTの方々の過ごしにくい社会の改善方法は？

5/20

仮説

事実と現状を知ってもらうことが、
差別をなくす第一歩である。

6/20

研究の流れ

- 今ある差別や問題をリサーチ
- アンケートを同世代で実施、意識調査を行う
- 様々な団体を参考に自分たちに出来ることをリサーチ
- 実際に声を聞く

7/20

数値で見る現状 in 日本

13人に1人がLGBT
→アンケートをとってみた

7.6% = 13人に1人

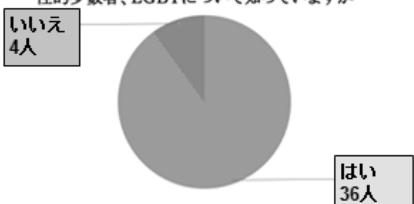


(2015年電通ダイバーシティラボ調べ)

8/20

アンケート結果

性的少数者、LGBTについて知っていますか

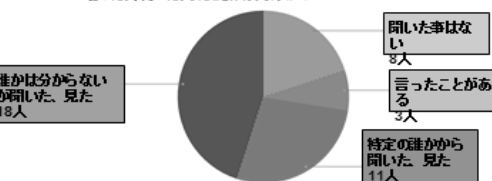


いいえ 4人
はい 36人

9/20

アンケート結果

ゲイ、レズビアン等の性的少数者に関する冗談やからかいを
言ったり、聞いたりしたことはありますか？



聞いた事はない 8人
言ったことがある 3人
特定の誰かから聞いた。見た 11人

10/20

教育現場～書籍「LGBTってなんだろう？」より

- 自分の性別や性傾向に違和感を持ち始めるのは、中学生くらいから
→ 中学、高校での理解が重要
- 子どもを傷つける→ 日常の会話、学校行事、知識不足
- 自殺未遂者の数→ 約5倍

学校教育での同性愛に関する情報の取扱い状況

● 授業で取り上げる ● 授業で取り上げるが、生徒の理解が不十分 ● 授業で取り上げるが、生徒の理解が不十分



11/20

☆

11

結論

- L G B T と差別の関係があるということを知ってもらうだけでなく、傷付く人がいることを知ってもらう必要がある
- 興味が無いわけではなく、手が出しにくい難しいものである

12/20

12

高校で問題となること
性別の記載 性差診断 更衣室の少なさ トイレの多さ
授業の改革 制服、水着の自由化 一人称
図書館にLGBT関連の本 いじめ 学生サークル 宗教の違い
教育者の知識不足 教科書の吟味

13/20

13

関西創価高校でもできそうなこと

- 制服組み合わせ自由化



- 性別を問わない記載 ex) 出席簿、生徒手帳

5. 男女交際
学園生として、品位を傷つける行動は厳禁にしてほしい。

14/20

14

関西創価高校でもできそうなこと

- だれでもトイレの設置



- LGBTを学ぶ授業を実施



15/20

15

今の私たちにできること

- 図書館の本をリクエストで増やす！
- L G B T を知り、支援することを示すステッカーを作り、広める！



16/20

16

ステッカーについて

ポイント→虹色である、メッセージ

目的→L G B T に関心をむける

効果→皆の意識を向ける、知っていることをアピールできる



17/20

17

提言

人によって価値観や感じ方は様々。
様々な人がいるということを理解した上で
目の前の一人を尊重し大切にする。

18/20

18

参考文献

早稲田ウィークリーより？ (高橋真実、花野みゆみ、中島美穂、今田美穂氏等)

「好き」の？がわかる本 (高橋真実氏等)

<http://www.amazon.com/dp/B01LH6H0PL> (Amazon 掲載)

<https://www.asahi.com/articles/ASE1H6H0PL1HUTE000P.html> (朝日新聞 2017)

<https://www.asahi.com/articles/ASE1H6H0PL1HUTE000P.html> (朝日新聞 2017)

<https://www.asahi.com/articles/ASE1H6H0PL1HUTE000P.html> (朝日新聞 2017)

19/20

19

画像の出典

<http://www.courtesy.jp/entry/163263559.html> (2) なんでもレインボーフラッグとLGBTな？レインボーにまつわるエピソードより

<https://goo.gl/2U052> (3) 国府総合センターより

<https://goo.gl/2U052> (16) Amazon より

<https://www.asahi.com/articles/ASE1H6H0PL1HUTE000P.html> (14) 朝日新聞より

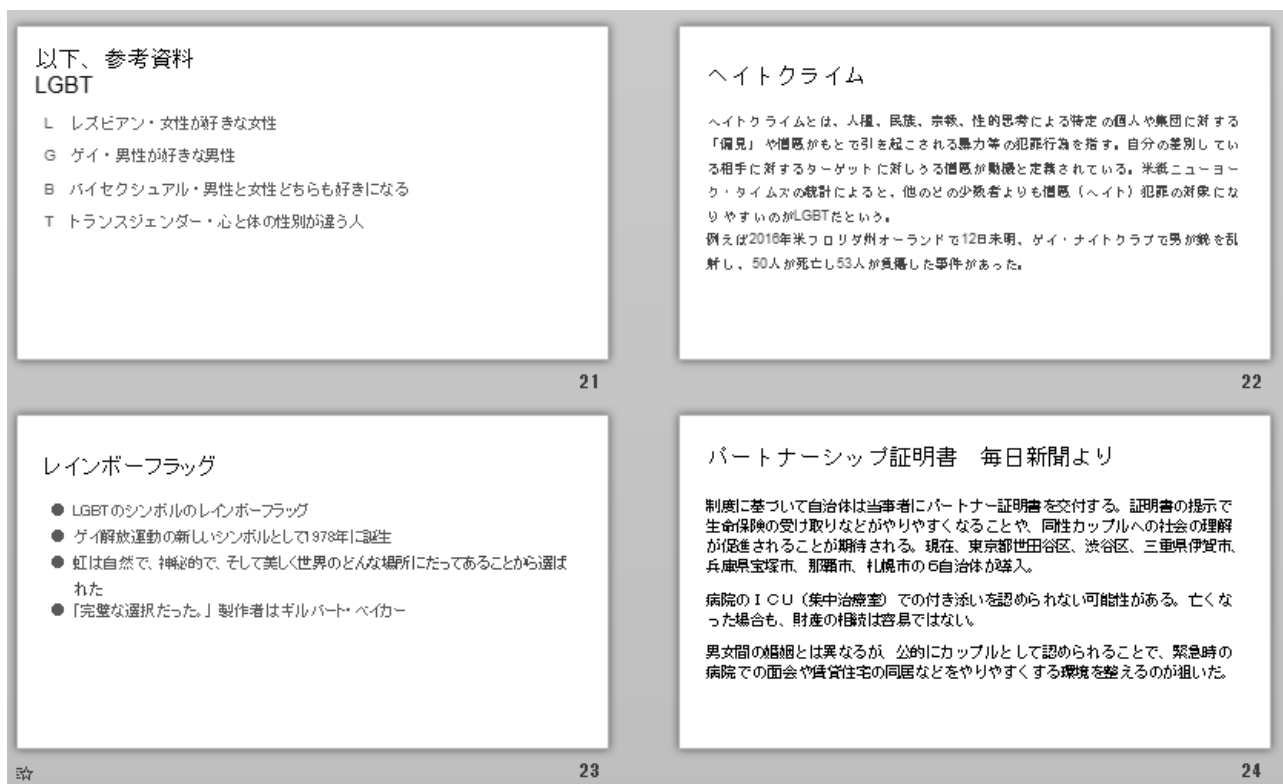
<http://www.asahi.com/articles/ASE1H6H0PL1HUTE000P.html> (14) sonnet ブログより 朝陽のやつ

<http://www.asahi.com/articles/ASE1H6H0PL1HUTE000P.html> (15) Keep it real より 虹色の旗でもトイレ

<http://www.asahi.com/articles/ASE1H6H0PL1HUTE000P.html> (15) GIDInfo より

20/20

20



<後輩へのアドバイス>

- ・毎時間自分の考えを持てば、自分の様々な能力が上がると思う。できれば友達と意見交換とかやれば考え方がかなり広がると思います！あと、リサーチや発表準備は早め早めを意識した方がいいと思います"
- ・世界のことをこんなに長い期間で勉強することはなかなかない機会なので嫌がらずやってみてください。
- ・人のために、世界のために自分が何をしてあげられるかを常に念頭に置いてリサーチを進めると、基盤が落ち着いているのでしっかりと結論まで至ることができると思います。仲間と協力しながら、一年かけてじっくりと良いものをつくってください。
- ・ネットで検索かけたら一番上に出るようなものは、すでに色々調べられてるものだから、それをテーマにして研究しても、そのサイトをまとめた研究発表になりかねないので、みんなが知らなさそうなことを研究するべき
- ・課題研究やプレゼンは正直めちゃくちゃ大変で、周りの友達の中にめんどくさく感じてしまったり、否定的になってしまう子も出てくると思います！でも、そんな子たちも巻き込んで一緒に考えられれば、巻き込もうと頑張って行動すれば必ず自分自身を成長させてくれるようになります！

4.3 3年生 テーマ：「模擬国連」「論文・英語サマリー」

〇4/15・5/6 テーマ：平和「核軍縮交渉シミュレーション」

模擬国連を行うにあたり、昨年度までに引き続き核軍縮交渉シミュレーションを行った。生徒を各クラス12のグループにわけ、架空の国という設定で、模擬国連風の交渉を行った。広島女学院高等学校の教材を教えていただき、時間数などにアレンジを加え、授業をさせていただいた。

12のグループにはそれぞれの立場と指令が配られ、自分たちが果たしたい目的が示される。それを利用し、交渉と作戦をたてて交渉していく。

クラスによっては、1国の力が強く、交渉をリードするところがあれば、同盟を組んで、交渉を行ったクラスもあった。

進行の様子などは昨年度報告書を参考にしてください。

○模擬国連（日程）

議題『ゼロハンガーを目指す食料流通システムの構築』

5月27日（2時間）立ち上げ作業

1時間目 TV放送システムを使って学年の生徒に説明

模擬国連とは ②前議長からの激励 ③模擬国連部によるプレゼンテーション

2時間目 国決め、ポジションペーパーのリサーチ開始

6月24日（2時間） リサーチ、クローズ検討

7月18日（1時間） クローズ検討

9月2日（1時間） 模擬国連講演 国連 WFP 協会 岡田 千絵さん（関西創価高校27期卒業生）

9月16日（1時間）クローズ（条項）自国案完成

10月14日（2時間）クラス討議（ブロックミーティング）

10月20日（2.5時間）JICA 出前講座

10月28日（2時間）講堂にて学年で模擬国連1回目

11月4日（1時間）ワーキングペーパーブラッシュアップ（他国の情報整理）

11月11日（2時間）講堂にて学年で模擬国連2回目（決議）

○（配布資料）模擬国連の用語

・着席討議（インフォーマルディベート）
各国大使が着席したまま、他国への質問や、話し合いを行うこと。

・ロビー活動（非着席動議、コーカス）
全ての大使はこの間に席を立って移動し、他国の大使と自由に交渉を行うことができる。

・モーション（動議）
会議の進め方に関する提案のこと。着席討議やロビー活動を行いたい時に、モーションをかけます。動議をかける際は、”motion!”と大きい声で言いながら、自国のプラカードを高く上げて下さい。

・クローズ
関連するいくつかのクローズが集まって、決議案が作られる。

・サマリー（文言）
各国大使の主張を反映した文章のこと。提案する政策に対しての現状や理想などを書く。

・ワーキングペーパー（WP）
各国大使が自国の主張を記述し、議場に公表するもの。クローズを集めたものであり、決議案の草案となる。

・スポンサー
決議案の提案国。決議案に記載された文言に対して説明責任を負う。

・決議案(DR ドラフトレゾリューション)
各国の大使の主張を文言化して記載したもの。

・修正案（アmendメント）
決議案の文言に変更、削除を加えたもの。修正案には、提案国すべての支持を得た「友好修正案」と全提案国の支持を得てない「非友好修正案」がある。

・アウトオブアジェンダ
議題との関連性がないと判断されるもの。

Motion で希望できることは第一回目の会議では3つあります。

①着席討議 (informal debate)

②ロビー活動 (caucus)

③ワーキングペーパーの紹介

議長＝ Madam Chair

各国大使＝大使

①着席討議 (informal debate)

MC: それでは動議をとっていきます。Are there any motion?

大使: Motion! (ここでプラカードをあげて議長にアピールしてください)

MC: Country ○○ (プラカードをあげてくれた国の中から、1カ国当てます)

大使: Thank you, Madam Chair.

We would like to move for the informal debate for △△ minutes.

(○○国は△△分間の着席討議の開催を希望します)

MC: 動議が提出されたので、△△分間の着席討議を開催します。

質問したい国は Chair! と言って、プラカードをあげてください。

大使: Chair! (ここでプラカードをあげて議長にアピールしてください)

MC: Country ○○ (プラカードをあげてくれた国の中から、1カ国当てます)

大使: Thank you, Madam Chair.

○○国は□□国のクローズに質問があります。(ここで質問してください)

Thank you. (質問し終わったら、Thank you と言ってください)

大使: Chair! (ここでプラカードをあげて議長にアピールしてください)

☆質問していた大使が Thank you と言い終わった瞬間に、

他の国は Chair って言い始めてください。

②ロビー活動 (caucus)

MC: それでは動議をとっていきます。Are there any motion?

大使: Motion! (ここでプラカードをあげて議長にアピールしてください)

MC: Country ○○ (プラカードをあげてくれた国の中から、1カ国当てます)

大使: Thank you, Madam Chair.

We would like to move for the caucus for △△ minutes.

(○○国は△△分間のロビー活動の開催を希望します)

MC: 動議が提出されたので、△△分間のロビー討議を開催します。

③ワーキングペーパーの紹介

MC: それでは動議をとっていきます。Are there any motion?

大使: Motion! (ここでプラカードをあげて議長にアピールしてください)

MC: Country ○○ (プラカードをあげてくれた国の中から、1カ国当てます)

大使: Thank you, Madam Chair.

We would like to submit our working paper officially to the floor.

(○○国はワーキングペーパーを公式に議場に提出することを希望します)

MC: ○○国が WP の提出を希望しました。○○国は△分間で WP の説明をしてください。

○模擬国連説明

Outline

1. 学年編成 (担当国分け)
2. 議題について
3. 問題の現状
4. 一学期の予定

学年編成

- ・ 3、4人で1カ国を担当します
- ・ 1クラスで約9~12カ国
→ 学年全体で92カ国

<議題>
ゼロハンガーを目指す食料流通システムの構築
Establishing a food distribution system towards Zero Hunger

ゼロハンガーを目指す食料流通システムってなに?
→ 世界の飢餓問題を解決するために、食料が生産地から消費者に移る過程を見直し、安全で一人もれなく食料が行き渡るシステムのこと!

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

CURRENT ISSUE



2017 関西創価高校 SGH 模擬国連 国割り

1組	2組	3組	4組
西アジア	東・東南アジア	東欧	北中米
1 サウジアラビア	1 日本	1 ブルガリア	1 アメリカ
2 イスラエル	2 中国	2 チェコ	2 カナダ
3 カタール	3 韓国	3 ハンガリー	3 メキシコ
4 ヨルダン	4 モンゴル	4 ポーランド	4 コスタリカ
5 シリア	5 インドネシア	5 ロシア	5 ジャマイカ
6 アゼルバイジャン	6 インド	6 ルーマニア	6 ハイチ
7 トルコ	7 タイ	7 ウクライナ	7 キューバ
8 イラク	8 ベトナム	8 スロバキア	8 パナマ
9 イラン	9 シンガポール	9 セルビア	9 ホンジュラス
10 アラブ首長国連邦	10 ミャンマー	10 モンテネグロ	10 グアテマラ
11 パーレーン	11 パキスタン	11 ラトビア	11 ニカラグア
12 レバノン	12 マレーシア	12 エストニア	12 ドミニカ共和国
12ヶ国	12ヶ国	12ヶ国	12ヶ国
5組	6組	7組	8組
アフリカ	西欧	オセアニア	南米
1 ケニア	1 イギリス	1 オーストラリア	1 ブラジル
2 タンザニア	2 フランス	2 ニュージーランド	2 アルゼンチン
3 ルワンダ	3 スペイン	3 フィジー	3 コロンビア
4 南アフリカ	4 イタリア	4 サモア	4 エクアドル
5 ナミビア	5 ドイツ	5 パナマ	5 パラグアイ
6 ギニア	6 オーストリア	6 キリバス	6 ウルグアイ
7 セネガル	7 ギリシャ	7 パプアニューギニア	7 ペルー
8 シエラレオネ	8 ベルギー	8 ミクロネシア連邦	8 チリ
9 ナイジェリア	9 オランダ	9 トンガ	9 ボリビア
10 エジプト	10 スウェーデン		10 エルサルバドル
11 カメルーン	11 デンマーク		11 ガイアナ
12 ザンビア			12 スリナム
12ヶ国	11ヶ国	9ヶ国	12ヶ国

学年合計・・・92ヶ国！

○ 10/14 クラス討議資料

【目的】

- ①地域(クラス)ごとにクローズの共有点を見つけ出し、その地域にどのような問題点があるか知る
 - ②地域(クラス)ごとのクローズを作成し、その地域の問題点の共通認識を持つ
- 20日(金)、28日(土)に行う『カンスピ(プレゼン)』の準備をする

【準備】

当日（14日（土））までに1国、2分～3分のクローズスピーチを作成しておく！

【タイムスケジュール】

タイムスケジュールは目安です。各クラスで調整してください！

10：00～ 各国2分から3分のクローズスピーチ

※だいたいこれで2限目が終わるかと考えています。各クラス、切りのいいところで

10分間の休憩を挟んでください。（50分のチャイムにとらわれなくていいです）

11：00～11：20（約20分間程度）ロビー活動

似ているクローズを持っている国同士で集まって、クローズをまとめていく。

（クラス内で何グループ作ってもOK、極力クローズは新しくできたグループで一つにまとめる）

11：20～11：30（約10分間程度）着席討議

それぞれのグループでできたクローズを発表する

11：30～11：40（約10分間程度）最終ロビー活動

グループ同士で話し合い、クラスクローズをできるだけまとめる

11：40～11：50（約10分間程度）最終決議

クラスクローズを採決し、決定する！

※何個でもいいが、あまり多くならないように！（目安は3個前後）

※地域クローズを発表する人、パワーポイント作成する人を決めておいてください！

20日金曜日、28日土曜日に発表してもらいます

○ 地域クローズ抜粋

8組 南米	最終提出クローズ①
エルサルバドル	幹線道路、地方都市の拡張・充実化
ガイアナ	高い食料自給率を生かした食料輸出拡大(主に北中南米へ)
ブラジル	先進国を加えた貿易協定の制定(関税の交渉含む)
コロンビア	アジア太平洋地域とのFTA締結
アルゼンチン	先進国の空輸の許可
ウルグアイ	輸送インフラ（河川）の整備を近隣国（先進国）と連携
スリナム	インフラ(道路の整備等)を整備するために先進国に技術援助を要求します。
ペルー	インフラの整備(主に交通整備) 先進国に技術支援を要求
エクアドル	食料自給率すら満足に分かっていない
チリ	アジア諸国に対し魚介類、果物などの食料資源を輸出する際の食料保存法の技術確立したい。そのための技術者の10年間の派遣、及び財政支援を要求する。
ボリビア	隣国の流通路ではなく、アンデス山脈を経由する流通路を確保したい。そのためにトンネル開通技術の持つ技術者を10年間派遣すること、トンネル開通の財政支援をすることを求める。
パラグアイ	南米全体で、穀物の取引の国際規約等を制定し、各国の農業利益が、国内に還元できるシステム作りを推進していきたい。

○ 国連総会 1 日目の流れ

【国連総会 1 日目を迎えるまでの状況】

- ・地域別クローズ案が完成している。
- ・地域別クローズに含まれているいないにかかわらず、自国として実現させたい最終クローズ案が1つ決定している。

【国連総会 1 日目の目標】

- ・各地域クローズを出発点として、ワーキングペーパー（WP）を完成させ、これを提出すること。
＜ワーキングペーパーとは＞
- ・国連総会 2 日目に採決にかける決議案の原案のこと。

- ・各国大使が自国の主張に関しての意見を記述し、議場に公表するもの。
- ・互いに矛盾しない複数のクローズ（条文）を含み、議題を包括的に解決に導くことのできる総合的な対策案となっているもの。

＜ワーキングペーパーの提出条件＞

- ・地域にかかわらず 18 カ国以上がスポンサー（共同提案国）となっていること。
- ・1つの国は、いずれか1つの WP のスポンサーにしかねれない。

＜ワーキングペーパー提出までの流れ＞

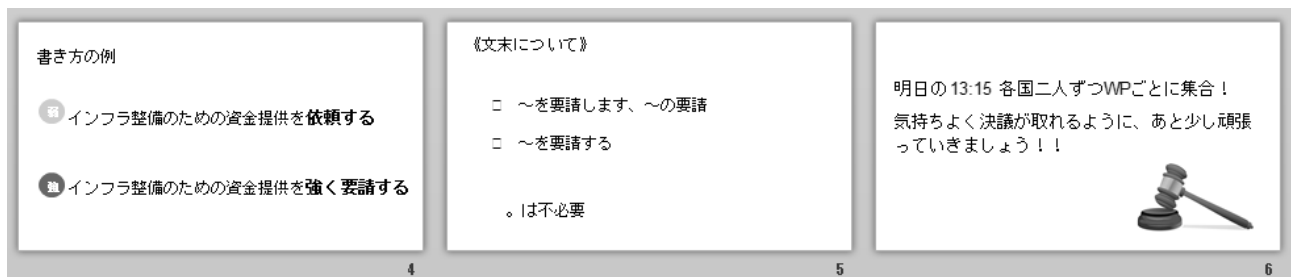
- ・トレニア 2 台の上に MacBook を 6 台配置したワーキングブースを、8 カ所設置する。
- ・WP 提出を目指すグループは、議長団に申請してワーキングブースを 1 つ借りる。
- ・Google ドキュメント文書として WP の作成を開始。（まずはサマリーから）
- ・WP の冒頭部分に、その時点でスポンサーになっている国のリストを明記する。
- ・WP のサマリーを iPad で提示しながら交渉を進め、スポンサー国を集める。
- ・スポンサー国の大使を、WP ドキュメントの共同編集者として招待する。
- ・WP 提出締め切りまでに、スポンサー各国の大使と協議しながらサマリーを具体的な条文としてまとめていく。
- ・WP 条文化の過程で、当初のスポンサー国が抜けて他の WP グループに移動することも可。脱退する国は、その旨を WP グループの中心国大使に宣言し、WP のスポンサーリストから外してもらうこと。
- ・WP 作成途中で、スポンサーが集まりそうにないグループは、WP 提出を断念してもよい。その時点でワーキングブースを離れ、議長団にグループの解散を宣言する。また、所属していた各国は、自国の判断に基づき、他グループとの交渉を開始できる。
- ・できあがった WP は、スポンサーリストに 18 カ国以上あることを確認した上で、全体で共有される Google ドライブ上にアップし、公開する。
- ・WP のドキュメントが公開された時点をもって、WP の提出とみなす。

【Time Schedule】

- 10:00～ 2、7 組移動開始 ※各国は、待ち時間を使って最終打ち合わせを行っておくこと
- 10:05～ 3、6 組移動開始
- 10:10～ 4、5 組移動開始
- 10:15～ 1、8 組移動開始
- ～10:30 集合完了
- 10:30～11:10 地域クローズ基調講演（各地域 5 分以内）
- 11:10～11:20 休憩（講堂内）
- 11:20～11:30 会議の進め方の確認
- 11:30～11:35 会議の開会宣言、出席確認（ロールコール）
- 11:35～12:30 討議（非公式討議＝ロビー活動）開始
- 12:30～12:40 ワーキングペーパー提出締切、提出された WP の確認・タイトル読み上げ、会議の閉会宣言

○最終徹底事項

WP ワーキングペーパー ・ WP = 飢餓の終息のためのプラン 自国の利益を求めること→ 見返りをクローズに書くこと→	悪い例 1. 発展途上国のインフラ、特に陸路の整備を先進国に要求する a. 支援を受けた国は、鉱山資源や天然資源といった資源を 安価で還元する 見返りはクローズに書かないで下さいm(_ _)m	《参考になる書き方》 ① ～することを奨励する ② ～するよに依頼する ③ ～するよに促す ④ ～を要請する、～を懇願する ⑤ ～するよに呼びかける、～するよに訴える 要請する ⑥ ～するよに強く促す、～を強く要請する
---	---	---



○国連総会 2 日目の流れ

9:00～ 3、4、8 組移動開始

9:05～ 2、5、7 組移動開始

9:10～ 1、6 組移動開始

※待っている間に他の WP を読み、どう交渉出来るか考えておく！

～9:30 集合完了（ここでお手洗い行っておいてください）

9:30～9:50 全体で会議の流れを確認

9:50～10:20 WP 内で話し合い □□

《この時間内ですること》

①自国内での（会議中の）役割分担を決める

- ・自分たちの WP を完成させる
- ・自分たちの WP の内容を理解し、疑問点があれば交渉する
- ・自分たちの WP の内容を他の WP グループに賛成してもらえよう、他の WP グループの国の大使に交渉しに行く

②WP のグループごとに集まって再度クローズへの理解を深めるとともに、他の WP への疑問・質問を共有する

③最終 WP に

- ・自国がスポンサーとして入っているか
- ・自国のクローズが間違いなく文面化されているかの確認
- ・他の WP で賛同できないクローズをピックアップし妥協点を考える→なるべくみんなが納得できるように

10:20～10:25 休憩

10:30～ 校長先生のお話

10:35～ 校内模擬国連のビデオ上映

10:40～10:45 会議開会宣言、出席確認（ロールコール）

10:45～11:10 ワーキングペーパー紹介（4 分×5 つ）

11:10～11:15 motion 着席討議 (informal debate) (5 分)

11:15～11:35 motion ロビー活動 (caucus) (20 分)

11:35～11:40 motion 着席討議 (informal debate) (5 分)

11:40～11:55 motion ロビー活動 (caucus) (15 分)

＊□ここで最終決議案を議場に提出

11:55 決議案提出締め切り

11:55～ ・グループの代表者が自分たちの決議案（DR）について

1 分 30 秒のスピーチ→投票

- ・この流れを提出された WP の数だけ繰り返し、
3/4 以上（69 か国以上）の賛成で決議案が可決される

12:10 motion 閉会

12:10～12:15 ベストカンントリー賞発表&表彰式

（徹底事項）

- ・今 5 つある WP を最終 3 つ以下にまとめる

- ・提出するためには、一つの WP で、20 カ国以上のスポンサーが必要
 - ・1つの WP のクローズの数 5つ以上 → 似てるやつはコンバイン
 - ・兼任不可
 - ・交渉中にスポンサー抜けて他の所に入っても大丈夫です
(抜ける際には、必ず近くの模擬国連メンバー、WP のリーダーに報告する)
 - ・クローズ書き換えた時は、同じ WP グループのメンバー全員に必ず伝える
 - ・最終：11 時 55 分に決議案 (Draft Resolution) を締め切ります。なので、一回目のロビー活動が勝負です。早い段階から WP 同士で交渉をはじめていってください。また、11 時 55 分以降の編集はできませんので、時間厳守をお願いします。
 - ・最終、決議案 (DR) 1 つずつ、投票を行う (69 カ国以上の賛成で採択)
- 他国に自分たちの WP に賛成してもらえるように交渉する必要あり！

○決議案例

Model United Nations

A/C.6/2/DR.1



General Assembly

Distr.: Limited

11.Nov.2017

Original: Japanese

賛成

Sixty-first session

Agenda item: Establishing a food distribution system towards Zero Hunger

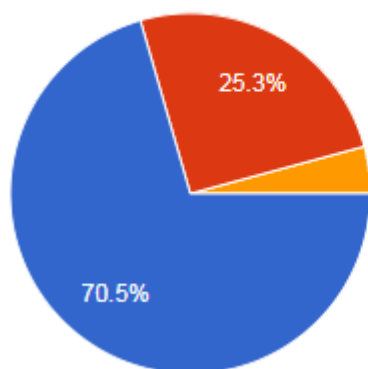
Sponsors: コロンビア、ペルー、チリ、エクアドル、韓国、メキシコ、日本、シンガポール、ニュージーランド、中国、バヌアツ、インドネシア、キリバス、パプアニューギニア、ミクロネシア、フィジー、トンガ、オーストラリア、サモア、インド、ベトナム、マレーシア、デンマーク、アラブ首長国連邦、レバノン、トルコ、ヨルダン、カタール、南アフリカ、シリア、イラク、ザンビア、サウジアラビア、ウクライナ、エストニア、イギリス、モンゴル、シエラレオネ、オランダ、エジプト (40カ国)

DRAFT RESOLUTION

1. 全世界での技術提供可能な国に、農産物の輸送等をより円滑にするインフラ・フードバンクの整備、IT・コールドチェーン技術・その他輸送手段の発展、それに必要な資金・技術者(養成・派遣両方可)を支援が必要な国へ提供するよう強く促す。支援を受けた国に、石油・石炭・天然ガス等のエネルギー資源、鉄・銅・亜鉛等の鉱山資源または食料を技術提供国に還元するよう強く促す(環太平洋以外の地域でも行っていく)
 - a. 環太平洋地域でのフェアトレードの促進の呼びかけを奨励する
 - b. 食料の消費量が多く、流通コストのかかる都市部や流通構築が厳しく、食料供給が間に合っていない離島部などの現地での農業促進のための資金援助を先進国に要請する(トンガ)
 - c. 先進国から発展途上国に、トラック・タンカーなどの輸送手段の技術提供をするように促す
2. 荷崩れしない綺麗な状態で食料を運ぶための保存技術の提供を先進国に要請する

- 3.国連に道路、海路、冷蔵貯蔵のための電力に関するインフラ技術が不足している国に技術者を4年間派遣することを要求する
- 4.食料流通を活発化させるために、食料倉庫設置を求める国に食料倉庫を設置することを国連に要求する
- 5.インフラ整備が不十分な国にインフラ整備後の運営費を含めインフラ整備に必要な資金を先進国に要求する。
 - a. コールドチェーン、道路インフラ、農業インフラ、水インフラなどにインフラ整備を細分化して、先進国は担当可能な分野を担当して資金を援助する

○決議（一部）



● 賛成
● 反対
● 棄権

※決議した結果をまとめ、海外フィールドワークの際に、チョウドリ元国連事務次長の前でプレゼンをさせていただいた。

○中間報告会生徒発表資料

関西創価高校43期 GRIT Model United Nations	Outline - 開会式 - スケジュール - 議題 - 学年編成 - 第1回会議に向けて - クローズについて - JICA - 模範国連1日目 - 模範国連2日目 - まとめ	用語集 <table border="1"> <tr> <td>模範国連 (イニファーマルディベート)</td> <td>各国大使が模範したまま他国への要請や、話し合いを行う。</td> </tr> <tr> <td>ロビー活動 (非公式討議・コネクト)</td> <td>全ての大使はこの間に席を空けて移動し、他国の大使と自由に交渉を行う。</td> </tr> <tr> <td>ワーキングペーパー (WP)</td> <td>各国大使が自国の主張を記述し、議題に添えるもの。クローズを構成するものであり、決議案の基となる。</td> </tr> <tr> <td>決議案 (RP)</td> <td>各国の大使の主張を文書化して記述したもの。</td> </tr> <tr> <td>スポンサー</td> <td>ワーキングペーパー・決議案の編集者</td> </tr> </table>	模範国連 (イニファーマルディベート)	各国大使が模範したまま他国への要請や、話し合いを行う。	ロビー活動 (非公式討議・コネクト)	全ての大使はこの間に席を空けて移動し、他国の大使と自由に交渉を行う。	ワーキングペーパー (WP)	各国大使が自国の主張を記述し、議題に添えるもの。クローズを構成するものであり、決議案の基となる。	決議案 (RP)	各国の大使の主張を文書化して記述したもの。	スポンサー	ワーキングペーパー・決議案の編集者		
模範国連 (イニファーマルディベート)	各国大使が模範したまま他国への要請や、話し合いを行う。													
ロビー活動 (非公式討議・コネクト)	全ての大使はこの間に席を空けて移動し、他国の大使と自由に交渉を行う。													
ワーキングペーパー (WP)	各国大使が自国の主張を記述し、議題に添えるもの。クローズを構成するものであり、決議案の基となる。													
決議案 (RP)	各国の大使の主張を文書化して記述したもの。													
スポンサー	ワーキングペーパー・決議案の編集者													
スケジュール	議題 ゼロハンガーを目指す食料流通システムの構築 Establishing a Food Distribution System towards Zero Hunger	学年編成 ★全8クラス (クラス別に地域で分かれています) <table border="1"> <tr> <td>1組-西アジア</td> <td>2組-東アジア</td> </tr> <tr> <td>3組-東ヨーロッパ</td> <td>4組-北・中米</td> </tr> <tr> <td>5組-アフリカ</td> <td>6組-西ヨーロッパ</td> </tr> <tr> <td>7組-オセアニア</td> <td>8組-南米</td> </tr> </table> (3、4人で1カ国担当 1クラス9~12カ国 →学年全体で92カ国)	1組-西アジア	2組-東アジア	3組-東ヨーロッパ	4組-北・中米	5組-アフリカ	6組-西ヨーロッパ	7組-オセアニア	8組-南米				
1組-西アジア	2組-東アジア													
3組-東ヨーロッパ	4組-北・中米													
5組-アフリカ	6組-西ヨーロッパ													
7組-オセアニア	8組-南米													
第1回会議に向けて - 模範国連の紹介 - 国割り (各クラス約12カ国) - 自国についてのリサーチ (議題に関連する国や議題について) - 各国のクローズ (政策) 作り	クローズ (政策) - 各国2国またはロータス作成 - 議題討議 (クラス討議) - 各国がクローズについて紹介 - 賛成・反対 - 似ているクローズを協議クローズとして1つにまとめる (を議決で決める) - Google スプレッドシートに、全クラスのクローズを打ち込む	<table border="1"> <thead> <tr> <th>国名</th> <th>模範国連1日目</th> <th>模範国連2日目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イギリス</td> <td>食料流通に力を入れてSDGs、先進国と連携して食料の生産・流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。</td> <td>よりよい食料の流通の確保と食料の供給に力を入れる。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。</td> </tr> <tr> <td>フランス</td> <td>食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。</td> <td>食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。</td> </tr> <tr> <td>ドイツ</td> <td>食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。</td> <td>食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。</td> </tr> </tbody> </table>	国名	模範国連1日目	模範国連2日目	イギリス	食料流通に力を入れてSDGs、先進国と連携して食料の生産・流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。	よりよい食料の流通の確保と食料の供給に力を入れる。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。	フランス	食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。	食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。	ドイツ	食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。	食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。
国名	模範国連1日目	模範国連2日目												
イギリス	食料流通に力を入れてSDGs、先進国と連携して食料の生産・流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。	よりよい食料の流通の確保と食料の供給に力を入れる。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。												
フランス	食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。	食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。												
ドイツ	食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。	食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。食料の流通を確保し、他国に食料を供給する。												

JICA 10月20日 - JICAの方に地域クローズについてのプレゼンテーション - JICAの方から各国のクローズへのアドバイス - クローズの再検討  10	模擬国連会議 1 回目 目標：WP作成・提出 1 地域クローズをプレゼンする 2 意見討議 ・クローズについての質疑応答 3 ロビー活動 (WP作成開始) ・ICFを使用し、同じようなクローズの語が頻り。 ・WPのクローズを打ち込んでいく 4 WPの提出は上級生以上のスポンサー (筆頭国) を必要とする  11	模擬国連会議 2 回目に向けて 1 前回は作成したワーキングペーパーのグループごとに集まる ・クローズと意見交換 ・質疑応答 2 各ワーキングペーパーの内容を修正 3 各国のグループのワーキングペーパーの内容を提出 12
模擬国連会議 2 回目 (本日) 最終決議 1 各ワーキングペーパー (WP) 内容のプレゼン 2 意見討議 (50分) ・他国WPへの質疑応答 3 ロビー活動 (20分) ・WP修正をまとめる ※2, 3をもう一度繰り返す 4 最終決議案提出  13	模擬国連を通して ～リサーチ編～ 資料 (情報) 集めが難しかった！ ↓ リサーチを進める上で様々な面からアプローチをする力がついた！ 14	模擬国連を通して ～ワーキングペーパー作成編～ 自国のみではなく他国の利益も配慮したクローズの作成が難しかった！ ↓ 他国のことも考えることで世界に目を向けるようになり視野が広がった！ 15
模擬国連を通して ～交渉編～ 各国の利益の上に合意形成するの難しかった ↓ 交渉を通して金銭問題の解決の難しさを知り将来解決に携わってみたいと思った！ 16	ご静聴ありがとうございました！	



○アカデミックライティング

講師：創価大学助教 木原宏子さん（創価大学 総合学習センターSPACe 在任）をお迎えし、論文作成のためのリサーチ・ライティングのための講座を今年度は開催した。

5 / 6 内容：資料収集の仕方 テーマ決定の方法

9 / 16 内容：パラグラフライティングの方法

12 / 16 内容：論文作成のためのテーマの絞り方 アウトライン作成

○論文・英語サマリー

GRIT 学年模擬国連で学んだこと、調べたことについて自分自身のクローズ（提言）を考え論じた。論文のタイトルは「ゼロハンガーを目指す食料流通システムの構築」である。冬休みの前にループリック表を用い、各国のグループ員と相談しながら、各自立案、構成を考える。それをふまえ、冬休みを使って、論文作成を行った。

説明の際には、「NHK 国語表現」「論文作成法」の動画を参考にし、模擬国連の国別のグループに分かれ、代表者が持参した **Position Paper**・国別クローズ案をもとに、手用の用紙に必要事項を書き写した。「模擬国連決議」を見ながら、国ごとに決議を実現する上で必要となる国内政策などについて話し合っ、作成した。

さらに論文の英語でのサマリー（要約）を、英語の授業を使って作成した。

【 意義 】

GRIT 学年模擬国連で学んだこと、調べたことについて自分自身のクローズ（提言）を考え論じる

【 論文タイトル 】『ゼロハンガーを目指す食料流通システムの構築』

【 作成日程 】

12月13日～19日 現代文の授業で「問いたて」のための準備

12月14日（木）④限「マインドマップ講座」

※「問いたて」のための手法として「マインドマップ」を使う

12月16日（土）②③限「アカデミックライティング講座Ⅲ」

※問いたて、アウトライン作成、実作

※冬休みを使って、論文作成する（宿題）

1月10～12日 現代文の授業で書けていないメンバーのフォロー

書けているメンバーはブラッシュアップ

1月12日（金）提出期限（グーグルクラスルーム上で）

1月13日（土）GRIT②③限

グループ員同士のピアエデュケーションで、ループリック表をもとに各国で意見交換し、再度論文検討。ブラッシュアップ

※1月19日（金）までに基本完成

1月20日（土）英語サマリーのための準備終了

2月 英語サマリー完成・発表

グローバルシチズンシップセミナー

関西創価高校では、グローバルリーダーの育成を目指して、全校生徒を対象としたグローバルシチズンシップセミナーを実施しており、2017年度は5回実施した。内容は、国内外より講師を招き、環境や人権など世界的な問題について講義をいただくものである。講演の最後の質疑応答では、どの回も生徒からの質問が次々と飛び出すなど、大きな触発を与える機会となっている。

【第1回 2017年6月24日 藤原 宏宣氏】

NPO 法人 GOODEARTH 株式会社の代表取締役社長藤原宏宣氏をお招きし、高校1、2年生対象に講演を行っていただいた。藤原氏はご自身で、西アフリカのギニア共和国初の日系企業として製氷販売の株式会社 P&S を設立、また女性の地位、教育力の向上を目指し、学校 HIMAWARI を設立するなど、貧困問題を解決するために尽力してこられた。講演では、現在 GOODEARTH でギニア、ネパール、バングラデシュでサポートを行って



いる様子をビデオや写真を用いて詳しく説明してくださるとともに、貧困問題を解決できるだけの財力や資源を持っている日本が貧困問題に目を向けられていない事実を述べ、貧困問題を解決するには人間の内面にある無関心や無気力を変えていかなければならないと語ってくださった。

○生徒の感想

「今まで、テロリストが人を殺す理由がわからなかったし、人の痛みがなぜ分からないのかと思っていたが、私たちよりたくさん傷ついて痛みを知りすぎたから生命が変わってしまったんだと思いました。決して許すとか容認する訳ではないけれど、私たちが毎日豊かに生活することが地球の裏側の人の苦しみを生んでいることを反省し、恨んだり知らないふりをしたりせず、何ができるかを考えていきます。

(1年女子)」

「今日の講演を聞いて、私たちが普段生活している当たり前のことが、アフリカの人々や発展途上国の人に悪い影響を及ぼしていることにとても心が痛みました。日本のような先進国はただ支援をするだけでなく、もっと一人一人の生活を見直すことや国内のメディアのあり方について改善していくべきだと思いました。今はインターネットが発達しているので自分も世界の情勢について調べてみようと思います。今できることは、将来のために勉強とどんなことにも負けない体力をつけることだと思います。(1年男子)」

「今日の話で一番ショックを受けたのは、私たちが貧困問題とかテロに加担している、ということでした。地球では、こんな問題があるということは、今まで学んできたけれど、やっぱりどこか遠い国で起こっている私たちには関係のないものだと思っていた気がします。先入観を捨てるということも大事なことであったと思います。途上国の人はいかかわりそうな人と思ったその時点から差別や格差が生まれるのだと思います。同じ人間なんだということを今日の講演で感じました。(1年女子)」



【第2回 2017年7月18日 山口 寿男氏】

創価大学から外務省に進み、2006年に在イラク特命全権大使、2007年からは3年間に在ノルウェー特命全権大使を務め、現在は創価大学の客員教授である山口寿男氏に講演を行っていただいた。「世界を結べ！世界を動かせ！学園生への私の期待」との講演では、日中問題や日露問題、アフリカ、イスラム等様々な外交問題について、外交官として目の当たりにしてきた経験を交え話していただいた。

創立者と世界の識者とのつながりについても詳しく述べていただき、学園で学んでいる一人一人が対話で世界を結んでいってほしいとの期待を寄せるとともに、在学中に外交官試験に現役合格し、外務省入りを得たご自身の経験から、勉学に励む重要性を訴えてくださった。

○生徒の感想

「今、北朝鮮やイスラム国の問題がある中で、私たちだけではなく、世界中の皆が一体となり、対話し、互いを理解・尊重していく誰もおきざりにしない社会をつくっていかねばならないと思った。(1年女子)」

「想像もつかないような世界を今日のお話で少しだけでものぞかせていただいたように思いました。世界で偉大な業績や転換をした人は「明るくて、快活で、軽やか」と言われていたのがすごく心に残りました。「勉強は量」とのお話に厳しい部分も感じましたが、私自身も頑張っていこうと思いました。(3年女子)」

「今の世界が抱える課題、また創立者が世界平和を築くために行動されてこられたことを深く知ることができました。自国の幸福だけでなく、他国の幸福を祈り、願う思想が大事だと思いました。その普及のためにできることを自分なりに頑張ります。(2年女子)」

「日本と世界の関係や、世界の状況の変化を、実際に見てこられた外交官の方のお話を聞くことができたのは、とてもありがたいことだと思いました。領土問題や戦争などの歴史的問題は、日本に住む私たちは一方的に日本が正しいと考えてしまいがちですが、日本にも非がある部分もあるのだと知りました。メディアリテラシーを持って、客観的な立場から問題を見ていこうと思いました。(3年女子)」

「外交官という仕事がどれだけ大変なのか。またどんな仕事でも客観性をもって対話することが重要だとわかりました。自分は主観的にしか見れていなかったもので、今日から相手の立場に立って考えるように実践していこうと思いました。(3年男子)」



【第3回 2017年9月2日 岡田 千絵氏】

国連世界食糧計画 WFP 協会で勤務されている岡田千絵氏をお招きした。自身の留学体験から始まり、世界的 IT 企業法人部を経て、アフリカの子どもたちの開発教育に携わり、現在 WFP 協会では食糧支援を初めとする様々な取り組みに奮闘する様子を赤裸々に語ってくださった。WFP

は飢餓をなくすために援助しているが、援助を求める国の自主性を重んじ、援助依存をなくすという方針をかかげていること、WFP 協会の認知度自体をもっと高めていきたいことなどもお話してくださった。

終了後も希望生徒との懇談会をとっていただき、特に「世界の飢餓を解決するための食料流通」をテーマに学年模擬国連に挑戦中の高校 3 年生からは岡田氏に対し、多くの質問が寄せられた。

○生徒の感想

「貧困という言葉は自分は見たり聞いたりでしか触れてこなかったが、今日のお話をきいて、自分が実際に経験して貧困をなくすために貢献した、できることを考えていきたいと思えた。(1 年男子)」

「たくさんの経験を得ることの大切さと、異なった文化を受け入れる重要性を感じました。私はいつも人の価値観を受け入れること苦手で人とのつながりを切ってしまうことが多いのですが、これからはできるだけ人のことを受け入れ、対話していけるように心がけます。私も将来、世界のために何ができるかを考えていきます。(2 年女子)」

「特に心に残ったのは、『正義感に見合った実力をつけること』とのお話です。気持ちだけでは何も救えず、今の自分もまだまだ実力不足なので、たくさん学び、吸収し、良い結果をもっていけるよう勉強頑張ります。(3 年男子)」

【第 4 回 2017 年 9 月 7 日 土岐 雅子氏】

ミドルベリー国際大学院モントレール校ジェームズマーティン不拡散研究センターの土岐雅子氏に講演を行っていただいた。土岐氏は、同校で大量破壊兵器の軍縮不拡散について研究し、卒業後、IAEA 国際原子力機関でインターンシップやワシントンで軍縮関係に携わり、現在に至る。「核兵器のない世界へー軍縮・不拡散教育と一人ひとりの役割」との講演では、ご自身が核問題、国際平和に興味を持った理由等の身近な話題から、現在の国際状況や核兵器不拡散教育について研究されている専門的な視点からも語ってくださった。核兵器を容認する思想を克服するには、教育が大切であり、絶望を打ち破る希望、恐怖や憎悪にも屈しない勇気を創造してほしいと期待を寄せてくださった。



【第 5 回 2017 年 10 月 7 日 小溝 泰義氏】

広島平和文化センターの理事長を務める小溝泰義氏をお招きした。「核兵器のない平和な世界を目指して～広島・長崎のメッセージを世界にそして未来世代に～」との講演では、広島・長崎に投下された原子爆弾の被害を当時の映像や被害者の証言を通して説明し、現在の核兵器に依存する社会を脱し、核の非人道性を世界



へ訴える重要性を教えていただいた。核兵器がなくならないのは核抑止というお互いへの不信感から生まれる脅しの考え方に起因すると説明した後、その考え方も被爆地域の惨状を目の当たりにしたときに核廃絶の方向へ意見が変わったことを話してくださった。また安全保障政策や核兵器禁止条約についても触れ、皆さんの力で核兵器のない世界をつくってほしいとの期待を寄せてくださった。

○生徒の感想

「本当に核をなくしていかなければならない私たちは原爆の過去と被爆者の方たちの思いなどを聞いて、学んでいかなければならないと思いました。平和のためにと言うのは簡単だけど、行動を起こさないと意味がないし、学園生である今のうちに私たちがすべきことを見つけて行く必要があると思った（1年女子）」

「核兵器投下に対する強い怒り、憎しみが強く伝わってきた。人々の心にすみつく、核肯定の心を立ち退かせることが大切。私たち青年が立ち上がることで変わる未来があると思った（2年女子）」

「核についてもっと知るべきだと思いました。そして、小さいことからでも、何かアクションをおこし続けて、なおかつ、それをやりきることが重要であり、大切なことだと感じました。平和のためにたくさんの異なった種族の人たちと関わり合っていく重要性を学びました（3年男子）」

「思いの強さを感じました。人間にはよくも悪くも無限の可能性があるという言葉がとても心に残りました。核のない世界の実現に向けて進んでいるときだからこそ、私たちのような若い世代が本当に大事なんだと感じたし、無限の可能性を信じて絶対にあきらめてはならないと思いました（3年女子）」

Day 1

7月17日(月)

LC Tokyo Fieldwork

発行者
3年 川合 勇一
3年 遠藤 舞依
2年 照喜納 明美



佐藤伸二郎准教授とのセッション

気候変動を研究している3グループがプレゼンテーションを行い、環境農学や土壌学などが専門の佐藤伸二郎准教授から「タイトルから内容が一目でわかるように」「問題の全体像のような大きなスケールと、細かい事例などの小さなスケールのバランスをとりながら問題を捉えることが重要」など、的確なアドバイスをいただきました。また、気候変動への対策で貧しい地域や私たちでも簡単に組み入れる「コンポスト」（家庭から出たゴミで作れる堆肥）の技術を紹介してくださいました。

ロバート・シンクレア教授とのセッション

核廃絶を研究している3グループがプレゼンテーションを行い、国際教養学部で哲学が専門のロバート・シンクレア教授からフィードバックをいただきました。私たちのリサーチクエスチョン（研究課題）を具体的な内容にさせていただくこと、今後の研究のためのアドバイスをいただくなどしていただきました。質疑応答の場面では、原子爆弾投下の背景や、アメリカの核兵器に対する教育などの話をさせていただきました。



マリア・グラハルド副学長補ワークショップ

マリア・グラハルド副学長補によるワークショップでは、世界で活躍するリーダーになるための資質について、自分たちで考えながら学んでいきました。

グローバルリーダーに必要な要素についての話し合いでは「聞き上手であること」「仲間を信頼して友情を大切にすること」「決して諦めない粘り強い精神を持つこと」「勇気をもって自分の意見を述べ、他者の視点を尊敬すること」等が上がりました。また、「問題が必ず解決すると強く信じて行動する自らの意識が、周りにも良い影響を与えていく」ということを学びました。

最後に、副学長補は“他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない”との信条を持った学園生の使命の深さを強調されていました。



Day 2 ①

7月18日(火)

LC Tokyo Fieldwork

発行者

3年 本房 由香

3年 酒井 亮

3年 山岸 世来



UNDP駐日代表 近藤哲生氏講義

近藤代表は外務省に入省された後、UNDP (United Nations Development Programme:国連開発計画)で尽力され、2007年から駐日代表として勤められてきました。講義の内容は、英語のdevelopment(開発)に隠された意味や国際連合が設置された背景、SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)の詳細、近藤代表がアフリカのチャドという国に滞在されていた時の体験など、世界の平和に向けて第一線で戦われている近藤代表から本当に貴重なお話を聞くことができました。講義のなかで近藤代表は、「君たちは未来にではなく、もうすでにグローバルリーダーなんだ」と私たちに大きな期待をしてくださり、期待に応えられる人材に成長しようと改めて決意することができました。



環境省国際地球温暖化対策室 工藤里恵氏講義

環境省国際地球温暖化対策室の工藤里恵さんより、日本政府が気候変動の解決のためにどのような対策をしているのかについて講義をしていただきました。講義の内容は、①気候変動のバックグラウンド、②気候変動のための国際的な取り組み、③国内の緩和策、④国内の適応策、⑤国際協力の必要性と、大きくわけて5つありました。①では、気候変動の原因である地球温暖化のメカニズム、気候変動の政策である緩和策と適応策について、②ではUNFCC、京都議定書、パリ協定などの気候変動に関する条約について、③と④では、日本の高技術を使った緩和策と適応策について、⑤では日本がアジアの発展途上国に行なっている技術的支援について、説明していただきました。質疑応答の時間では、9問ほどの質問をさせていただき、自分たちのリサーチを深めることができました。



IAEA ハート東京事務所所長とのセッション

IAEA(International Atomic Energy Agency:国際原子力機関)は原子力を平和的に活用していくことを目指し、世界中で核の管理を行っている国連機関です。各グループからのプレゼンテーション後、ハート所長が動画を使いながらIAEAの活動の様子の説明をしてくださりました。その後、原子力の検査に使っている機械を実際に使わせていただき、世界の科学のレベルの高さを実感するとともに、核の管理をするIAEAの活動の大切さを体感することができました。「核」と聞くと、一見悪いイメージを持ちますが、その中で平和的活用を実践するIAEAのスタッフの方にふれ、これからの核廃絶に向けてのリサーチへの意欲と、学ぶ喜びに満ち溢れたIAEAでのセッションとなりました。

Day 2 ②

LC Tokyo Fieldwork

7月18日(火)

発行者
2年 仲 桜良
2年 黒田 恵美

LCS田中主任研究員とのセッション

気候変動に関する3つのグループのプレゼンテーションをLCS(Center for Low Carbon Society Strategy:低炭素社会戦略センター)主任研究員の田中加奈子博士に見ていただき、IPCC(Intergovernmental Panel on Climate Change: 気候変動に関する政府間パネル)についてお話を伺いました。設立当初は気候変動のみを報告する内容であったIPCCでしたが、田中博士が日本の代表執筆者を務められた最新の第五次評価報告書では、気候変動だけでなく、気候変動適応策と緩和策が部門別に記されています。学園生からのさまざまな視点からの質問に、的確な返答をいただき、世界の第一線で活躍する方の実力を垣間見た気がしました。わたしたちの目指すグローバルリーダーの姿を目にして、自分たちのリサーチへの意欲がさらに高くなりました。



民音研究所所長オリビエ・ウルバン博士懇談会

オリビエ・ウルバン民音研究所所長との懇談会では、音楽と人間、そして平和についての講義を受けました。私たち人間と特につながりのつよい音楽だからこそつくれる平和はたくさんあるし、同じ音楽でも使い方しだいで人々の気持ちや考え、未来さえも変えることができるとおっしゃっていました。学園生からの質問には、オリビエ所長は1つ1つ丁寧に、創立者池田先生の言葉を引用しながら答えてくださり、とても有意義な時間を過ごしました。



Day 3
7月19日(水)

LC Tokyo Fieldwork

発行者
2年 好井匠人
2年 三原亜紀子



国立環境研究所町田敏暢博士セッション

国立環境研究所では、地球環境研究センターの大気・海洋モニタリング推進室室長町田博士から、二酸化炭素が産業革命により急速に増加したこと、また南極の氷を調べることでより過去の二酸化炭素濃度を測れること、高度によって二酸化炭素の季節の違いによる変化の差の大きさに違いがあることなどを学びました。専門的で難しい内容でしたが、新しい学びがたくさんあり、より地球温暖化への危機感を強めました。

また、町田博士が行っている最先端のCONTRAILプロジェクトについてもお話を聞くことができました。このプロジェクトは民間の航空機に温室効果ガスのデータを収集する装置を取り付け、広い範囲での測定を可能にしたもので、これにより北半球から南半球への大気が見えるようになりました。国立環境研究所では最先端の研究に触れることができました。今回の経験を今後のリサーチに活かしていきます。



JAXA祖父江真一氏セッション

JAXA(宇宙航空研究開発機構)では衛星のレプリカなどを見学後、JAXA第一宇宙利用技術部門ALOS-2プロジェクトマネージャの祖父江真一氏に講義を行っていただきました。講義では、衛星が洪水を早く警告することで災害のリスクを抑えていることや、温室効果ガスを監視し異常気象を予測することなど気候変動の緩和や適応に貢献していることだけでなく、衛星がコンテナやトラックで運ばれるためにたくさんのお金が必要であることなどを教えていただきました。実物大の模型を見た後に講義を受けたことで、とても想像しやすかったです。衛星の気候変動への対処に大きな期待を感じました。



東京フィールドワーク

1 行程・概要

7月17日から3日間、東京・筑波フィールドワークが行われた。

国連開発計画や宇宙開発に興味のある高校生の希望者の中から抽選された二十名が参加した。約一か月前から取り組んだ事前学習では、国連のSDGs項目を一人一つずつ担当し、詳しく調べてポスターを作成し、皆で共有した。また現地で学ぶ①外務省の概要 ②国会の概要 ③国連開発計画について ④JAXAの概要 ⑤JICAの概要 ⑥核兵器禁止条約の交渉について各人に担当を振り分けて六つのグループを作り、各グループで資料やインターネットのサイトを用いて調べてまとめた。その後グループをシャッフルして新グループの中でそれぞれ調べた内容を共有し合った。また、創立者の二〇一七年の記念提言を皆で読み、創立者の平和構想への認識を深めた。

一学期末も押し迫った十七日の朝、新大阪駅に集合し、新幹線で正午前に東京に到着した。初日は市ヶ谷にある「JICA 地球ひろば」を訪れた。そこでは、カンボジアで青年海外協力隊参加経験のある職員方からJICAが行っている事業についての説明を受け、全員でワークショップを行った。ワークショップでは様々な国の生活の様子の写真を用いながら「豊かさ」の定義についてグループに分かれて話し合い、その上で全員そろった場で、出た意見を報告・交換し合った。「豊かさ」の基準は、民族、宗教などによって大きく異なり、地球上では考え方、価値観が多様であることを実感した。

その後、再び戸田記念国際会館で、SGI 平和運動局の方から七月七日に国連で採択された「核兵器禁止条約」の交渉会議の様子や、唯一の被爆国である日本がこれからすべきこと、担うべき役割についての講話を聞いた。異なる言語・文化を持ち、複雑な利害関係でつながり合った各国の代表者が集う中で、核軍縮について議論し合うことがいかに難しいことなのか、核保有国が力を持つ状況下で核兵器禁止条約を通すことがどれほど困難なことなのかをメンバーは思い知った。と同時に、次代を担う私たちが次のステージを開くために高い問題意識を持つ必要性を深く心に刻んだ。

二日目は、まず、霞ヶ関にある外務省を訪れた。職員の方に省内を案内してもらい、外務省の仕事の概要の説明を受けたあと、東京校出身の外交官の方から外交官に必要なスキルを教えてもらった。外務省をあとにして参議院議員の案内で国会議事堂を訪れた。国会の歴史の展示や本会議場などの見学を行った後、財務省にも連れて行ってもらい省内を見学した。

そして渋谷にある国連大学に移動し、UNDP（国連開発計画）駐日代表の近藤哲生氏から、「私たちの望む未来」というテーマの講義を日本語で受けた。SDGsを達成するために必要なことや、戦火に見舞われた地域が復興し、兵士が社会復帰することの難しさなどについての内容であった。メンバーは、地球上の不幸をなくすには、単に戦闘をやめさせるだけでは足りないことを学んだ。

三日目は、つくば市にあるJAXAの施設である筑波宇宙センターを訪れ、実物大の人工衛星模型や本物のロケットエンジンなどが見られる展示館「スペースドーム」を見学した。その後、宇宙飛行士養成エリア、宇宙ステーション「きぼう」運用管制室などを見ることができるとある見学ツアーに参加した。「各人の宇宙船」とも言われる宇宙服の構造についても詳しく説明を受け、宇宙開発に寄与している日本の技術の高さを学んだ。昼食はJAXAの職員食堂でとり、東京駅に戻って新幹線で帰阪の途についた。

フィールドワーク終了後、学んだ事をレポートにまとめ、事前学習のグループごとに報告ポスターを作成し、渡り廊下に掲示した。

2 生徒レポート

世界の問題について知ること

三年二組四十二番 松田法子

私は今世界で起きている地球規模での協力が必要な **SDGs** をはじめとする様々な問題について深く詳しく知ることをテーマとして東京フィールドワークに参加させていただきました。もちろん今までも **GRIT** などで世界で起きている問題について調べる機会はたくさんありました。でも世界の問題の責任は私にあると自分を恥じて反省するのはその時だけのことで時間が経ってしまうといつもの日常に戻っていました。世界の問題に関心はあっても実際に調べることを、ましてや何か行動を起こすことさえしてきませんでした。そんな受け身で消極的な自分から脱却するため、今回のフィールドワークでは一切妥協することなく知ること、学ぶことに貪欲になろうということでこのテーマにしました。

行く前の私が知っていたことは貧困問題、ジェンダー問題、子ども兵士といった単語と **GRIT** で学んだそれぞれの問題の現状・課題くらいでなぜ起きたのか、他のどんな問題と関連しているのか、どのような解決策をとっているのかといった少し掘り下げた部分になると知っていることは皆無に近いものでした。事前の調べ学習では自分が担当した **SDGs** の「気候変動に具体的な対策を」についてインターネットのサイトや本を読んで今起きている異常気象は人間の活動を原因とする甚大な気候変動の開始点にすぎないことや想像以上に温度上昇の影響は色んなところに及んでいることを知りました。調べ学習では環境に焦点を当てていましたが私は基本的に世界の問題に対する知識が不足しているので聞きたいことというよりも、何から何まですべて知りたいという思いがありました。

そして始まったフィールドワークの1日目 **JICA** を訪れスタッフのおかもとさんのもとでみんなで二枚の写真を見ながらどちらが豊かなのか、豊かさを一言で言うならについて考えるグループワークのとき色々な収穫がありました。先進国と発展途上国を豊かさで比べるなら間違いなく先進国だと思うのが普通だし実際私もそうでした。でもだからといって発展途上国は豊かでないと言い切ることはありませんでした。発展途上国の家族には便利な物がなくて肉体労働が多そうだし、色んな災害に無防備そうで、もしかしたら写真では分からないだけでもっと苦しい環境下にいるのだとしても顔には笑顔があふれていたように思います。どちらが心が幸せかという点では間違いなく発展途上国だと言えるなと思いました。このように実際には自分の目で二つの国を見るまでは一方的に便利な国は幸せで そうでないと不幸せだ、と決めつけていました。でも決してそんなことはなく「蔵の財よりも身の財、身の財よりも心の財が大切なり」ということの本当の意味がわかった気がしました。またおかもとさんがおっしゃっていた「豊かさとは家族といること」というのは私の中になかった考えで家族と過ごせていることが当たり前になっている証拠だなと思いました。またおかもとさんが美術系の大学を卒業して青年海外協力隊に入られたというお話には感銘を受けました。世界に貢献するためにはその分野のしかるべき大学を出て優秀で偉くならなければならないとばかり考え自分には無理かもしれないと落ち込んでいました。でも学歴やこれまでの経歴なんて関係なく自分が世界を変えたいと望めば変えられるんだと勇気づけられました。

また体験コーナーで **MDGs** のことを先進国が途上国を助けるという上から目線な目標だったということを知り、国際社会も日々成長しているのだと共感が持てました。そこで見た日本の **SDGs** の進み具合を示したのについては正直ショックを受けました。また特にジェンダー平等が全く進んでいないことにすごく動揺しました。日本は元々偏見・差別が多い国だから男女差別だけでなく外国人差別や住んでいる土地による差別など今でも人々の心の中に居続けている気がします。そう言う私も例外ではなく偏見で人を決めつけてしまっている時があります。そこで私が思ったのは日本の人権教育がまだまだ不十分だということです。老若男女すべての人、特に親世代がしっかりと人権教育を受け子どもに伝えていくことが根本的な差別をなくしていくことに繋がると考えました。他にも **JICA** のボランティアの方から子ども兵士についてのお話を聞きました。男の子だけでなく女の子も兵士になっていて、ご飯を食べられる、眠ることができるという理由から自ら志願してなる子もいると聞きました。彼らは明日を生きることしか考えていないということを知り、生きるためには兵士になるしか選択の余地がないということが悲しいし未来を考えられるようになるには教育の力で子どもたちに自分の可能性・希望を引き出すきっかけをつくる必要があるのだなとここでも教育の重要性を再認識しました。また兵士を辞めることができて社会復帰ができない背景には周りの人の反応が良くないということなどがあると聞いてこの問題をはじめ他の解決になかなか結びつかない問題に共通することは人間の感情なのだなと思いました。

その後訪れた戸田国際記念会館で **SGI** の河合さんのお話を聞かせていただいて本当にいい経験をさせていただいたなと感謝の思いでいっぱいになりました。事前に核兵器禁止条約の新聞記事を読んだり、調べたりしている時私は唯一反対したオランダのことを批判的な目で見ていました。しかし河合さんは違う意見をもつ国のおかげで議論が深まったこと、賛成派しかいない会議で反対の立場として出席してくれたことを挙げ

とても立派な国だとおっしゃっていたのは私の考えと全く違って印象的でした。

そして2日目外務省を訪れた時、学園の先輩である花見さんのお話を聞きました。花見さんのお話は今回のフィールドワークの中で一、二を争うくらいよかったなと感じたお話でした。昨日のSGIの河合さんの核兵器禁止条約のお話を聞いて政府の対応に懐疑的になっていたのではなみさんの核をなくしたいという気持ち・理想は同じだけどそのアプローチ方法の違いがあった、そして禁止条約を機にこれから日本が核保有国に参加を促していくという話を聞いてとてもよかったです。

その後杉議員と質問会を兼ねた昼食を共にしそこでフィールドワークでの目標だった質問をすることができました。杉さんのお話を聞くまで私はNGOの方が直接ゴールに向かっていけるから行政よりもいいのではないかと思っていました。しかしNGOと行政はどちらも大切な役割を担っているということを聞いて私はNGOは吹き矢で行政は弓矢のような存在だなと思いました。弓矢は放つまでの時間は吹き矢よりも長いけれどそれだけ威力があるから、行動に移すのが速いほうがいいということではないのだなと自分の考えが変わりました。国会ツアーは初めてでテレビでしか見たことがなかった光景にとっても感動しました。「自分を特別だと思ってはいけない」という言葉はこれからの私の指針になりました。

また国連大学での国連開発計画UNDPの近藤さんのチャドでのお話はとても興味深かったです。一国連職員の方の行動が一国の大統領までも変えたというお話は一人立つ精神の強さを感じずにはいられませんでした。先日のJICAでも同じことを思いましたがあくまで自立できるように手助けをすることが大事で支援し続けることは最終的にその国の成長を妨げているということに繋がるのだなと国際協力の難しさを感じました。また質問の時に聞いた資産と給料の話はとても衝撃的で格差を是正することがどれほど難しいのかと唖然としましたがそんな中でも貧困問題が改善している国はすごいなと思いました。

3日目のJAXAに関しては私は宇宙兄弟がとても好きだったので見たことある光景を実際に見ることができてすごく楽しむことができました。しかし今回の私のテーマとは違うから事前にJAXAについて深くまで考えていませんでしたがJAXAも宇宙から人工衛星で地球の砂漠化や水循環などの異変を探し情報提供を行っているということを知り驚きました。

私が3日間で出会った方々はみんな別の職種・立場でありながら世界・地球の問題にまさに最前線で取り組んでおられるんだなと感動しました。その最前線の現場を実際に見て質問できたことはとても嬉しかったとたくさん得るものがありました。東京フィールドワークに参加させていただいて私は確実に世界の問題に対し自分で考えるようになり、より積極的になりました。滅多にできない経験をさせていただいたのでこの感謝を忘れず世界を変える最前線に立つためこれからの学園生活また人生を全力で頑張ります。

日本人としてのアイデンティティの確立をめざして

3年2組44番 宮本 晴美

テーマに関しての具体的な説明、そのテーマを選んだ理由

世界の中で日本人として生きるために私たちが日本自身を知る、ということ。世界市民へと成長していくために、世界で深刻化する問題をリサーチしつつ、国際的にみた日本の立場や、日本がいまどんな分野で世界に貢献しているのかを知る。また、世界情勢が悪化するなかで（各国の政治の分野で特に顕著）、日本がいまとっているアクションにはどんなものがあり、それらの進捗はどうなっているのか、を学びたい。また逆に、日本として果たすべき役割があるにも関わらず着手しきれていないもの、日本の弱味、を知った上で今後どのような行動が（人材が）求められるか、という辺りをしっかり学びとって帰りたい。

1. JICA 地球ひろば

行く前に知っていたテーマに関する知識

JICAは日本における、ODAを一元的に担う機関である。JICAが支援している国は『発展途上国』と呼ばれ国々でそのため、現地に専門家を派遣し、技術を身につけてもらうようにしている。私が事前に調べたもののなかにあった、日本の途上国支援に関する強みは、「数学教育」であった。私が来年より通うことになる、創価大学の教員もまたJICAにおける数学強化プログラムに関わっていたらしい。2015年夏、「カンボジア国前期中等理数科教育のための教師用指導書開発プロジェクト」に教育学部学部長の鈴木将史教授は団員として参加し、数学の専門家として「カンボジア理数科教育改善プロジェクト」の計画段階から深く携わっていた。

フィールドワークで聞いたこと 学んだこと

・日本企業が途上国に貢献している技術、例えば味の素が途上国で食べられている栄養の少ない食事に混ぜるだけで、様々な栄養がとれる粉を開発していたり、リクシルが水を最小限にしか使わないトイレを作っていたりした。

- ・MDGs と SDGs の違い。

MDGs は途上国をどう開発するかに着目して目標を立てたものだったのが、SDGs はすべての国々が、持続可能な開発のために何をなすべきか、というところ。SDGs は日本にも同様にあてはまってくるもので、日本は特に、ジェンダーの格差やパートナーシップの面などで問題が深刻であることがわかった。

・どんな分野に将来進んでも、青年海外協力隊に参加できそうなぐらい、途上国で必要とされている技術は多かった。

聞いたことを受けて考えたこと

- (聞いたことに関して、自分が思っていたことが正しかったのか、違っていたのか、)
- ・日本の技術などは初めて知るものばかりだった。日本の技術はやはりすごい、もっとこういう活動を増やしていければいいと思う。
- ・SDGs をどこか遠くの世界にあるように扱っていたことを反省した。
- ・将来必ず途上国に貢献する仕事をしようと思っていたので様々な分野が含まれていて安心した。

聞いたことをうけて提案・意見・考察

- ・日本という国はどんな分野においても基本的に先進的な技術が使われているため、そのような恵まれた環境で育った日本人である責任として、より途上国に貢献していく人材や企業が出てくる必要があると思った。
- ・これからは「日本のなかでの SDGs」にも注目して見ていこうと思った。

2. 戸田記念国際会館

行く前に知っていたテーマに関する知識

核兵器禁止条約採択の場に日本がいなかった。

テーマに関して、現地で聞いてみようと思ったこと、見ようと思っていたこととその解答

- ・日本が参加しなかったことに対しての各国の反応はどうでしたか
- ⇒すごく残念に思われていた。オランダは NATO に入っているのに議会に参加した。保有国や依存国である国までが発言してくれたことで議論の内容が豊かになった。

フィールドワークで聞いたこと 学んだこと

- ・まず SGI として創立者の思想を実践していく平和運動局という機関があったこと自体に驚きました。人権とジェンダーの問題、核兵器などについて扱っている。平和活動をひろめるためにビデオの作成・展示会などする。
- ・いま高校生にできることは身近なところに結構ある。まず調べていくこと、人に聞くこと、基本的なことを学んでいくことです。
- ・各会議の様子は国連 WEB サイトで見ることができる。河合さんが印象に残った発言「市民社会グループが一番後ろにいても、いつも議論の最前線にいてくれた」NGO などは発言できない、投票権はない。
- ・核会議のなかでの困難さは、ことばがお互い違う中で母国語でない言葉で議論をしていかなければいけない。また時間も限られている。議事していくことの難しさがある。しかし今回の締結の秘訣は、122 か国という国連の 3 分の 2 の人たちが大きな目的のために団結できたこと。そして議長がすごかったこと。関係者に様々な耳を傾けて本当に献身的な姿勢で臨まれていた。また、一般討論、市民社会の力は大きかった。なみをおこしていったのは席の後方の人たち。
- ・条約に参加していない国々も、今後は 2 年に 1 度開かれる締約国会議に参加することができる。毎年、締約国が開かれた心をもって、招待状をおくる。これからその 2 年に 1 回日本でも参加するかどうかのニュースが流れる仕組みが今回できた、これは大きな前進。
- ・SGI のこれからの活動は、今回のこの会議のことを人々に知らせていく。展示会や本で。またこれからは「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」の思想をもって最大の悪、核兵器の廃絶に向けて活動していく。

聞いたことを受けて考えたこと

- (聞いたことに関して、自分が思っていたことが正しかったのか、違っていたのか、)
- ・今回の核兵器禁止条約のニュースを聞いていたときに疑問に思っていた非締約国をいかに巻き込んでいくかという点について知ることができて良かった。
- ・微々たるものかもしれないが前進だといえる成果が出たのではないだろうか。

聞いたことをうけて提案・意見・考察

核保有国が核保有の考えを転換し、会議に参加できるようになり、実質的に実行可能な状態でもう一度締結

できればと思う。

3. 外務省

行く前に知っていたテーマに関する知識

国際平和の安定を図っている機関で、さまざまな分野で日本にとって最大の利益になるような方策を目指して外交を行っている。

日本のODAを進める。各国に日本大使館をおいて仕事をする

フィールドワークで聞いたこと 学んだこと

- ・各国の日本大使館では在外中の日本人のトラブル対応（パスポートをなくしたりした場合に）や、海外の人に日本を知って頂く活動をしている。

- ・2, 3年でそれぞれがする仕事は変わっていく。担当して下さった中橋さんも以前は中東アフリカ局（パレスチナ）にいたけどいまは国内広報局にいる。

- ・ハナミさんは創価高校、創価大学出身。今年で外務省勤務13年目。高校時代に2001年のアメリカ同時多発テロのニュースを見て、21世紀の国際平和を守る仕事に就こうと決意した。に1年間の研修のあと、英語研修に（ハナミさんはアメリカで2年間）コーネル大学や、ボストン大学の大学院で学ぶと共にロースクールに通っていた。その後、ボツワナやシンガポールの大統領館で働いていた。（ボツワナでは大使館初めて作った）また、国際法局？で、米軍の基地問題地位協定についてなどをおこなっていた。

- ・外交官になるには、まず英語は当然。あと読書で世界の古典良作と言われるもの、シェークスピアなどを読んで教養をつけておくといい。また、日本語で洗練された文章を書けるようにまずならないといけないから、文章力論理力がある人の方が良い。そして歴史も学んでいこう。各国とおつきあいをしていく仕事柄、これから自分が付き合う国と日本がどんな過去をへて、いまの状態にあるかを知らないといけない。

- ・ハナミさんの向こうでの具体的な仕事内容としては、ボツワナはいままで南アフリカがカバーしていたところを、自分の代から直接大使館をおいたことによって、自分は人柱として派遣された。広報をして日本を知らせてもらう活動が多く、日本映画祭をひらいて上野樹里さんがでてたり黒沢監督がとった映画を見せたりした。あとJICAのボランティアの方々活動に協力するなど。また、エキスポで日本の文化を発信した。（パンフレット配り、ゆかた、和太鼓）一方、シンガポールでは日本が不参加の状態TPPの交渉が進んでいたところだったので、シンガポールでTPPについての情報収集役をしていた。

- ・外交って空気みたいなもの、達成とかではなく、平和が保たれている現状維持ができていくことが素晴らしい。いままで先人が築き上げてきたいまの日本の繁栄を、これからも維持していくことが目的。最近で一番大きな仕事だったなと思ったのが、安倍首相とトランプ首相の会談をアレンジしたこと。飛行機のなかに会議室があった。時間通りにスケジュールをすすめることができて、日本とアメリカのパートナーシップを確認できて良かった。また日米地位協定についても関わっていて、日本の安定のためには沖縄の基地は必要であるけれど、地域に方々の反対をうけている。これがこの仕事の苦しいところ。ジレンマ。

- ・外務省固有の仕事はやはり在外日本人の安全を守ることが出来ること。また、外務省は日本の中にあるそれぞれの省でも違って来る利害を調整している、日本としてどのように交渉をまとめていくのがベストなのかを見極めていくことがこの仕事の醍醐味。

- ・今回の核兵器禁止条約に日本が参加しなかったことに関しては、保有国を賛同にみちびけていない状況下で会議を始めてしまったため進め方に疑問があった。理念は一緒だが方法においては違うと判断した。

聞いたことをうけて提案・意見・考察

外務省の職員は私たちの当たり前の生活を必死に守ってくれていた。しかし外務省、はじめこういったきれいな社会においては自身の信念を強くもって働ける人材がもっと増えていかなければいけないと感じた。日本のトップの人たちによって、私たちの生活はいともたやすく崩すことができるのだと感じ、危機感をもった。

4. 参議院議員会館

フィールドワークで聞こう、学ぼうと思っていたことと、その解答

- ・日本の国民はたびたび政府に対して「国民の世論をくみとってくれ」というが、日本の国民は基本バカであるからくみ取るべきではないと思う。しかしどうすれば日本の国民がかしこく教育され、本当の国民主権、民主主義は実現できる？

→草の根の運動しかないと思う。国民に政策について、いま国会で議論をおこしていることに対してしっかり広報をしていくこと。やはり政府が国民の意見、デモや世論調査に惑わされることなく、これからも代表が国民の利益を考えて、政治は進んでいく。国民の意見吸収はとても難しい。

フィールドワークで聞いたこと 学んだこと

・現在途上国では汚職が蔓延し、日本の寄付金の多くが実際の支援を必要としている人たちに届いていません。日本の寄付金がどうすれば適切に、途上国に届くのでしょうか？

→PDCAサイクルが大切です。事後検証が可能な環境にしていくことで適切な利用が促進されるでしょう。

・批判的思考はどうすれば身に付く？

→誰かが言っていることに対して、つねに、この人の発言を裏付けるファクトはあるのだろうか？何を根拠に話しているんだろうかということ疑っていく姿勢が大切です。(私は心の中でこの質問に対して、「第一にディベートをしたらいいと考えていて、第二にもディベートがいいと思っていて、第三にも確実にディ…(以下略)」と思っていました。)

聞いたことをうけて提案・意見・考察

関係がないですが川合くんのその人の専門に応じた質問を考えていたあたりが素晴らしいと思った。来年は、東京FWくじ引き組もリサーチをしてからの参加をもっと強要していいとも考える。

5. 国会見学

フィールドワークで聞いたこと 学んだこと

・「権力をもった人間は必ず腐敗する」どんなに偉い立場になろうとも、学園生は学園で培った精神や誓いを忘れてはいけない。

6. 財務省

フィールドワークで聞いたこと 学んだこと

・財務省は建て替えると国民から批判されるから古いままである。

7. 国連大学

フィールドワークで聞こう、学ぼうと思っていたことと、その解答

様々な国の支援を行う中で、教育は次の3つの観点においてそれが1番重要度が高いですか？

1つめ、どこの地域で今特に教育の分野に需要があって、2つめにそのなかでどの世代への教育が必要になっていて、3つめ、そしてどの分野科目において日本は特に強みがあって質の高いものが提供できるのか。

→まず、みんなに考えてほしいのが、なんのために教育が必要なのかと言う点です。ある人はそれを人を支配するために使う。ある人は～のために使う。本当の教育の目的は、その人々の生活が保障されていくために、その人々が幸せに生活していくためにある。だからそれが守られていない地域で教育は必要なんです。

そして2つ目に、教育はとにかく若い世代にとって大切。SDGsでも、これの主体者はあなたたち青年なんだよ、青年がこれからの時代を作っていくんだからやはり若い世代に焦点をあわせていくのがいいとおもう。3つめに、日本のどういうところが強みかといいますと、やはりみんなで社会を作っていこうとする意志があるところだと思う。政治にしても、何にしても、自分たちの制度を自分たちでつくっていこうとする意識が途上国に比べてはるかに高い。その意識を途上国の人々にも共有していくことが私たちには出来ると思う。

フィールドワークで聞いたこと 学んだこと

・リスクマネジメントが一番事業を成功させるうえで欠かせないと感じた。リスクを放置すると負ける。MDGsのリスクはなんだったのかというと、自然災害や戦争を予想しないまま事業を進めており、実際はそれらがおこったことにより、開発計画がすべて台無しになってしまった。ちゃんとリスクにお金をかけておくこと。戦争の対策や防災にお金をかけること。災害紛争というリスクを放置しては絶対に計画は成功しません。

・国連職員になるには？

→正直さ(1人でもみんなでもやっていること一緒の人)、専門性、多様性を尊重する、もっとよくなるように、と変化し続けることを辞めない人。

聞いたことを受けて考えたこと

(聞いたことに関して、自分が思っていたことが正しかったのか、違っていたのか、)

日本人はどちらかというと、他人任せな部分の多い民族だと考えていたため近藤さんのお話には驚いた。日本人として誇りに思う部分が増えて嬉しい。

8. JAXA

行く前に知っていたテーマに関する知識

宇宙開発に携わる。3つの機関を統合している。宇宙と地上を結ぶロケットの開発、国際協力をしながらの仕事。スペースデブリが最近の問題、解決のための行動を起こしている。

テーマに関して、現地で聞いてみようと思ったこと、見ようと思っていたこととその解答

・アメリカやイギリスにも JAXA のような機関ってあると思うのですが、これは JAXA にしかできないって思われる日本の宇宙技術の強みなどがあれば教えていただきたいです（答えてくれたのは研究開発部門の澤田さん）

→日本と比べてNASAなんかは10倍、1兆5000億円ぐらい資金をもっていて、その分日本は技術で負けていたら競争に勝てない。ですから技術力の向上どこよりも頑張っている。日本の強みだと思うのは、無人探査のうちあげ、ロケットで食糧を運ぶのも90%以上の成功率、これは他の国ではなかなかできない。無人小惑星探査機も初めて成功したのは日本。

・スペースデブリはどうしてるの？

→最近10センチ以上のものは取り除き作業に入っている。

・JAXAに文系の人も30%近くいるらしい。文系の人もふぁいと！

フィールドワークで聞いたこと 学んだこと

・国際宇宙ステーション、いま15か国が運営。3500個ぐらいの衛星が飛んでいる。そのうち75%が宇宙ゴミ。2万個ぐらいゴミある100万分の1の確率だけどロケットとかとぶつかる危険性がある。

・JAXAの展示コーナーにおいてあるのは、ほぼ本物と同じもの。発射に失敗したとき用につくっておいたもの。

・GPSのカーナビやダイヤモンドの氷、リオオリンピックの中継。お金かかるけど宇宙開発は重要。

・サーマルブランケット、熱から聞きを守るきんきらきん。裏にアルミホイルで鏡のかわりになって反射して内部の温度をあげないようにする。

・宇宙服につまれているもの、通信機器、コンピュータ、酸素、二酸化炭素を除去する装置、水、水冷方式で体を冷やしている。服に1億、背中のもので9億の総額10億。SMLがある。

・尿→真水にもどす→コーヒー

・閉鎖空間テスト。窓のない、白いかべ、監視されている状態で10日間、や低圧環境に適応できるかのテストなどさまざま乗り越えて宇宙飛行士になれる。

聞いたことをうけて提案・意見・考察

（聞いたことに関して、自分が思っていたことが正しかったのか、違っていたのか、）

・日本の宇宙開発技術の高さに驚き通しの日でした。スケールの大きさがやはり違う、ロマンのある仕事だと思った。これからも日本が無人探査の技術また他の分野でも他国に引けをとらない活躍してほしいと思う。

・NASAなどと日本は協力しあえているのだろうか、JAXAが強く連携をとって仕事をしているのはどの国で、逆にどこの国とは上手くいっていないなどということはあるのか疑問に思った。

・スペースデブリの問題の解決策をもっと知りたいと思った。

フィールドワークの感想

テーマにした、日本人、日本国としての強みを知る、ことをJICAや国連大学、JAXAなどで知ることができた。そして日本の多様な分野における技術力の高さはSDGsの達成に大きく役立つものと思った。また、こんかいのFWで特に印象に残ったのは国連大学の近藤さん。お話をうかがうときにその威厳というか存在感に圧倒された、私たちがすでにもうSDGsの主体者なんだよ、行動を開始して行くべきなんだとおっしゃっていて、もっとリサーチおよびどこかで貢献できることはないか探していくことをより取り組んでいこうと思った。

全体の感想

・今回のフィールドワークは1つ1つの機関での内容も濃く、本当に偉大な方々にお話を聞かせて頂くことができて、刺激があって嬉しい反面、ほとんど知識がない状態でいってしまったことを激しく後悔した。私たちの学習しだいでより一歩深い質問ができたのだろうと思う。次回のFWからは事前学習をしていってもらうといいと思った。質問をしっかりと考えておくとかも。

・あとFWに参加できて、日本の頭脳の方々に出会い、自分たちももっと勉学に貪欲に励んでいきたいと思った。まず今は力をつけるとき。貴重な経験をありがとうございました！！

2017年度広島フィールドワーク実施報告

■目的 本年7月に核兵器禁止条約が採択され、核廃絶への関心が高まる中、戦争・原爆投下で多くの人が苦しんだ広島を訪れ、広島平和記念公園、大久野島、呉でのリサーチを通して戦争の悲惨さ、核兵器の非人道性を学ぶ研修とする。また、広島女学院高校主催のPeace Forumに参加し、ハワイ、沖縄、東京、長崎、広島から集った高校生と共に、核兵器廃絶に取り組むNGOについてポスターセッション、ディスカッションを行い、私たち市民がどのようにNGOと関わり、核廃絶を実現できるかを考える研修とする。そして、戦争の悲惨さ・平和を希求する心を学び、自身に何ができるかを考え、核兵器のない世界・世界平和を求める心を、学校、地域社会、世界に伝えていくためのフィールドワークとする。

■期間 8月5日（土）～7日（月）までの3日間

■参加者 高校1年生12名、2年生5名、3年生8名の計25名

■事前学習

- ・ DVD『ヒロシマナガサキ』の視聴
- ・ 第二次世界大戦についてのリサーチ、メモリーツリーの作成
- ・ 全校生徒による千羽鶴作成と核廃絶に向けての署名活動
- ・ 河内磐船駅周辺とイズミヤ交野店前での核廃絶に向けた街頭署名活動
- ・ NGOのリサーチ、ポスタープレゼンテーションの練習



街頭署名活動



NGOリサーチ



ポスタープレゼンテーション練習



ディスカッション練習

■行程

8月5日（土）

【新大阪駅】

7：30に新大阪駅に集合。出発式を行い、8：04発の新幹線に乗車。岡山駅で一度乗り換え、10：08に三原駅に到着。九州方面より参加の生徒2名が合流し、フィールドワーク参加者25名が揃う。フェリーに乗るため、忠海港行きのバスに乗車。

【大久野島】

忠海港からフェリーに乗り大久野島へ向かった。到着後、大久野島毒ガス資料館を訪れ、毒ガスの製造と歴史に関するDVDを鑑賞した。その後、館内の展示を見学した。館内には当時毒ガス製造工員が着ていた衣服や防毒マスク、手袋、工員手帳、液体毒ガス製造装置の一部、大久野島の歴史などが展示されていた。

資料館を見学した後、行動班に分かれて昼食をとり、レンタサイクルを利用し島内の遺構を見学した。遺構の中は真っ暗で、毒ガスが製造されていた時から時間が止まっているようだった。他方、島内には数百羽のうさぎがおり、餌をやろうとすると跳んで近づいてきたり、日陰でゆっくりと休んだりする姿はとても愛らしかった。最後に全員で美しい海を背景に記念写真を撮り、フェリーで島を後にした。

○生徒の感想

- 毒ガスの製造により、製造に関わっていない一般の人々も後遺症に苦しんだことを知りました。これは、絶対に背負わなければならない歴史であり、二度とこのような犠牲者を出してはならないと強く感じるとともに、この悲惨さを後世に伝えていく使命が私達にはあると実感しました。また、この大久野島は、うさぎの島としても有名であることから、たくさん海外の観光客が訪れる場所ですが、その中には毒ガスが製造されていた歴史を知らない人々もいるということを知り、大久野島を訪れる観光客には、うさぎの島としてだけではなく、毒ガス工場や戦争の歴史をしっかりと伝えていくことが平和の思想を世界に広げていく身近な一歩なのではないかと思いました。（高3女子）
- 毒ガスの非人道性とその毒ガスを製造し実際に使用した日本軍の卑劣さを学びました。また、戦争後も残った不発弾の影響で現地の人に被害が出ていることを知り、今までの自分がどれだけ無知だったかを知ると同時に、今回この事実を学ぶことが出来て本当に良かったと思いました。（高3男子）



毒ガス貯蔵庫の遺構を見学



毒ガス製造の歴史を学ぶ

【広島平和記念公園での碑めぐり】

広島女学院生の案内で、レストハウス、原爆犠牲者慰霊碑、原爆の子の像、原爆ドーム、韓国人犠牲者慰霊碑、相生橋、原爆供養塔など、原爆投下の歴史を伝える碑、建物を回った。

◆広島市立高女原爆慰霊碑

1945年8月6日、建物疎開中の1・2年生（当時12・13歳）521人、教職員7人全員が亡くなった。この慰霊碑にはアインシュタインが導き出した原子力エネルギーの公式である「 $E=mc^2$ 」と書かれた箱を中央の少女が持っている。核への訴えを目的に作られたが、占領軍の占領下であったため、「原爆」という文字の使用が許されておらず、このような表現をしている。



◆峠三吉詩碑

この碑は、占領軍の弾圧に屈さず、核兵器の使用に反対し続けた峠三吉の勇気と平和への熱意をたたえとともに、核兵器廃絶の決意を新たにするために建てられた。ちなみに平和公園内で個人を慰霊する碑はこの慰霊碑だけである。

碑文 「ちちをかえせ ははをかえせ
としよりをかえせ
こどもをかえせ
わたしをかえせ わたしにつながる
にんげんをかえせ
にんげんの にんげんのよのあるかぎり
くずれぬへいわを
へいわをかえせ

峠 三吉



○生徒の感想

占領軍による制限があった中、表現を変えながらも核廃絶を訴え続ける、断じて屈さない信念の強さを感じ、「自分の信条を堂々とのべ正義のためには勇気をもって実行する」という校訓と同じ精神を感じました。（高3男子）

◆韓国人原爆犠牲者慰霊碑

強制労働などにより、広島で被爆した数万人の朝鮮人を慰霊する碑で、「死者の霊は亀の背に乗って昇天する」との韓国の言い伝えにならって、土台は亀で上部には二頭の竜が刻まれた。最初、この慰霊碑のみが孤立して作られていたことが韓国人差別として問題になったので、平和記念公園内に新たに作られた。

○生徒の感想

形や石の種類や設置場所など、亡くなられた朝鮮人の方々が安らかに眠れるように考えられて作られたのだと感じ、日本人の慰霊碑しかないと思っていた自分が恥ずかしくなりました。（高3女子）

◆原爆供養塔

原爆の強烈な熱線と爆風により即死してしまった、身元不明の遺骨や一家全滅などにより、引き取り手のない遺骨が約7万柱納められている。このような遺骨を遺族のもとへ返すため、広島市は氏名が判明している遺骨名簿を毎年公開して遺族を探し続けている。原爆死没者の中には様々な宗教者もいたことから、8月6日には様々な宗教、宗派による供養慰霊祭が営まれている。



○生徒の感想

私は碑巡りをするまで原爆供養塔について知りませんでした。原爆は一瞬にして市街、人間を破壊しただけではなく、家族とのつながり、絆をも分断しました。72年たった今でも身元不明の原爆死没者は家族と会うこともできないと思うと、私なら耐えられないと思いました。誰なのかわからなくなるほどの被害をもたらした核兵器。これからの私たちの役割について改めて深く考えさせられました。（高1男子）

◆原爆死没者慰霊碑(広島平和都市記念碑)

広島平和記念公園内にある日本、韓国、アメリカなどの約30万人全員の原爆死没者の慰霊碑。ここにある石碑には「安らかに眠って下さい 過ちは繰返させぬから」と刻まれている。この文が作られるまでには様々な議論があり、石碑に傷やペンキをつけられたりもした。しかし、この文の主語はアメリカ人でも日本人でもなく、「すべての人々」であり、一人一人が戦争、また核兵器の悲惨さを二度と繰り返さないという誓いが込められている。

○生徒の感想

私はこの石碑の文の思いについては知らなかったのですが、特にこの文の主語が「すべての人々」という思いがとても大切だと感じました。そして、この戦争による核兵器の悲惨さと残酷さを絶対に忘れず、このような過ちを二度と繰り返してはならないと強く思いました。

（高1男子）



女学院生の案内で平和公園内の碑めぐりへ

【献花・千羽鶴奉納】

碑めぐりのあと、広島女学院生と共に献花を行った。その後、学園生全員で作成した千羽鶴を奉納し、平和を祈念した。

○生徒の感想

広島女学院の方に碑めぐりのガイドをしていただく中で、写真と実物との圧倒的な違いを感じ、鳥肌が立って胸が苦しくなりました。献花も一番前でさせていただいたのですが、私たちの前に献花と黙祷をされていた女性は戦争で辛い経験をされ、心から平和な世界にしたいと願われているのだとその女性の背中から、黙祷から感じました。だからこそ私たちがこのような思いをしなくてすむような世界に変えていかなければならないのだと決意を新たにすることができました。（高3女子）



学園生で作成した千羽鶴の奉納



原爆の子の像の前で犠牲者を想う

【平和記念資料館】

献花・千羽鶴奉納の後、女学院生と別れ、広島平和記念資料館を見学した。原爆が投下された、悲惨な情景と、戦火をさまよう人々の写真、広島市が一瞬にしてなくなっていく映像、被爆された方々が送っていた日常が伝わる展示物が多くあった。戦争の残酷さがまざまざと伝わってきた。

○生徒の感想

- ・ 展示には写真がたくさんあったが、撮影した人の心情を伝えるパネルがあり非常に心を打たれた。どのような気持ちでカメラのシャッターを切っていたのだろうと思っていたが、やはり大きな葛藤があったのだと改めて感じた。また、原爆が落ちるその一瞬まで使われていたものを見て、とても心が痛かった。物が展示される事で、原爆の怖さ、残酷さがよく伝わると思う。これからもたくさんの方に見学してほしいと思った。（高3男子）
- ・ フィールドワーク初日。僕はとても心に残ったことがあります。それは、平和記念資料館で見た、被爆後に咲いたカンナの花の写真です。今日は、広島女学院の方と碑めぐりもさせていただき、そのときに見た広島市街は原爆投下されたことがわからないほど、復興されていました。僕はこの広島の人々の「原爆」という惨劇があったのにも関わらず、それに負けず立ち上がる強さを「75年は草木も生えない」と言われた広島に咲いたカンナのように感じました。今の世界は、いまだに核の危険と隣り合わせの状態にあります。この戦争が風化されている時代にあって、原爆という悲劇について、教えていただくことができる私たちは、あのカンナの花のように力強く、核廃絶に向けて動き出す使命があると思います。（高1男子）

8月6日（日）

【広島平和記念式典】

午前6時半に広島記念公園へ到着し、8時に広島平和記念式典が開式した。広島市長の平和宣言、さらに内閣総理大臣や国際連合事務総長（中満国連事務次長の代読）などが核廃絶、平和への思いを述べた。平和公園の周辺では、デモや抗議が行われており、様々な思想をもった人がそれぞれの思いを抱えて 8月6日を迎えていることを肌で感じる事ができた。

○生徒の感想

- 平和記念公園で、小学六年生の時に被爆されたおばあさんが話しかけてくださいました。
「あの日は地獄。空も地も広島が黒と赤で染められた。」「この花は原爆投下後、初めて咲いた花なんだ。」「私は嬉しい。遠くから歴史を学ぶために来てくださって。いろんなことを学び、伝えていってほしい。」「ありがとう。忘れないで。」この声を世界に届けていきます。被爆者の方が話してくださったことを忘れず、この式典を自身の平和の原点としていきます。「核は絶対悪」。この言葉を世界へ浸透させていきます。（高1男子）
- 「8月6日午前8時15分」この時いつもなら家で黙祷を捧げていました。ですが、今年は広島平和記念式典に実際に参加させていただきました。朝早くから大勢の方たちが慰霊碑に献花をし、手を合わせている姿を見た時「なぜ人類はこのような過ちを犯してしまったのか」ととても強く思いました。あのような悲劇から72年、僕たちの世代の人たちは戦争を実際に体験された方はおらず、この日を何となく過ごしてしまっていると思います。僕自身前までそうでした。しかし、今回調べ学習、現地調査を行って考えが改まりました。日本にとってこの日は絶対に忘れてはならないし、ないがしろにしてはいけない日だと。僕はこのフィールドワークを通して世界平和がどれ程凄く大変な事なのか分かりました。この経験を身近な友に語り話し合い、僕たちの世代で世界平和を実現出来るようこれからは勉強第一で何にも挑戦していく決意です。（高1男子）
- 平和記念式典では、来賓の方や知事などたくさんの方が話されました。私が特に、印象に残ったのは、小学生の誓いの言葉です。小学生が原爆を二度と使われないよう世界の人々に訴えている姿が忘れられません。戦後何年たっても、広島の方々の気持ちは変わらないのだと思うと、いつまでも原爆の悲惨さを忘れてはならないと感じました。しかし、広島以外に住んでいる人は、だんだんと原爆に対する意識が低くなっているように感じます。今回のフィールドワークで、原爆の悲惨さなどたくさんのことを学ばせていただき、私たちには、それを伝えていく使命があると思いました。（高1女子）

【外国人インタビュー】

式典後、平和記念資料館の周辺で外国人の方に英語でインタビューを行った。事前に質問を準備し、自分の知っている単語を使って意思疎通をすることができた。中には英語が母国語でない方もいたが、そういう方とも英語を使ってコミュニケーションが取れるということを知り、改めて英語の大切さを感じた。核保有国出身の方も含め、インタビューを受けてくださった方全員が核兵器に対し否定的な意見をもっていて、核兵器の非人道性は世界共通なのだと感じた。



【大和ミュージアム】

広島市電で広島駅に向かい、在来線で呉へ移動。午前11時に大和ミュージアムへ到着。最初に全員で太平洋戦争の時代に日本軍の主力戦艦であった戦艦大和で水兵として戦っていた青年のことを描いたアニメを見た。その後グループに分かれ、大和が造られていた造船所や、実物の10分の1の縮尺の戦艦大和や人間魚雷「回天」、特攻部隊の飛行機「零戦」などを職員の方々に説明していただきながら見学をした。



実物の10分の1の縮尺の模型「戦艦大和」



戦艦大和の造船所の前で

○生徒の感想

大和ミュージアムを訪れた際に見たビデオでは戦艦大和の説明と共に、戦時中の兵士がいかに軍国主義によって、間違った教育を受けていたのかということが心に残り、教育がその人の思想にこれほど影響するのかと思いました。逆に、この教育が素晴らしいものになれば、核廃絶は遠い未来ではないと確信することができました。僕はまだまだ、人に教えられるような人材ではありません。しかし、このフィールドワークで感じた様々な感情を忘れず、それを原動力とし、核兵器や語学力を学びに学んで、必ず、平和に貢献する教育者になります。

(高1男子)

【Peace Forum】

呉で昼食をとり、在来線で広島駅へ。14時50分に広島女学院へ到着し、15時にPeace Forumが開会。初めに、司会が参加校を紹介。次に、スペシャルゲストとして包括的核実験禁止条約機関(CTBT)準備委員会事務局長ラッシーナ・ゼルボ氏がスピーチを行い、青年の行動が世界平和につながることを力説。そして、世界の様々なところから青年が集まり連帯を強めていくことで、世界はよりよい場所になると話され、Peace Forumに集った高校生を激励してくださった。その後、ハワイのプナホウスクールによるプレゼンテーション・パフォーマンスを経て、ポスターセッションへと移った。

本年度は、“Power to the People”とのテーマで、既存のNGOが行う活動を広げるために我々市民に何ができるのかを考えた。約1時間、これまで調査してきたNGOについてのポスターセッションを行った。その後、投票で支援していきたいNGOを5つに絞り、5グループに分かれて、それぞれのNGOが今後行っていくべき活動をブレインストーミングした。各グループでアクションプランを作成し、全体で発表を行った。関西創価からは2つのNGOが選ばれ、事前準備の成果を発揮させることができた。また、最後の最後まで積極的にPeace Forumに参加し、大成功で終わることができた。

○生徒の感想

- 私達のプレゼンでは事前学習に取り組んだ分、自分の意見を発表することの楽しさも難しさもより強く体感でき、貴重な経験となりました。中でも、プレゼン後に行われたブレインストーミングでは広島女学院のみなさんと活発に意見を交換することができ、これも貴重な経験となったと感じています。僕が感動したのは、女学院の方々と『高校生という立場だからこそできる』という視点から話し合いができ、具体的なプランを作成できたことです。このフィールドワークに参加する前、僕は高校生にできることなど、限られている。やはり、平和に貢献するのはまだまだ、後の話だと思っていました。しかし、今回のフィールドワークの活動を通し、また、この話し合いを通し、僕たちでも、自分達の気持ち次第でアクティブに活動できると実感しました。また、キリスト教の学校である女学院生の方とも同じ核廃絶という目標を掲げて話し合えたこともとても良い経験となりました。（高1男子）
- 広島女学院では共にニューヨークの地で平和な世界を築くことを決意しあった友人との再会もあり、日本中からまた世界から集いあった友と交流を深めることが出来ました。核兵器の廃絶に向けて私達市民社会には何が出来るのか。言語や文化の違いを超えて、平和という共通目的のもと、共に語り合い友情を結び合えるなんてこれ以上に尊いことはないなと感じました。また、このような機会を設けてくださった広島女学院の皆さん、学園の先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。この平和の対話をこういった機会を与えられずとも自分から創り出していけるように、更に学びに学び抜いてまいります。（高3女子）



ゼルボCTBT0事務局長



広島女学院に署名を提出



ポスターセッションの様子



アクションプランの発表

【フィールドワーク終了】

19時過ぎにPeace Forumが終了し、広島女学院で弁当を食べ、ホテルに向かった。台風5号直撃の予報のため、生徒の安全を最優先し、7日は朝食後に帰阪することとなった。

8月7日朝、朝食後ホテルを出発。九州方面の生徒は8:22発さくら543号で広島を後にした。大阪方面組は9:50発のぞみ124号で出発。途中、寮生・下宿生はそれぞれの帰路につき、帰阪組は11時18分に新大阪駅に到着。解散式を行い、帰路についた。

■広島フィールドワークを終えて

- 今回のフィールドワークを通し、全員の平和に対しての姿勢が大きく変化し自分たちで平和を築くという意識が高まった。世界平和への活動を高校生という立場からでも始めていくことができると気付いた。そして現地へ行きその場所で学び、その学びを自分のものにしていくことがどれだけ貴重なことかを感じた。70年のサイクルで戦争は起こると言われているこのときに平和を築いていくのは自分たちのような若者であるから、この学びを学園生、家族、地域の人々と広げていくと決意した。（高3男子）
- エキスパートの講義を受け、英語でディベートすることも大事だけど、こうやって肌で見て感じて、広島で平和を望んでいच्छる一人一人の想いを知ることがどれほど大切な身にしみて感じました。出発前は連日のハードな準備に心が折れそうになることもありましたが、新たな友人もできて、とても充実した時間でした。特に署名活動では、私の予想よりもはるかにたくさんの方がペンをとってくださり、本当に嬉しかったです。無口な人、親身になって話を聞いてくれた人、様々な反応があったけど、こんなにも多くの方が核廃絶を求めているのだということを知り、核の現状に悲観するのはまだまだ早いと思ったし、どんどんたまっていく署名をみて、確かに自分は外交も資金提供もできないけど、ただの高校生だけど、決して無力ではないということに気づくことができました。集まった署名の束は皆で協力すれば大きなことでも成し遂げられるということを教えてくれていました。（高3女子）
- 私が広島を訪れて一番感じとれたこと。それは、核なき世界の実現に向けて希望を捨てずに歩み続けることの大切さです。広島を訪れる前の私は、署名を集めたところで、私が決意したところで、きっと何も変わらないだろうと思っていました。しかし、かつて毒ガスが作られていた大久野島は、豊かな自然や透き通った海に囲まれ、可愛らしいさがたくさん過ごし、原爆ドーム付近も緑であふれていました。このように美しい街になったのは、原爆投下後、多くの人々が団結し明るい未来をつくろうと努力を積み重ねてきたからだと思います。広島女学院の生徒さんや広島を訪れていた外国の方々は少しでも学ぼう、少しでも何かしようと、希望を持って行動をしていました。そういった一市民が希望を捨てずに歩んできた日々の結晶が広島でした。様々な学びを通して、核兵器が絶対悪だと気づいた今、私に必要なことは希望を持つ勇氣です。核の問題を市民が解決することは難しいことです。しかし、そこで最初から諦めて何もしないのではなく、広島の高校生のように、私も希望を持って自分にできる活動を行っていきたいと思います。創立者がよくおっしゃられている民衆の連帯の大切さ、そしてその力を実感できた広島フィールドワークでした。（高3女子）

■市長と語る会

フィールドワーク終了後、大阪府交野市の黒田実市長ならびに、交野市教育委員会 北田学校教育部長ご一行を本行にお招きし、『交野市長と語る会』を開催した。まず生徒代表が学校紹介を英語で行い、フィールドワークの様子を収めたビデオを鑑賞した。次に、ラーニングクラスターのメンバーが、核廃絶についてのリサーチを発表。その後、広島女学院でのPeace Forumに向けて作成した、核廃絶に取り組むNGOのポスターを使ってポスターセッションも行われた。黒田市長からの挨拶の後、交野市における核廃絶への取り組み、人権啓発教育や活動についての説明があった。その後、質疑応答があり、生徒からは、多くの質問、提案があった。

生徒たちの、さらなる核廃絶への取り組み、平和教育の拡充への提案に、黒田市長、交野市教育委員会 北田学校教育部長も大変感銘を受け、力強い賛同の声をいただいた。

○生徒の感想

- 私は署名活動で、伝えたい思いをなかなか言葉にして伝えられず苦戦しました。しかし、立ち止まって、一筆頂いたあとに「暑いのに偉いね。頑張ってるね。」と、言ってくださる人がいて、その時すごくやって良かったなと感じました。僕達の想いが伝わったと確信した瞬間でした。それが自信となり、最初の方は恥ずかしくて周りの様子を伺いながら恐る恐るやっていましたが、「僕達の活動が時代を変えるんだ。」「今回はサインしてくれなくても、来年サインしてもらえるように今、しっかり訴えていくんだ。」と胸を張って呼びかけていけるようになっていました。最初はどれだけ多く署名を集めれるか心配してましたが、一番大事なのは、僕達の核廃絶への思いをどれだけ多くの人に伝えられるかだと学びました。今までは街頭での署名活動を見る側でしたが、今回やる側になって、やる側にしか分からない色々な気持ちや想いが分かるようになりました。次にこのような平和のために活動している人たちを見たら、平和につながるのなら早く協力しようと決意しました。このように誰が何をどのような気持ちでその活動を行っているかを創造する、「イマジネーションが大切だ」という黒田市長のお言葉に深く共感させていただき、その時の気持ちをもう一度思い出すことができました。本当にありがとうございます。（3年男子）
- 交野市を引っ張っていらっしゃる方の話を聞く経験は初めてで、とても勉強になりました。貴重なお話を本当にありがとうございました。交野市が発刊している『平和の礎』のような戦争体験集は、私たちの世代にとって戦争について学べる貴重なものであると思います。今回いただいたこの冊子をもとにして、また自分の親世代にも広げていこうと思いました。若い世代には、若い世代である自分達が真っ直ぐ伝えられるのではないかと思います。私自身も、今回学んできたことを学びで終わらせたくないなと思っています。また良いご報告ができるよう、今回の会を大切に頑張っていきます。（2年女子）
- 私たちが広島フィールドワークに行ってきたことや、市長との様々な懇談は私たちの未来へと繋がる大きな鍵であると思います。また、平和について私たちが学んだことを周りに拡散していくことはとても大切だと思います。だからこそ、今私たちに何が出来るのか再確認してさらに平和について学んでいき、周りを平和の波で変えていけるような人材に成長していきたいと決意させていただきました。交野市の小学校、中学校でも児童教育として戦争の悲惨さを知ってもらうために活動を行っていることを聞かせていただいて本当に感動しました。世界的にも核廃絶にむけての本格的な取り組みがされていると思います。私の夢は人の手助けになる機械やロボットを開発することです。今までに学んできたことを大いに活用し、自分の開発したもので世界を変えられるようなものを将来作っていく決意です。（3年男子）



ポスターセッションの様子



黒田市長の挨拶



活発な質疑応答



黒田市長一行と



広島フィールドワークメンバー25名
平和への誓いを胸に

California Trail 2018

Kodai Kikuchi, Masateru Okawa, Noriko Matsuda, Sakura Tagawa, Momoe Senda

Day 1&2: Jan.28-29, 2018



UCLA の学生と探究してきた内容についてのディスカッション

Day 1: University of California, Los Angeles

by: Masateru Okawa and Kodai Kikuchi

1 日目はカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) を訪問しました。4 つのグループにわかれ、私たちの研究してきた核廃絶、気候変動、模擬国連の3分野について、学生の方とセッションを行いました。専門的な視点からのアドバイスに加えて、「大きな問題に対し、自分には何もできないと思ってはいけない。今学ぶことで、根が張り自分の土台ができていく。その根はいつか芽を出し、自分の武器となる日がくる。今はしっかり自分の根を張るときだ」との大きな励ましを送ってくださいました。その後、学生の方々に UCLA 構内を案内していただきました。広大なキャンパスで、コンサート使用の大ホールや 800 万の蔵書数を誇る歴史的な図書館を見学し、日本ではなかなか見ることのできない、壮大で自由な雰囲気に触れることができました。

Day 2: University of Southern California

by: Noriko Matsuda

2 日目は南カリフォルニア大学 (USC) を訪問しました。宗教学部学部長のバルン・ソニ博士へ、核廃絶についてプレゼンテーションを行いました。私たちの研究の考察と熱意を称賛していただき、さらに、より具体的で地域に根ざした提案をしていくべきだとのアドバイスをくださいました。また、「宗教の違いを正しく理解していくにはどうしたらいいですか」との質問に対して、それぞれの宗教を理解するだけでなく、人間そのものを理解することが重要だと答えてくださいました。そして、「今、世界は正義の行動を前に進めることが難しい時代だが、それは私たちを強くするための試練であり、人々は宗教の違いを超えて、ともに行動していくことができる」との言葉をおくってくださいました。その後、助手のパークロウ博士に学部棟を案内していただき、宗教ごとに祈るスペースがあることや、学生の宗教への考え方について話していただき、多様性が尊重されていることに感銘を受けました。



バルン・ソニ博士(最前列左から3番目)とジム・パークロウ博士(写真中央)とセッション終了後に



マクレイス平和委員会議長より貴重な意見を伺う

SGI-USA

by: Momoe Senda

最後にサンタモニカにある SGI-USA に訪問し、多くの方に歓迎され、平和委員会の方々とセッションを行いました。世界平和を実現する上で、人権の尊重や、男女平等・民主化を促進すること、そして教育を通じて平和の文化を育むことを教えていただきました。そして、「平和は目の前の一人一人を大切に、信じることから始まること」と強く訴えられました。平和委員会の方々とセッションを通して、私たちに与えられた使命の大きさを改めて実感し、遠く離れた地で、ともに平和を目指して活動する方々から勇気をもらいました。その後の議長との質疑応答では、「自分には平和を実現するような自信はないという人もいます。どのように巻き込んでいけばいいですか」との質問に、「全員が光り輝く要素を持っている。だから、それを磨いてあげて気づかせてあげればいいんだよ」と答えてくださいました。

California Trail 2018

Kodai Kikuchi, Masateru Okawa, Noriko Matsuda, Sakura Tagawa, Momoe Senda

Day 3: Jan.30, 2018



ウォルドルフ学校の生徒とともにキャンパスツアー

Day 3: Exchange with Waldorf Students at SUA

by: Masateru Okawa and Sakura Tagawa

3日目はアメリカ創価大学（SUA）を訪問しました。まず、オレンジ郡にあるウォルドルフ学校の高校2年生とともにグループに分かれてキャンパスツアーをしました。ガイドの方による説明を受けながら寮や食堂、ホールなど様々な場所を見学しました。その行く先々で多くの寄付者の名前が壁に刻まれているのを見つけ、創立者がつくってくださった大学が、多くの方の支援によって、発展を続けていることに感動しました。ウォルドルフ生とは、グループが一緒なもの、学校ごとに固まってしまう、なかなか話せませんでしたが、キャンパスツアーを通し、同じ時間を過ごす中で少しずつ打ち解けることができました。ウォルドルフの学生は、私たちが話す英語を理解しようと、集中して耳を傾けてくれ、その優しさにとても感動しました。と同時に、その彼らの誠意に応え、一生涯の友情を築いていきたいと強く思いました。そして、翌日訪れるウォルドルフ学校の行程の中で、さらに彼らと仲良くなれるよう行動していこうと決意を新たにしました。

Sharing our Research with SUA Professors

by: Masateru Okawa and Sakura Tagawa

午後は、私たちの研究分野に精通する教授に対し、プレゼンテーションを行いました。核廃絶グループはテツシ・オガタ教授、気候変動グループはデイク・ピーターズ教授、ブライアン・ペンプレス教務部長、模擬国連グループはピーター・バーンズ教授より、専門的な視点で細かなところまでフィードバックをいただきました。プレゼン後は、時間の許す限り一人一人の質問に親身に答えて下さり、模擬国連グループでは、「人々に偏見を生み出す原因は何か」との質問に対し、アメリカと東京のディズニールンドを例に出して「常に接している親や教師に加え、様々な施設や場所でも、気づかないうちに偏見の思想を吹き込まれている」と教えてくださいました。昨年、バーンズ教授は、東京ディズニールンドにも研究活動の一貫として来られており、実体験を通してのお話に、自分たちで調べているだけでは足りなかった観点を教えていただきました。



ピーター・バーンズ教授（中央）が我々の研究に対して講評を

Former UN Under-Secretary General, Ambassador Anwarul Chowdhury

by: Masateru Okawa and Sakura Tagawa

夕方、チョウドリ元国連事務次長とセッションを行いました。最初の15分間は、日本の関西創価中学校高校と同時中継を行いました。チョウドリ大使からは「多くの大学教授や世界の識者と交流することは、あなたたち自身の成長を促してくれる。世界市民育成のための人間教育を行う創価の学校は素晴らしい」とのメッセージを頂きました。その後、模擬国連、気候変動、核廃絶の順番で、プレゼンテーションをし、それぞれのグループに対し、コメントを頂きました。模擬国連グループに対しては、「今、国連が実際に行っていることは、利益のことではなく、今起っている問題に対してどうすれば最善の手を尽くせるかと行動することです」とコメントされました。さらに、私たちのプレゼンの中で紹介した「他人の不幸の上に自分の幸福を築いてはいけない」との平和教育原点の指針に深く共感を示してくださいました。その後、国連加盟国193カ国すべてが同意した国連憲章を見せてくださり、平和の文化を築いていくことの大切さを教えてくださいました。



気候変動グループのプレゼンにチョウドリ大使よりコメントを

California Trail 2018

Kodai Kikuchi, Masateru Okawa, Noriko Matsuda, Sakura Tagawa, Momoe Senda

Day 4: Jan.31, 2018

Day 4: SUA Learning Cluster Fair

By: Kodai Kikuchi



アメリカ創価大学の学生の発表を真剣に聞き入る

4日目はアメリカ創価大学（SUA）で行われたラーニングクラスター（LC）フェアに参加しました。LCフェアというのは、SUAの学生たちがそれぞれが特定のテーマについて、教授とチームを組み、研究した結果を発表するものです。展示方法や内容も、多岐にわたっており、ポスターを用いて、香辛料がガン細胞や脳に与える影響について発表しているチームや、映像を使って、太陽、地球、月が並んだ時に、月が赤く見える現象について発表しているチームなどがありました。中でも印象的だったのが、政治的社会的化について研究しているチームでした。アメリカが、政治の面で国民をコントロールするために、一見政治とは関係ないと思われるような場所でも、愛国心を植え付けるような工夫がされていることを、日本と比較し研究していました。説明してくださる学生はみなさん自信と情熱に溢れており、会場全体が活気にあふれていました。

Waldorf School of Orange County

by: Noriko Matsuda

午後からは、ウォルドルフ校を訪れ、約2時間にわたり交流を行いました。校内見学では、様々な教室を案内していただき、一般的な日本の高校では考えられないほどの大きな校舎に驚きました。また、縫い物の授業や、建築の授業なども見学しました。その後、それぞれのグループに分かれ、私たちの研究について発表を行いました。前日の交流時とは打って変わり、お互いが積極的に意見交換を行い、高校生という同じ年代の視点から問題解決に関して議論を重ねることができました。広い校舎や学生たちの自由な校風など全てが新しく、私たちにとって教育のあり方を覆す経験となりました。最後はお互いのパフォーマンスとして、ウォルドルフ生は創作ダンス、私たちはソーラン節を披露しました。約2時間という短い時間でしたが、再会することも約束でき、ウォルドルフ校と創価学園にかけがえのない友情を結ぶことができたと感じています。



ウォルドルフ生とのディスカッション

University of California, Irvine

by: Kodai Kikuchi



マッシュー博士（中央）から講評とアドバイスをいただく

その後、カリフォルニア大学アーバイン校（UCI）で、環境面に精通されているリチャード・マッシュー博士へ、気候変動について、開発、人権、平和という3つの観点から問題解決を研究したプレゼンテーションを行いました。「人々が問題に対し、強く認識を持つことが重要だ」との私たちの意見に対し、マッシュー博士からは、気候変動によって起きる問題を正確に可視化することで、人々に今の状況をはっきり伝えることができ、多くの人が協力し合えるようになるとフィードバックをいただきました。また、私たち高校生はもう子どもではなく、人々に対し、気候変動の現実と、行動に移すことを訴えていく使命を持っていると強調されました。ディスカッションの中では、気候変動は、大きな問題すぎて自分たちには関係なく、到底太刀打ちできないと勘違いしやすいですが、私たち個々の生活の一つ一つの行動を、環境に優しいものに変えていくという、誰もができる小さな変革が、この気候変動の悪化を緩和していくことにつながると明言してくださいました。

California Trail 2018

Kodai Kikuchi, Masateru Okawa, Noriko Matsuda, Sakura Tagawa, Momoe Senda

Day 5: Feb. 1, 2018

Day 5: Nuclear Age Peace Foundation

by: Masateru Okawa



核廃絶グループによるプレゼンテーション

5日目は、サンタバーバラにある核時代平和財団（NAPF）を訪れました。デイビット・クリーガー博士と2人の NAPF 職員の方々に温かく迎えていただき、核廃絶グループがプレゼンテーションを行いました。人権、宗教、環境の3つの観点から研究し、提案をするグループの発表を、博士は真剣な眼差しで見てくださいました。講評では、高校生という若い世代が核廃絶について真剣に考えていることを心から讃えていただき、「人権は核廃絶において最も重要なポイントである。そして宗教を通して核廃絶を目指すことは価値ある方法の1つであり、環境への影響を広げることは、同時に核兵器の恐ろしさの人々に気付かせ、深く考えさせることに繋がる」とコメントしてくださいました。最後に、「小さな声でも訴え続ければ大きな力になる、核廃絶を絶対に諦めてはいけない」と私たちを鼓舞してくださいました。その後、質問会が始まりました。

Question and Answer Session with Dr. Krieger

by: Noriko Matsuda and Masateru Okawa

Q, 核廃絶も大切ですが、貧困や難民問題といった、まさに今苦しんでいる人を助ける方が最優先のようにも感じます。

A, 様々な問題に対し、何か1つを選ぶ必要はありません。1つの問題のみを解決して他の問題を無視する必要ありません。また、核廃絶は他の問題とも関連しているのでどんな立場でも核廃絶に取り組んでいくことができます。

最後に博士は、私たち創価学園生にメッセージをくださいました。「皆さんは、世界に目を向ける学校に通うことができ、とても幸せ者です。皆さんが受けている教育は、世界市民になるための教育です。私たちは今、世界市民を必要としています。皆さんの質の高さと皆さんが受けている教育の高さに触れ、私は感銘を受けました。未来への希望をいただきました」

メッセージを受け、今私たちが、世界平和のリーダーである創作者のもとで創価教育を受けられている幸せと誇りを実感しました。



クリーガー博士（中央）は私たちの質問に一つ一つ丁寧に答えてくださいました

What We Learned from California Fieldwork

by: Noriko Matsuda



世界平和の実現を固く決意したフィールドワークメンバー

私たちはこの5日間のフィールドワークで多くの場所を訪れ、個性と才能あふれる学生や著名な教授の方々、創立者と対談された識者の方々との貴重な出会いをさせていただきました。その全ての経験から希望や勇気、知恵を学ばせていただきました。また、訪れた先々で、人々が互いの主張や宗教の違いを共有し尊重し合っていることに感動しました。世界平和には宗教や民族などの様々な違いを超えて、お互いを尊重し合うことが重要だと感じました。さらに、クリーガー博士とのセッションの中で博士が言われたように、平和を追求することを諦めてはいけない、世界平和を実現するには行動を起こし続けることが大切だということを学びました。このフィールドワークを終えた今、私たちの行動で世界平和を実現するのだと、全員が決意を新たにしています。

東北フィールドワーク通信 1日目

2018年3月22日(木)発行



語り部・草島さんのお話が胸を打つ

語り部と歩く3・11

公益社団法人未来サ
ポート石巻が行って
る体験型プログラムに
参加。3・11当日に
語り部さんが被災した
地域や避難した道など
を、お話を聞きなが
ら一緒に歩いた。
『無くなった物はも
う戻ってきません。新
しい街が出来てもそれ
だけが復興ではない』
と、語り部の草島さん
から聞き、復興とは何
かをすごく考えさせら
れました。震災の本質
を少しは分かることが
できたと思います。7
年経ったから復興した
わけではなく、7年間
ずっと家族を探されて
いる方もいます。仮設
住宅で生活されている
方もいます。街自体の
復興もそうですが、心
の面での復興もまだま
だ進んでいないと感じ
ました。(石田)

語り部の方から実際
に話を聞き、もし自分
だったらと沢山考える
機会がありテレビで見
るのとは実際に歩いて
みるのでは全く違って
て気候も当時と同じだ
いと言ふこともあり寒
さの辛さも身を持って
感じました。(渡部)

南浜つなぐ館



被災地・石巻に降り
立った私たちを迎えて
くれた「がんばろう！
石巻」の看板。側に
建つ『南浜つなぐ館』
では、震災2年前の町
並みを3Dプリンター
で再現した模型や、V
Rで震災直後の様子を
体感できるような展示
があった。
今日は1日で感じたこ
とは、7年経った今で
も東北という場所が残
るといふことが残って
は徳島出身で南海大地
震がいつ来てもおかし
くない状況です。この
3日間死にものぐる
いで沢山の想いや対策
の仕方を覚え、帰省し
た際に家族や地域の
方々に伝えていきま
す。(齊藤)

黒澤配管工業にて

『がんばろう！石巻』
の看板を作られた黒澤
さんの職場を訪ねた。
石巻の津波の最高到達
点6・9mとは、2階建
の建物で埋まるくらい
のことだと思い、すく
怖いと思いました。木
に登り、3mの高さから
も足がつくという中で撮
られた映像は大変貴重で
した。津波の第一波は黒
い波だったらしいので
くその10分後には冷た
らしいです。黒澤さんは
その波のことを「津波と
いうより、海そのものが
やってきた」と表現され
ました。その津波は朝に
なって引いたそうです。
『がんばろう！石巻』の
看板を立てた理由をこ
うおしゃっていました。
「津波に流され、何もな
い場所家族を探してい
る人を見てとても悔し
かった」「励みたい負
けたくない気持ちを形
に。」僕はこの部分に今
日一日で一番感動しまし
た。人のために尽くし
きった結果、こんなに
石巻の人の心の支えにな
れたのだと感じました。
(足立)

東北フィールドワーク通信 2日目

2018年3月23日(金)発行



12枚のカードを作製し一枚ずつ破る

疑似喪失体験

東北学院大学土樋キャンパスにて疑似喪失体験プログラムに参加。大切な人や物を失う悲しみ、明日が来ることは奇跡、今を大切に生きることの大事さを心に刻んだ。

疑似喪失体験では、「命の語り部」高橋匡美さんの3・11で被災した実体験を聞きながら自分の「大切なもの」「大切な思い出」「将来の夢」そして「大切な人」に関することを書いた12枚のカードを話の流れに沿って破いたり、投げたりと喪失を疑似的に体験しました。最初のうちは普通に破ることが出来ていたカードも、少なくなるにつれ破るのがだんだん辛くなっていききました。高橋さんの実体験はとても辛い話で胸が締め付けられる気持ちでした。高橋さんは「生きて明日を迎えられるという保証はありません、だからこそ這いつくばってでも今生きていかなければなりません。」とおっしゃっていました。今この時を生きているのは奇跡で、今もこれからも生きていく。この事が大事であり、感謝していくべきことだと思いました。(黒川)

仙台二華高校にて交流



ポスターセッションで、僕は1年間GRIITの授業で研究してきた「震災復興」についての提言を発表させて頂きました。この被災された現地で、実際には経験をしていない自分が震災復興についての発表をするのは本当に難しく、また答えが簡単には出ない課題でもあり、受け入れてもらえるか心配でしたが聞いてくださった生徒の方から「地元でこのような復興の取り組みがされてることを知らなくて、知ることができて良かったです」と伝えてくださいました。(永田)

お昼にはグループに分かれてランチミーティング。初めは少々緊張した様子。食事が始まると和やかな雰囲気になり、会話が弾み、それぞれの学校の特色、お互いの県、府のイメージや違いなどの話で大いに盛り上がり、友好を深めました。

東北大学工学部訪問



スーパーコンピュータを見学させてもらい、本当に貴重な体験をさせていただきました。スーパーコンピュータの部屋に入らせていただいたことで感動してしまいました。(中野)

東北大学では施設案内や講義をして頂きました。特に土木専門でまちづくりに関わられている准教授の平野さんの「常に無理やり結果を出す2元性はメディアの特徴であり実際の問題は常に柔軟でなければならぬ」との言葉に感銘を受けました。(古島)

東北フィールドワーク通信 3日目

2018年3月24日(土)発行



被災した校舎から津波の脅威を実感

旧荒浜小学校

2011年3月11日に発生した東日本大震災において、児童や教職員、地域住民ら320人が避難し、2階まで津波が押し寄せた荒浜小学校を訪

問。初めて津波の被害を自分の目で見る事ができました。屋上に行き、海の方を見たとき、自分よりも一回り以上小さい子が、自分の方に津波が押し寄せてくるところ、自分の家が流されていくところを見ていたのだと思うと、とても辛かったです。三日間の研修を終え、帰りの飛行機に乗り、空から大阪の街をみた時、人や建物がこんなにもちっぽけで、こんなにも自然が大きいのか、と初めて思いました。自然を私たちが支配することは絶対にできないことで、どれだけ技術が進んでも自然と共存する方法を考えたいと思いました。本当に皆さんのことを学ばせて頂き、参加できて本当に良かったです。二度と同じような被害がでないよう、今回学んだことを、皆さんの人に広めていきます。(吉田)



荒浜小学校後では津波の被害にあった校舎を見学し、津波の恐ろしさ、怖さなどを再び確認しました。今回の東北FWは普段の生活では絶対に体験できないものを学ばせていただきました。震災当時から現在でも映像やインタビュの情報が流れていますが、今まで思っていたものが語り部さんの話や被災地を通して、深刻だと感じました。三日間の研修をここで終わらせるのは無く、これから活動で成長できると証明できるように、諸活動やクラブ、勉強に負けじ魂で更に力を入れます。頑張りたいです。(黒川)

村上清氏とのセッション

元国連職員で故郷の復興に立ち上がった人道支援のエキスパート村上清氏を訪問。

特に心に残っているのは「ローカルで活躍できないければ、グローバルにはなれない。」という言葉です。小さなところから改革していくことの大切さを重要さを始めて知りました。このように被災した陸前高田市だけでなく、関西の学園から変革していくことで、世界の平和や発展の一歩につながるのがと確信することもできました。(米満)



SGH Learning Cluster Program

【Program Overview】

Learning Cluster Program (LC) is part of Kansai Soka High School's Super Global High School (SGH) program to study global issues in English. The foundation of this program is created upon our school founder Dr. Daisaku Ikeda's Annual Peace Proposal, which called upon education to foster global citizens through exploration of the four fields of development, environment, human rights and peace. In the course of one year, students develop their language and research skills to deepen their understanding of global issues related to Sustainable Development Goals (SDGs) proposed by the United Nations from these four perspectives.

The purpose of this program is to provide students with the opportunity to deepen their understanding about current global issues that humanity faces and to nourish a sense of responsibility and hope through their research and autonomous learning. Through this program we hope that students will discover passion in their learning which will be carried out through their university studies, future career and lifework, which will lead to fostering the next generation of global leaders who will live contribute lives for the betterment of humanity.

【High School Peace Proposal (HSPP)】

As a yearly final research project of the Learning Cluster Program, students are divided into groups of four-five students to conduct their own research on one global issues topic. This project includes detailed analysis of one global issue from each group provided with a concrete action for solution based on student's research, discussion, presentations and fieldwork throughout the year.

【History of Learning Cluster】

1st Class (2014-2015, SGHA)

- 15 students selected from grades 10-12
 - Group Research Topics (4 Fields)
 - Development: Renewable Energy
 - Environment: Water
 - Peace: Collective Self-Defense Act
 - Human Rights: Refugees in Japan
 - Tokyo Fieldwork



Picture: Students during LC class

2nd Class (2015-2016, SGH 1st Year)

- 16 students selected from grades 11-12
 - Group Research Topics (4 Fields)
 - Development: Bullying in An Education
 - Environment: Peace Proposal for Environmental Education for the Future
 - Peace: Actions for High School Students Towards the Abolition of Nuclear Weapons
 - Human Rights: Suggesting Concrete Actions to Provide Basic Human Rights to Syrian Refugees
 - Tokyo Fieldwork, Overseas Fieldwork

3rd Class (2016-2017, SGH 2nd Year)

- 24 students and 2 student advisers selected from grades 11-12
 - Group Research Topics (SDGs)
 - No Poverty (SDG 1): Child Poverty in Japan
 - Zero Hunger (SDG 2): Equalizing Food Distribution to Achieve Zero Hunger
 - Quality Education (SDG 4): Education for Nuclear Abolition
 - Gender Equality (SDG 5): Gender Equality through Education
 - Decent Work (SDG 8): An Educational Program for Japanese High School Students against Child Labor
 - Peace and Justice (SDG 16): Using Dialogue to Counter Terrorism and Create Inclusive Communities
 - Tokyo Fieldwork, Overseas Fieldwork

4th Class (2017-2018, SGH 3rd Year)

- 25 students selected from grades 11-12
 - Climate Change Research Group:
 - Adaptation to Climate Change in Maize Production in the Sahel
 - Peace-Building and Climate Change
 - Sustainable Tourism to Combat Climate Change
 - Nuclear Abolition Research Group:
 - Environmental Damage of Dismantling Nuclear Weapons
 - Protecting Human Rights from the Fear of Nuclear Weapons
 - The Role of Religion for Nuclear Abolition
 - Tokyo Fieldwork, Overseas Fieldwork

5th Class (2018-2019, SGH 4th Year)

- 22 students selected from grades 11-12

Learning Cluster 2017-2018: Yearly Course Outline

【Aim】

This course is designed for students to deepen their understanding of global issues by thoroughly conducting academic researching SDGs topics throughout the year. All classes, discussions, and presentations were conducted in English.

【Context】

- School Day Saturdays, 1 Year
- 25 students from grades 11 and 12

【Selection Process of LC Students】

All students from grades 11-12 are eligible to apply for Learning Cluster. Students are expected to have an English fluency level of Eiken 2 or above with a strong interest in global issues research. Completion of SP during grade 10 is also required. The selection process included a paper test, group interview test, and an individual interview test.

【LC Teachers】

- Ramon Paras (USA/ Philippines, MA: TESOL)
- Swati Raj (India, MA: TESOL)
- Louis Butto (USA, MA: TESOL; PhD Candidate in Applied Linguistics)

- Ritsuko Rita (Japan, MA: TESOL)
- Kazuhiro Iguchi (Canada/ Japan, MA: TESOL)
- Kazunori Yamagishi (MA: TESOL)

【Materials】

- 2017 Peace Proposal
- A Forum for Peace
- Newspaper Articles
- TED Talks
- Library Books and Online Resources



Picture: Students during LC class

【2017-2018 Yearly Course Plan】

1st Semester: Students acquired a broad understanding of current global issues through discussions, presentations and lectures on founder Ikeda's Peace Proposal, global news, and SDGs. Students then were divided into two global issue themes: climate change and nuclear abolition. Students were further divided into three groups of 4-5 students and explored the theme from the perspectives of development, human rights, environment and peace. Students were then taught how to write the literature review and research questions section for their own High School Peace Proposal. With a general understanding of various global issues, literature review of one research topic, and questions for further research, students participated in a fieldwork to Tokyo to present and discuss their research topics with experts.



Picture: Students giving presentations about their Research at Soka University during Tokyo Fieldwork



Picture: Students visiting International Atomic Energy Agency during Tokyo Fieldwork

2nd Semester: After gaining professional feedback from professors and experts during Tokyo fieldwork, students continued to complete their High School Peace Proposal by learning how to write the methodology and results sections. Based on the acquired knowledge, experience, and data collection, students create a proposal on climate change and nuclear abolition issues the perspective of high school students.

3rd Semester: Several students were selected to participate in our third overseas fieldwork to California where they presented their completed High School Peace Proposal to local high school students, university professors, and experts. After coming back from fieldwork, students shared their learning experience from fieldwork and their completed High School Peace Proposal at the SGH final presentation session, presentation session for juniors, open campus and more.

UP (University Partnership) クラス

UP クラスは、高大連携を中心としたプログラムで、大学の先生や企業でお勤めの方をお招きし、本校がテーマに掲げる「環境」「開発」「人権」「平和」の4分野をさらに深められるよう授業をしていただくクラスである。

毎週木曜日の放課後を軸に、1～3年生の希望者を対象に実施し、2017年度は計25回の授業を行った。その一覧が下の表である。

回	日付	講師		内容
1	4/20	ガイダンス		
2	4/27	事前学習		平和
3	5/25	創価大学	石井教授	平和
4	6/1	創価大学	石井教授	平和
5	6/8	毎日新聞	香取記者	人権
6	6/15	創価大学	石井教授	平和
7	6/22	奈良教育大学	森本教授	開発
8	7/12	南カリフォルニア大学	藤井博士	経済学
9	7/13	南カリフォルニア大学	藤井博士	経済学
10	7/14	南カリフォルニア大学	藤井博士	経済学
11	9/7	創価大学	佐々木教授	開発
12	9/14	創価大学	佐々木教授	開発
13	9/21	創価大学	佐々木教授	開発
14	10/5	大阪大学病院	吉田先生	人権
15	10/12	国立天文台	能丸准教授	環境
16	10/26	京都大学	山敷教授	環境
17	11/2	京都大学	山敷教授	環境
18	11/9		田中先生	
19	11/16	京都大学	山敷教授	環境
20	12/14	振り返り		
21	1/11	タナカバナナ	登相談役	開発
22	1/18	創価大学	神立副学長	人権
23	1/25	創価大学	神立副学長	人権
24	2/1	創価大学	神立副学長	人権
25	2/15	JAE	塩見氏	開発

【平和：「貧困・開発・平和」を考える】

2017年5月25日(木)、6月1日(木)、6月15日(木)

講師：創価大学平和問題研究所 石井秀明 教授

第1回目、第2回目は創価大学と中継を結んで実施。第3回目は来校して頂き、実施した。

26日の第1回目は、「世界のどの地によいとも、人間が、人間として、人間らしく生きていける地球社会」を実現するために乗り越えるべき課題について学んだ。その中で、「人間として生きる」格差が拡大・深刻化している様子をデータやグラフを通して教えて頂いた。



1日の第2回目は、軍事支出の現状について学んだ。貧困状態に苦しむ途上国が軍事力を保持し、希少な資源を投入する理由を考え、世界が協力して軍事支出を削減し、その資金を貧困対策か開発に振り向けるためにどうすればよいかを議論した。



15日の第3回目は、ジョディ・ウィリアムズ氏（1997年ノーベル平和賞・2015年アメリカ創価大学卒業式で記念講演）のTED講演を見て、世界平和を実現するための現実的なビジョンとして、平和の再定義、資金の合理的活用、変化をおこす行動が重要であることを学んだ。また、国連が提起するSDGsが制定された背景や、人間開発を優先させ、軍縮を通して軍事化と貧困の連鎖を断ち切る重要性を教えて頂いた。世界平和のために、多角的なアプローチが必要であることや、「人間の

安全保障」との考え方を広げていくこと、「平和の文化」を創出していくことの重要性について学んだ。

SDGs達成のために、具体的にどのような取り組みを行い、私たちに何ができるのかを考えるきっかけとなる講義となった。

＜生徒の感想＞

- ・決して難民はかわいそうな人ではなく、私たちが責任を押し付けてしまった人なのだと分かった。また、教育の大切さが分かった。教育を受けることで、子どもの死亡率が下がると知り、何か自分にできることはないかと思った。その動き方がわからないから悔しいし、わかるようになりたい。
- ・先進国が武器を作り、途上国が買うという、あってはならないことが起きている。また、武器をもつことで、そのまわりも武器を持たないと怖く、武器をもってしまうという負の連鎖が起きている。苦しんでいる人の声をくみ上げ、対話の連鎖をつくることができればよいと思った。
- ・核廃絶に向けて国連が動き出していて、私たちにもできることがあると思いました。1人1人にできることは小さくても、その1人1人が輪を広げていくことで世界を動かすことができるし、その行動が一番大切なんだと知りました。

【人権：新聞はどのように作られているのか】

2017年6月8日(木)

講師：毎日新聞社 香取泰行 記者

毎日新聞社より、香取泰行記者をお迎えし、新聞がどのように作られているのかについての講義を行って頂いた。

香取記者は新聞記者になった経緯や、実際に新聞を作る際のエピソードなど、ご自身の経験を通して、話して頂いた。今回は、高校1年生の受講者が参加した。高校1年生は、日常よりNIE（教育に新聞を）の活動に取り組んでおり、香取記者のお話に興味深く聞き入っていた。



＜生徒の感想＞

- ・今まで何気なく読んでいた新聞の裏に、こんなにたくさんの人の努力があると知り、あまり読んでいなかった面の記事も、読んでみたくなりました。
- ・今起きている出来事は、将来自分たちに関係しているものがあるかもしれないので、しっかりと自分で考えることが大事だとわかりました。

【開発：カンボジアにおける生物教育の支援】

2017年6月22日(木)

講師：奈良教育大学 森本弘一 教授

奈良教育大学より、カンボジアにおける生物教育の支援に携わってこられた森本教授をお迎えした。

カンボジアでは1970年代の内戦により、教育システムが崩壊したため、長期間、学校が閉鎖されていた。内戦が終わった後も、教員研修のシステムが整っていなかったことから、カンボジアでの教員養成プログラムに携わってこられた経験を通して、学ぶことができることへの素晴らしさを教えて頂いた。



＜生徒の感想＞

- ・貧しい国の中で必死に勉強をしている子どもたちを尊敬します。自分は治安のよい日本であり勉強をしていません。これをきっかけに、カンボジアの人に負けないよう、勉強に励んでいきます。
- ・途上国の子どもたちにとっては、学校に通えるだけでなく、教育の質も大切だということを知りました。私も何かで途上国の支援をしたいと感じました。

【統計学：統計学・経済学】

2017年7月12日(水)、13日(木)、14日(金)

講師：南カリフォルニア大学 藤井大輔 博士（本校28期卒業生）

1学期末のUPとして、3日間連続講座として開講した。

12日の第1回目は、統計学（入門編）についての講義が行われた。統計学とは何か、統計学はどのような分野で使われているのかについて、クイズや身近な具体的な例を通して、データや数字に騙されないことの重要性を教えて頂いた。「統計学」に初めて触れる生徒も多く、緊張していた生徒も、講義が終わるころには、統計学の奥深さに心を奪われていた。



13日の第2回目は、統計学（実践編）についての講義が行われた。統計学の専門的な用語もグラフを活用して、わかりやすく説明して頂いた。「コインは公平か？」のテーマでは、実際に100回のコイントスを各グループが行い、どのようなデータが出るかを調査した。「統計のウソを見破る」とのテーマでは、偏ったサンプルではないか、恣意的な調整がないかを見極めるために必要な、5つの鍵を教えて頂いた。また、ご自身が卒業もしくは勤務されたアメリカの大学についてお話され、生徒は興味深く聞き入っていた。



14日の第3回目は、経済学についての講義が行われた。経済学とは、「限られた資源を最適に使う人間の行動を研究する学問」であり、日常のいたるところに経済学があることを、様々な実例を通して、教えて頂いた。また、ノーベル賞受賞者の素顔を紹介。受賞者の共通点として、学問への情熱や飽くなき探求心を挙げた。

「高校生時代にやっておいた方がよいことは？」との質問には、忙しい中でもいろいろなことに挑戦し、やり抜くことが重要と訴えた。

＜生徒の感想＞

- ・データはあっても、それを分析する力がないといけなかったので、その力をつけたいと思うのですが、どうやって日常的に力をつければいいのかになりました。
- ・自分が目指したい目標があるなら、あきらめずにとことん努力するべきだと思いました。
- ・ニュースを鵜呑みにしがちですが、これからは相関関係と因果関係の区別を意識して、正しい情報を得たいと思います。
- ・統計学、経済学が様々な場面で活躍していてすごいと思いました。これまで統計学・経済学に対してグラフを出すだけでつまらないのかなと思っていたので、大きなギャップを感じています。

◆年度末アンケートより◆

3月、受講生徒を対象にアンケートを実施。

自分自身の変化についての5つの質問項目を1～4の4段階(値が大きいほど強い)で答えてもらった。
以下の表がその結果である。

	4	3	2	1
1. 自分自身が成長した、視野が広がったと感じる。	69%	29%	2%	0%
2. 世界で起こっている様々な問題への関心が高まった。	79%	19%	0%	2%
3. 国連が提唱する MDGs、SDGs の理解が深まった。	29%	45%	21%	5%
4. ものごとを色々な角度から見たり、考えたりすることができるようになった。	50%	50%	0%	0%
5. 地域社会や国際社会に貢献していきたいという気持ちが強まった。	69%	26%	5%	0%

「3. 国連が提唱する MDGs、SDGs の理解が深まった」については、高評価（3 もしくは 4）が 74%と全体の 4 分の 3 にとどまった。UP クラスの講師としてさまざまな分野の方をお迎えしたいとの考えが強かったせいか、MDGs や SDGs を UP で学ばせようとの意識が薄かったと反省している。

今後は、その意識も持ちつつ、さらに他分野の講師を招けるように尽力したい。

3. 以外の 4 項目についてはほぼ全員が高評価であった。特に「4. ものごとを色々な角度から見たり、考えたりすることができるようになった」は高評価が 100%であり、生徒たちのものの見方や考え方を広げることに成功したと自負したい。

来年度以降も、さらによりよいものにしていきたい。

アクティブ ラーニング型授業 実施報告

～「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を目指して～

本校における授業は、「研究開発実施計画書」〈3 研究開発の概要〉において、「アクティブラーニングの土台の上に、国連が提起している地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力を育む取り組みを高大連携して行う」と謳っていることから、〈高大連携で授業改善 一友と協力し自ら学ぶアクティブラーニング〉を強力に展開することを目指している。

ところが昨今の教育界では、「アクティブラーニング」の形式にこだわることで、かえって実質的な成果が上がらない授業となってしまうことが問題になっている。この状況を踏まえ、本校では、今年度は「アクティブラーニング型授業」と称して、本来の目的である「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を目指し、各教員が取り組んだ。

以下、本年度の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した取り組み、実際の授業実践例を記す。

1. 教員研修

2020年の新しい入試制度（大学入学共通テスト）の概要が公表され、その受験対象となる学年の入学が目前に迫り、具体的な対応を考えるべき時期となった。特に喫緊の課題としては、授業の内容・形態等、高大接続改革で求められている「主体的・対話的で深い学び」を実現する教育へとどのように変化させるかである。その問題意識を全教員で共有し、具体的な取り組みを考える場として、以下の研修を行った。

日時 7月27日（木）13時30分～15時30分の2時間

会場 本校 展開教室A

対象 高等学校全教員

講師 成田 秀夫 氏（河合塾・河合文化教育研究所）

内容 「2020年入試への備え～46期生の授業を考える～」

入試改革の動き、それに伴う教育改革の必要性、そして学校としてどう対処していくか。「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の実践。

カリキュラム・マネジメントの重要性。

2. 個々の教員が参加した研修

「アクティブラーニング実践フォーラム」をはじめ、多数の教員が個々に授業改革やアクティブラーニングに関するセミナー・研修会に積極的に参加し、よりよい授業実践を目指した。

3. G R I T

土曜日の総合学習をG R I Tと呼び、探究型の授業を展開した。「環境・開発・人権・平和」の4テーマで、生徒間での討論、テーマを掘り下げるリサーチ、問題解決に向けての考察を行い、最終的に2月中旬に開催した公開授業でグループごとのプレゼンテーションを行った。

関田教授より紹介されたアクティブラーニングの手法をはじめ、教員が各所で学んだ最新の教育手法を取り入れ、より活発な議論、深い学び、さらに主体的な取り組みができるよう、さまざまな工夫を行った。

4. 各教員による「アクティブラーニング型授業」実施報告

I 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために行った授業例

- ・音読をグループ（3～4）で行い、お互いの読みに間違いがないかを確認し合う。
各自が考えた、問いに対する答えをグループで話し合う。
発表の際には、グループ内の、他者の意見を参考にし、自身の考えを再考して発表する。
解答や、解答の根拠を検討させたり、音読をさせたりということを、グループで行った。
- ・生徒4人グループで、教科書の範囲を振り分け、生徒が授業を行い、教師は一切解説をしないというスタイルで実施。生徒4人程度のグループを作り、担当範囲を指定。ルーブリック（評価指標）を明示した上で、冬休みの宿題として、担当範囲を各自が予習。
冬休み前に全員がGoogle クラスルームに登録し、宿題の提出・授業計画シート・振り返りシートの提出を、Google クラスルーム上で行った。
- ・理系の授業では3単位というメリットを生かし、問題演習を多く取り入れ、問題演習時にアクティブラーニングで教え合いをし、その後、ジグソーで教え合うという実践を行った。
- ・タブレットを使用して、スライドを作成させ、班毎に模擬授業を行わせた。
G R I Tに似た探究型の授業となり、主体的に学ぶ事を狙いに実践させた。

3時間の授業作成時間→3時間での各班の模擬授業（2班/時間）で実施。

他の班が発表している際は、メモをとらせると共に、発表態度、内容、スライドの内容について生徒が発表者に対して、評価をつける、ルーブリック評価制度も取り入れた。

タブレット全員配布が実現したからこそできた取り組み。

- 新しい教材の最初の時間に読みの確定、課題ノート予習部分を4.5人のグループで行い、問題課題はグループ内で解決させる。解決できない事には教師が解答に至る情報の入手の仕方等アドバイス、または、解答を示す。
- 段落要約をグループで作成発表させる。グループ内ではまず個人が作成、評価し合って最適なものを決める若しくはそれを叩き台にして推敲して発表する。
- フィールドワークや実験
授業内容を説明する動画の作成
- 練習問題を解く際にグループワークでの教え合いを推進した。早くできた生徒に教え隊や丸付け隊といった役目を与え、生徒同士の交流を授業の中でつくった。
- タブレットを使った誤答分析
共同学習し、プリントへの解答を記入。その後、生徒達が板書を行う。
- 芸術鑑賞ディスカッション
- 書き込みプリントを用意しての調べ学習→班で問題作成→問題を交換して解答を書くペア活動、少人数での発表、3人組即興ディベート、グループ活動（調理実習など）
グループに分かれて、ディスカッション
- 授業では、ペア・グループ活動を毎回取り入れるようにしている。毎回の授業で行っているトピックトークでは、毎回教科書の内容に即した会話文をつくり、生徒がペアで会話の練習をする。その際、司会役2名を募集し、生徒が活動の指示を出すような仕組みにした。
グループ活動では、話し合う内容を明確にし、また、グループ内での役割をあらかじめ提示して決めさせるなど、活動内容を明確にするように心がけている。
ライティングの活動では、添削時には間違いの個所に下線を引き、自分で何を間違えたのか考えさせたり、生徒同士で添削させるなど、大学に行った際に必要な主体的な学びの習慣づけができるように課題設定を行っている。
- アクティブラーニング形式で行った授業は、テーマを掲げ生徒自身が理解し説明できる段階までもっていけるように心がけ、授業に取り組んだ。
- ポスターセッション、グループディスカッション、レポート試験
グループを作って、グループ内で課題解決を考える
『プロセスマップ』の利用
事象が発生したプロセスを全て洗出し、各プロセスを分析することで、物事の因果関係や真因を探る
前時の復習をペアワークで行なったり、教師の説明で理解できない生徒のために短時間

での教えあいの時間を取った。また、例題説明後の練習問題は原則グループワークをさせた。

Ⅱ 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業による効果・変化

- ・授業が活気づくとともに、考えをぶつけ合う姿が見られ、思考している様子が窺えた。
 - ・他者の意見も踏まえて答えることができるので、自信をもって回答する生徒が増加したように感じる。
 - ・一方通行の授業ではないので、授業の雰囲気が活気づいた。
 - ・各クラスに、それぞれの分野のエキスパートが誕生し、皆で教えあう光景が見られた。
 - ・自主的に学ぶ生徒が増えた。
 - ・ジグソー法を取り入れたため、責任感が生まれ、グループで教えあう際に、一人一人が主体的に学び合う姿が多くなった。また、まず自ら調べて考えてみようという意識が向上したように思う。
 - ・センター試験のリスニングのスコア平均が上がりました。
 - ・グループ全員で一つの同じスライドを同時に作業する中で、探究の仕方や、発表の仕方をお互いに共有したり議論しながら進める姿が見られた。誰一人として遊んだり孤立する生徒がなく、集中して行うことができた。また、ICTに詳しい生徒やプレゼン方法に詳しい生徒がグループを超えて教える姿も見え、知識の拡散が見られた。
 - ・主体的に学ぶ事によって、他人との関わり、意見交換が増えた。
 - ・生徒が生徒を評価するルーブリック評価制度を設けた事により、寝ている生徒、他事を行う生徒がいなくなった。
 - ・積極的に質問にくる生徒、授業以外で質問をしてくる生徒も増えた。
 - ・授業以外の話をしている生徒がいなくなった。
 - ・授業への導入がスムーズになった。
 - ・コラボレーション力を発揮できた。
 - ・深みを知ることができる。
 - ・片言ではありますが、人見知りせずに英語を話せるようになった
 - ・グループ活動では、もともと協力的な生徒たちの気質もあり、英語が苦手な生徒も話し合いに参加している様子がよくみられる。
- 少人数（2～6人）のグループでは、話し合いがスムーズ。中心ですすめていくリーダー存在が出てくる。時間計画を意識するようになってきた。
- ・生徒それぞれの良い場面が見受けられた。また、班で協力して教科書の内容だけではなく、それ以上の深い学びに繋がっていた場面もあった。
 - ・英検で結果を出せたなどの 報告を受けた。
 - ・一年続けてきて、自身の意見を理論的にはっきり述べることのできる生徒が増えたと感じ

じる。

- ・教師は常に生徒の輪の中にいるポジションをとることで 違いの距離が近くなり 教師と意見交換がスムーズに進むようになったと感じる。
- ・知識の定着があったと思われる。

Ⅲ その他、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の実践にあたって感じたこと。

- ・教室の配席が、偶数列で統一されるとペアトークや、グループ編成が容易になる。
- ・今後は、ICT の活用を見据えて、さらに研究を進め、実践していきたい。
- ・タブレットをうまく活用したい。
- ・教師個人の研鑽と努力で行う授業とは違い、教師自身も気づかなかった視点での授業の展開や、斬新なプレゼンシートの作成など新しい発見がたくさんあった。しかし、円滑に授業を行うためには、グーグルクラスルームの作成やチェックシートの作成、課題の配信やループリック表の作成や配信など、授業までの準備や授業後の提出物のチェックなど教師自身が教科内容以外の取り組みに時間がかかることがわかった。逆に授業中はファシリテーターやコメンテーターなので非常に余裕ができた。
- ・欠席している生徒のフォローが難しくなっていく。(生徒が自主的に取り組む為に、生徒間での知識量に大幅な差が出てしまうのではないかという懸念が生じた)
- ・正しいアクティブラーニング、理想のアクティブラーニングについて、教師自身ももっともっと学んでいく必要があるし、学びたいと感じた。
- ・Google の利便性を大いに感じた。
- ・学習内容によっては効果的だが何でもかんでも金科玉条のごときものでもない。精査して授業案を作らないと弊害多い。
- ・センター受験が目的であり（理系にとって二次試験に科目設定のない）地歴公民は広く浅く網羅的に基礎知識を習得しなければならない。従来の知識偏重の授業形態を現時点で変化させる前に、板書・ノート・プリント・暗記が学びと思っている生徒の意識変革が重要。自ら考えて、課題をつくることにはかなり労力がいるし、基礎的な学力は必須。タブレットを使って、受動性・依存性をポジティブ・アクティブに変革できるか。明年度のテーマとしたい。
- ・アクティブラーニングと一言に言っても教科特性が大きく出ると思う。
- ・アクティブラーニングと進度の確保の両立をどうやってやっていくかが、自身の課題です。受験科目に選択している生徒にとってみれば、2 学期までに、教科書の大部分を終わらせることが重要。もっと早く進むべきという意見もあれば、もっと色んな取り組みをしたいという意見もある。
- ・実験機材の扱い方、データ処理の仕方、レポートの書き方など、大学進学後に必要な技能について習熟が進み、OJT 的な取り組みともなっている。

- ・時間内での達成度と個人活動の評価の問題。
- ・レベルの高い子は、低い子に足を引っ張られないように、注意してきた。
- ・自身のアクティブラーニング実践がグループワークありきになってしまったようにも感じるので、アクティブラーニングを柔軟に考え、工夫していきたいと思う。
- ・生徒の中には、はじめから自分には無理だとか、わからないとあきらめてしまっている生徒もいる。そういう生徒でも参加できるような授業づくりを心掛けてはいるが、何事にもあきらめず、挑戦する姿勢、また挑戦した結果、なにかやり遂げることができたという経験が得られる授業を、英語のみならずいろんな教科で提供できれば、生徒たちへの自信につながっていくのではないかなと思う。
- ・自分自身が、進化しないといけないと思う。
- ・現行のカリキュラムでは、全てを主体的・対話的とするのはなかなか難しいと感じる。
現在新しい概念との過渡期で、アイデアがないでもありませんが、時間的にも精神的にもあまり余裕がなく、戸惑っているというのが正直な気持ちだ。
- ・教師も常に考え、指導力を向上する努力をしていかなければならないと強く感じた。
また、工夫して実践した授業においても、生徒にとって良いものであるかどうかは実践してみないとわからない点も多々あると感じました。
- ・2学期末の授業アンケートや直接の声として、「主体的」はいいものの「対話的」のデメリットとして、学習意欲・能力の低い生徒と集団になるために「深い」には到底ほど遠く、学習の深化に非効率的な状況になっているとの指摘がありました。
- ・生徒一人一人に声をかけることを心がけ、励ましや良いところを褒めるようにしました。
- ・評価について、学年や学校として共通の観点や評価方法があれば生徒も担当者も進めやすいと感じました。
- ・現在「タブレット持ち込み可の試験」について構想中である。
- ・社会科の授業は講義型が多く、アクティブラーニングしにくいと言われているが、工夫次第でそんなことはない！と確信できた。
- ・今後もさらにアクティブラーニングによって、「歴史的な出来事を分析する」・「各影響力の力関係を把握する」・「歴史的な出来事から未来の変化を予測する」・「自由な思考を拡大する」等の力を引き出せる授業の実践を研鑽していきたい。
- ・何ができれば「深い」と言えるのか、定義を明確にしていけたらと思う。

NIE（Newspaper In Education）の取り組み

1. はじめに

NIE の取り組みは今年で4年目を迎える。これまで新聞を取り入れた教育活動をさまざまな形で試みてきた。そのうち、当番を決めて毎日行っている新聞記事についての一言スピーチは継続しながら、今年度は新たな試みとして新聞への投稿を行った。

毎年1月26日に、本校の創立者は世界に向けて平和提言を発表されている。この提言では核兵器廃絶を始め、世界平和に向けた重要なメッセージが発信されている。加えて今年度は国連で核兵器禁止条約が採択された歴史的な年でもある。この意義深き年に、関西創価高校の一人として、これまで学び深めてきた平和へのメッセージを発信していきたいと考え、「平和へのメッセージを発信しよう」をテーマに掲げて新聞への投稿に取り組むこととした。

2. 実践の概要

冬休みに入る前に、核兵器について考える時間を設けた。ここでは朝日新聞が提供している『知る原爆』を教材とし、次のような流れで研鑽を行った。

■準備（10分）

- ・1クラス45人を5人×9班に分ける。
- ・『知る原爆』を全員に配布する。

■原爆について学ぶ（20分）

①3つの班をひとつのグループとし、グループ内のどの班が下記の〔1〕～〔3〕のどれについて説明するかを決める。

②班に分かれ、担当した紙面を研鑽し、他の班に説明できるよう準備する。

〔1〕「8月6日 広島」のページを用いて当時のようすを説明できるようにする。

〔2〕「8月9日 長崎」のページを用いて当時のようすを説明できるようにする。

〔3〕「げんばくって」のページを用いて、原爆に関する疑問と解答を説明できるようにする。

③ジグソー法により他の班の人に説明する。

- ・5人のうち2人が同じグループ内の隣の班へ移動、残り3人は待機する。
- ・〔1〕～〔3〕の番号の早い方が説明する。（2分）
- ・〔1〕～〔3〕の番号の遅い方が説明する。（2分）

この活動を2回繰り返すことで、全員がすべてのページを研鑽することができた。



▲担当ページを研鑽しているようす



▲他の班の人に説明しているようす

■自分らしく行動する人たちについて知る（10分）

【事例1】漫画「はだしのゲン」について書かれたページをクラス全体で音読する。

【事例2】歌「クスノキ」について書かれたページをクラス全体で音読する。

- ・歌詞を見ながら「クスノキ」（作詞・作曲 福山雅治）を視聴する。



▲音読を希望する生徒たち。主体性の高まりが感じられた。

■自分たちには何ができるかを話し合う（5分）

- ・班で意見交換をする。

■朝日新聞投稿の取り組みについて（5分）

- ・自分たちにできる行動の1つの形として、新聞投稿を紹介する。
- ・ワークシートを配布して投稿の取り組みについて詳しく説明する。

実際に投稿記事を書く時間は確保できなかったため、冬休み期間中に取り組むことにした。年明けに学年の8割の生徒が記事を提出し、集まった原稿は朝日新聞社へ郵送した。

3. 考察

『知る原爆』が大変丁寧で見やすく構成されていたこともあり、平和学習の準備はほとんど必要なく、実りの多い学びを実現することができた。また今回の実践では、ジグソー法を用いたことで、一人ひとりが主体的に新聞の研鑽に臨むことができ、より心に残る学びとすることができた。

こうした下準備により、新聞投稿の取り組みにも意欲的に挑戦することができた。実際に2人の生徒の記事が掲載して頂けることとなり、インプットで終わりがちな平和学習からもう一段階発展して、より実践的な学びになったと実感している。

新聞投稿の挑戦は、自分の意見を広く社会へ、世界へ発信するという、極めて貴重な体験となる。これは大きな自信にもつながったのではないだろうか。これからも新聞を活用して、より深い学びの実践を追究していきたい。

成果と分析

1. 2017 年度卒業の海外大学進学者数 14 名

アメリカ創価大学 (ブリッジプログラム含む)、ブリティッシュ・コロンビア大学
ノース・セントラル・カレッジ、カルフォルニア大学・デービス校、カルフォルニア大学・
サンディエゴ校、北京大学医学部 他

2. 2017 年度主な外部コンクール（全国大会）での活躍

日米露3国による核不拡散会議 参加 (2017年 4月)
第10回「漢語橋」世界中高生中国語コンテスト出場 (2017年 10月)
『「世界津波の日」高校サミット in 沖縄 参加(2017年 11月)
国際公共政策コンファレンス (2017年 4月)

3. 英語外部検定成績

英語能力検定試験合格者数 (単位: 人)

2017年度	1級	準1級	2級	2級以上
1052名中	8 (0.76%)	48 (4.5%)	389 (36.9%)	445 (42.3%)

高校43期 英語成果報告(最終)

2018/3/20 43期英語教科担当

1. CEFR/ TOEIC/ 英検 レベル別人数

CEFR	TOEIC	12月	英検	1年次3学期	2年次3学期	3年次3学期
C1(945~)	900-990	5	1級	1	1	4
B2 (785~)	800-899	7	準1級	3	14	30
	700-799	7				
B1 (550~)	600-699	23	2級	67	114	158
	500-599	33				
A2 (225~)	400-499	63	準2級	138	102	64
	300-399	62				
	200-299	30				
A1(120~)	100-199	3	3級以下	150	125	92
	10-99	0				
計		233		359	356	348

*英検の合格者数は、1次試験のみの合格者数も含む。

*2級以上の最終合格者数は、1級4+準1級30+2級158=192名

2. SGH 英語到達目標 達成度

43期B1以上到達度	61%
------------	-----

*43期の目標は65%

○英検1級、準1級、2級の1次試験合格者もしくはTOEIC IPのリスニングもしくはリーディングもしくはその両方で275点以上の場合、CEFRのB1レベル以上とする
○この内、B2レベルは30名、C1レベルは5名となります。

3. アメリカ創価大学合格者 人数及びSATスコア

Early出願者	5	Early合格者	5	※各セクション200-800		
				Reading & Writing	Math	
Regular出願者	4	Regular合格者	2	800-700	0	8
		Bridge合格者	2	699-600	2	1
		合格者 計	9	599-500	7	0
				499-400	0	0

3.1. アンケート結果（生徒アンケート・教員アンケートより）分析（抜粋）

1年間を通しての SGH 活動に対するアンケートを全校生徒対象（高3・12月、高2・2月、高1・1月）に行った。今年度は結果を掲載し、気になったことを記載する。来年度、SGH4年間の実績・変化など詳細の分析を行う予定。また、中間評価やヒアリングの際の分析（抜粋）を別途掲載する。

問1：SDGs に関してはどの学年も80%以上の生徒が知っているという状況である。1年生は入学前では80%が知らなかったが、GRITや授業など学校の学びの中でSDGsを理解している。これは100%をめざし取り組んでいきたい。

問2～7：本校SGHのテーマである「環境」「開発」「人権」「平和」について関心を問うたが、基本的にはどの学年も70%以上近くの生徒が関心をもっている。既存メディアの影響と共に、授業・GRITによって関心をもっているというので、今後も伸ばしていきたい。特に問7の「核廃絶」に関しては、3年生では50%以上が「関心がある」と答え、「少し関心がある」も含めると、82%に及ぶ。この数字は大変に高いと感じている。

問8～9：国際的合意形成について、高校3年生の結果が高いのは、GRIT模擬国連のおかげだと推測される。このあたりは来年度もさらにのばしていき、アンケートでも詳細を聞いていきたい。

問10～11・14：「(絶対に) 留学したい」の割合が、入学前が50%→高1 60%→高2 70%→高3 80%と学びが深まるにつれて留学への希望が増えているという結果になっている。海外での活躍したいというアンケートでも高校3年生は60%を超えているので、海外志向につながっている。これは、問14で90%以上が3年生は「語学力が必要」と答えている。それも海外の方をお呼びしたセミナーや、留学生とコミュニケーションをするGlobalCampより「授業」がきっかけになっているのが特徴である。

問15～17：さまざまな課題に対して、入学前から比べると関心が高まった生徒が多くなっている。高3は80%程度が高まったとなっている。

問20：奉仕の気持ちが高い。各学年が85%以上の気持ちがある。本校の特徴であると思われる。

問22・23：英語の能力や意欲は高校3年生になると80%近くが向上したいと答えている。そして、それが留学生と交流するGlobalCampや海外の方の講演などよりも、授業によってその向上心が増えている結果となっている。日常の授業がSGHとして、生徒にいかに刺激を与えているかわかる。

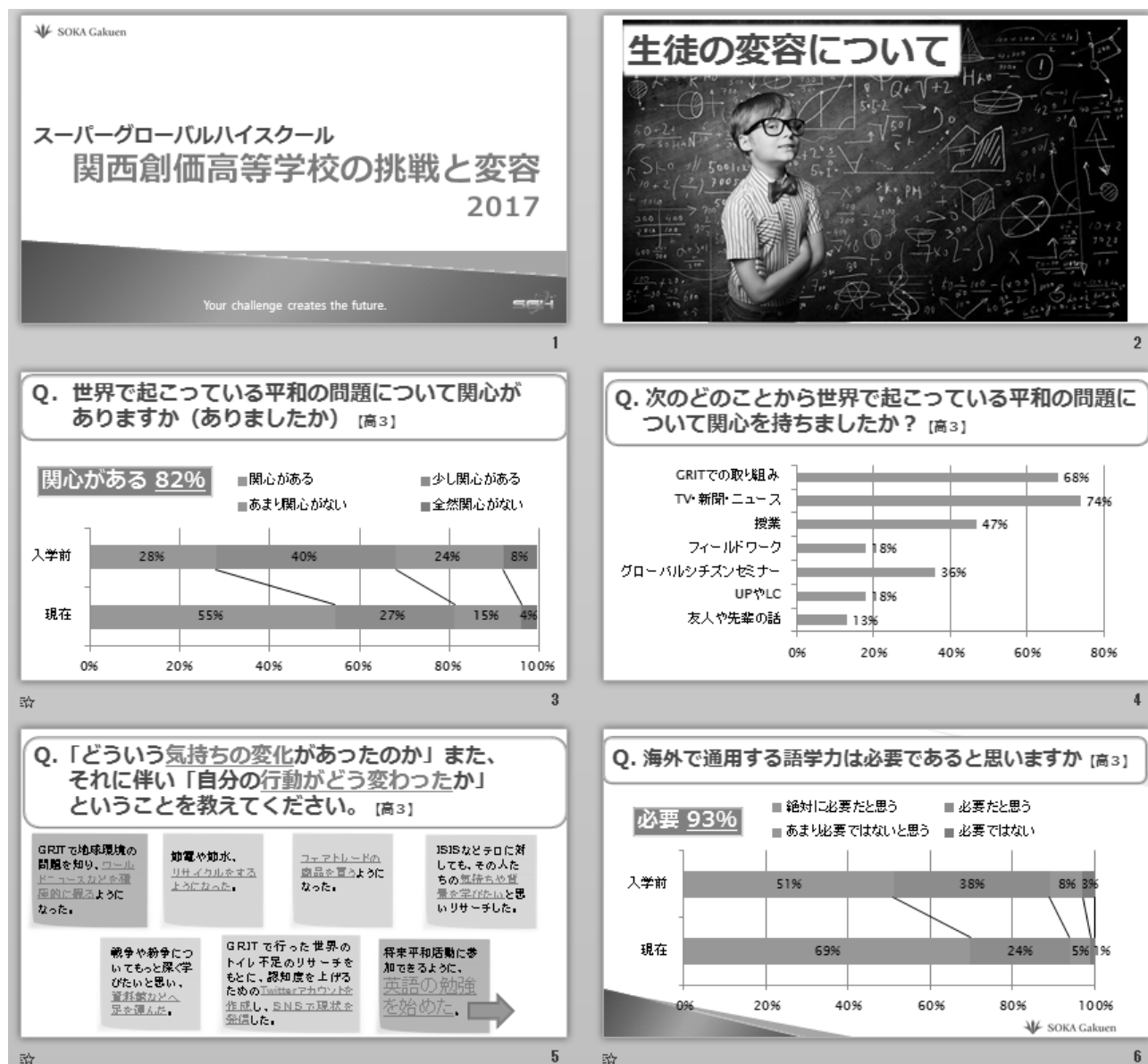
問29～33：GRITに積極的に取り組んだ生徒とプログラムの評価・触発を受けたかという問いの答えが80%とほぼ同じような値を示している。相関性を分析したわけではないので、層が同じかはわからないが、積極的に取り組んだ生徒は触発を受け、GRITがよかったと評価しているのではないかと推測される。

と推測できる。今後、細かく分析をしていきたい。

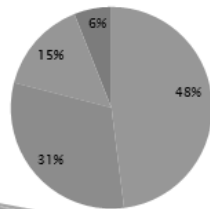
問37・38・43：国際化に重点をおく大学や海外大学への進学を望む生徒が高いのに比べ、実際に海外渡航している生徒の少ないことは特筆すべきことだと考えられる。これは、しっかりと国内で実力をつけ、実際に思い切って行動ができる大学に入ってから、留学などをしたいと考えているのではないかと推測できる。高校としては積極的に海外渡航を進めているわけではなく、上記のスタンスであるので、生徒がよく理解して行動しているのではないかと考える。

問44：GRITで培った力は「課題研究」「模擬国連」に関連するリサーチ能力・発表力・行動力が高くなったのに続き、「問題解決への創造力」が高い割合を占めた。これが何に起因しているのかを今後は調査していきたい。

3.2. S G H最終報告会における分析スライド（抜粋）



Q. 語学習得に挑戦したいという意欲は向上しましたか？
【高3】



向上した **79%**

- 大いに向上した
- 向上した
- あまり向上していない
- 向上していない

英検の申し込みは長蛇の列！

Your challenge creates the future.



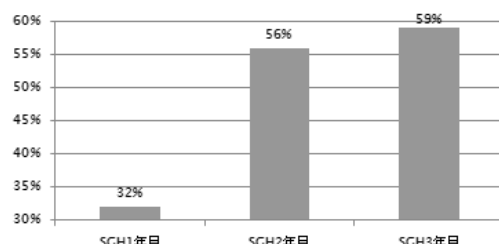
毎回の英検受験に全校生徒の約半数が受験！



英語技能検定取得者数 (1次含む)

1年目	1級1名 準1級10名 2級175名	1069名
2年目	1級6名 準1級46名 2級325名	1066名
3年目	1級8名 準1級48名 2級389名	1052名

英検2級レベル (B1・B2)以上の生徒の割合
(高校3年時、1次含む)



教員の体制→SGH委員会

- 自らの意志で様々な教科、学年から希望者が集合！
- 今年も新たな新入委員が参加し、現在30名！
(高校正教員54人)

すべての学年、教科にSGH委員が所属！

教員の取り組み SGH委員会の様子

Your challenge creates the future.

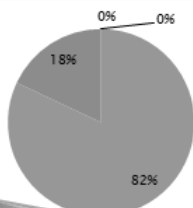


月に1～2回、2時間～80時間の会議を開催。
研修報告、ディスカッション、授業内容の検討など

教員の意識(アンケート結果)

Your challenge creates the future.

Q.本校のGRITプログラムは生徒に良い影響を与えたと思いますか



100%

- 大いに与えた
- 与えた
- あまり与えていない
- 全然与えていない

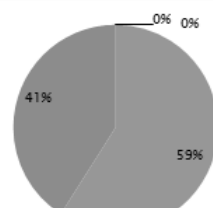


SOKA Gakuen

教員の意識(アンケート結果)

Your challenge creates the future.

Q.教員としてGRIT (SGH) の内容に触発されることはありましたか



100%

- 大いに触発を受けた
- 触発を受けた
- あまり触発されなかった
- 触発されなかった

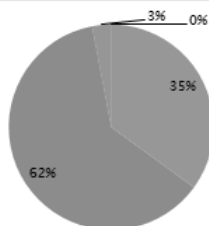


SOKA Gakuen

教員の意識(アンケート結果)

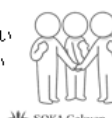
Your challenge creates the future.

Q. あなたは教員として本校のSGHプログラムに協力的でしたか



協力的 97%

- 大いに協力的
- 協力的
- あまり協力的でない
- 全然協力的でない



SOKA Gakuen

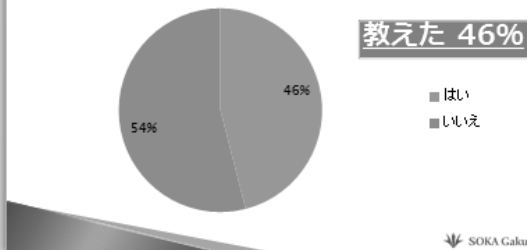
Q. 「どういう気持ちの変化があったのか」また、それに伴い「自分の行動がどう変わったか」ということを教えてください
(教員)

▶ 生徒たちが世界市民として成長しようとするのを見て、自分自身もグローバルイシューなどについて学ぶようになった。

▶ 授業に対して、生徒の意識、視点、主体性などが鋭くなっていると感じており、授業内容の充実や生徒のモチベーションを上げるための工夫を考えながら、授業準備、アドバイス等を更に意識するようになった。

Q. 自分の行っている授業の中で、SDGsに関連することを教えたことがありますか。

Your challenge creates the future.

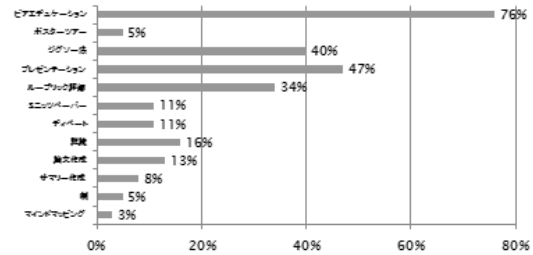


☆

19

Q. 自分の行っている授業の中で、GRITで活用している手法で用いたものがあれば教えてください。

Your challenge creates the future.



20

Q. 「ICTに関してどう気持ちの変化があったのか」また、それに伴い「自分の行動がどう変わったか」ということを教えてください。(教員)

さまざまなSGHプログラムに対し、ICTを活用する生徒を見て、ICTを最大限に活かせる協働作業、プレゼンテーションの方法を研究した。

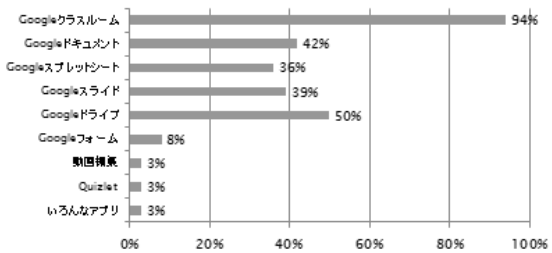
生徒のICT機器の活用を見ていて、その技量の高さに目を見張るとともに、授業内容拡大の可能性を強く感じるようになった。そのことによって、自身の授業でのICT機器の回数が増えた。

☆

21

Q. 自分の行っている授業の中で活用しているICTを教えてください。(複数回答)

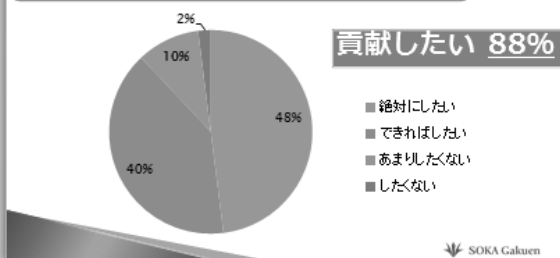
Your challenge creates the future.



22

Q. 世界の平和に貢献したいと思いますか？(高3生徒)

Your challenge creates the future.

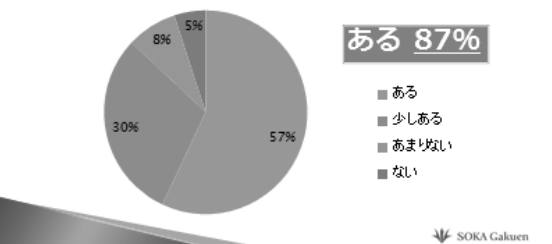


☆

23

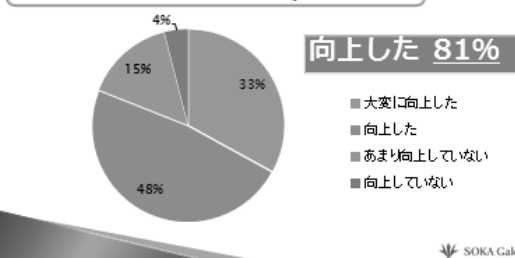
Q. 他人のために献身的に働こうとする奉仕の気持ちがありますか(高3生徒)

Your challenge creates the future.



Q. 困難なことにぶつかった時に解決法を探そうとする力は向上したと感じますか (高3生徒)

Your challenge creates the future.



☆

25

Q. 「なぜそのように気持ちが変わったのか」ということを教えてください。[高3]

この学校で学んで、平和への思いが変わったから。

世界平和が人間の究極の幸福だと思うから。

世界で苦しんでいる人がいる以上、他人事と思うのではなく、私がやらなくてはならないと思うようになった。

とてつもなく難しい問題だという認識が大きくなった。でも諦めない！世界平和は学園生の使命だから！

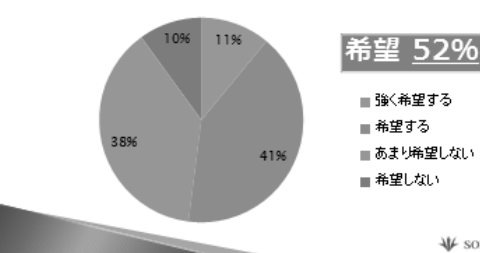
なにも知らない自分に驚き、もっと学びたいと思った。

☆

26

Q. 大学を選ぶときに国際化に重点を置く大学への進学を希望しますか。(高3生徒)

Your challenge creates the future.

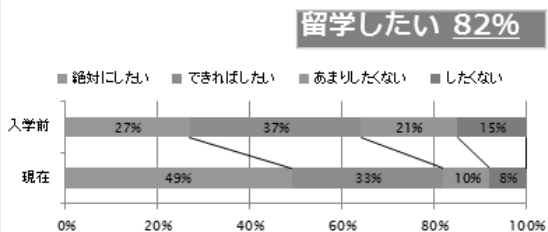


☆

27

Q. 将来留学したいと思いますか (高3生徒)

Your challenge creates the future.



☆

28

3.3. 中間評価による自己評価表

①研究計画の進捗等の評価

○研究計画の進捗状況（研究計画や具体的目標値の達成に向けて、予定通り進捗しているかどうか。また、特に構想により設定したグローバル・リーダー像を踏まえた卒業時に生徒が習得すべき具体的能力等の育成・向上に向けて、予定通り進捗しているかどうか。）

本校は SGH 事業に取り組むにあたって、生徒の次の能力を伸ばしたいと考えている。

- ①世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての使命感
- ②地球的課題である「環境・開発・人権・平和」の4分野に対する知識と教養
- ③地球の裏側にいる人に対しても自分のこととしてとらえる共感力
- ④多くの人の英知を糾合し、問題解決していく創造力
- ⑤コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力
- ⑥高い語学力
- ⑦異文化理解の柔軟性と日本人としてのアイデンティティ
- ⑧クリティカルシンキングとロジカルシンキングを持ち合わせた議論する力

本校の SGH プログラムは GRIT を中心に順調に進んでいる。SGHA からスタートした探究型総合学習 GRIT は、全校生徒を対象に行い、3 年間で完結する内容が完成した。1 年次は「グローバル 이슈との出会い」をテーマに、知識のインプットとディスカッションを中心としたプログラム、2 年次は「グローバル 이슈との戦い」をテーマに、「環境・開発・人権・平和」の4分野からトピックを選んで探究活動を行い、それぞれのチームが大学教授に探究成果と提言を発表、3 年次は「世界を一つにする力」をテーマに、合意形成の力を培った。具体的には、学年全体（356 名）で「模擬国連」に取り組み、多様な対立する意見から合意形成するためのスキルやコミュニケーションスキルを実体験をもとに学んだ。その模様は雑誌にも掲載され、内外から大きな反響を得た。また、論文作成、英語によるサマリー作成にも挑戦し、ロジカルライティングとクリティカルシンキングの力を伸ばした。このプログラムは SGH 委員会を中心に発案され、職員会議で検討・研修し、全教員が指導する体制も確立された。この GRIT は、全校生徒の 75% の生徒が「よかった」「たいへんよかった」と評価している。すべての授業が Active Learning の土台の上に、ディスカッションやリサーチ、プレゼンテーションなどを行う。内容によってはクラス 2～4 名の生徒による GRIT リーダーを事前に募り、GRIT 授業運営のレクチャーも行った。教師だけでなく、生徒に運営させることで、より深い学びとなった。また生徒からのフィードバックも拾いやすく、PDCA サイクルを回すことにも役立った。また、全校生徒対象に、国際機関や世界で活躍する著名人も招いての Global Citizenship Seminar も当初の予定通り開催でき、90% を超す生徒から高い評価を得た。希望者を対象に行う SP(SOKA Progress Class)には更なる語学力や理数能力を伸ばすクラスの他に、UP(University Partnership Class)を加え、大学・国際機関・企業との連携授業が定着した。これは SGH 以前には考えられないことである。またオールイングリッシュで行う LC(Learning Cluster)はその魅力的なプログラムから多くの生徒たちの目標となり、28 年度は 2・3 年の希望者から、課題探究に意欲的で、語学力やコミュニケーション能力に優れた 26 人を選抜して行った。生徒たちは「環境・開発・人権・平和」の中から 4 人一組でトピックを決め、1 年間通じてリサーチを行い、チョウドリ元国連事務次長などにアドバイスをしていただきながら、その解決策の提言を完成した。選抜生徒も年々増やし SGHA では 16 名であったが、26 名となっている。UP や LC、各フィールドワークなどで学んだ生徒が、各クラスに戻り、それぞれで学んできたことをシェアし、補完しあいながら、様々な学びが生徒間で大きく拡散した。SGH の生徒への効果は大きく、5 年前に 50～70 名前後だった国際協力機構 JICA エッセイコンテストの応募者数が、SGHA 以降は 200 名を超え本年度は 320 名（全校生徒の 30%）と 6 倍程度となった。意識の向上に加え、内容面でも SGH としての取り組みをきっかけに、国際協力や途上国との交流に積極的に関わりたい希望を綴る生徒が飛躍的に増えた。JICA 関西からは毎年、関西創価高校の取り組みに対し、高く評価をして頂き、JICA エッセイコンテストで「学校賞」も頂いた。また、世界的な課題に目を向ける習慣づくりを目的として、全校生徒で NIE (Newspaper in Education) に取り組み、「一緒に読もう！新聞コンクール」には 500 名を超える生徒が応募し、この 2 年間で、全国優秀賞に 2 名、大阪 NIE 優秀賞に 8 名、加えて「学校奨励賞」を受賞した。以上のことから順調に計画は進捗していると考えられる。

○学校の研究体制（学校全体として体制を整え、組織的に取り組んでいるかどうか。（一部の教員ではなく、各教科・担当部署が連携・協力しているかどうか。）また指導体制・指導方法は研究のねらいに

適したものとなっているかどうか。)

志願者による「SGH 委員会」は以下のメンバーで組織されている。

- ① 校長 1 名 ② 副校長 1 名 ③ 教頭 1 名 ④ SGH 委員長 1 名
⑤ SGH 副委員長 3 名 ⑥ SGH 書記長 1 名 ⑦ SGH 委員 20 名 以上 28 名

〔役割〕「環境」担当、「開発」担当「人権」担当、「平和」担当 Learning Cluster 担当

東京フィールドワーク担当 広島フィールドワーク担当 東北フィールドワーク担当

海外フィールドワーク担当 University Partnership Class 担当

※管理職以外でそれぞれの担当を分担

この委員会は毎月 1～2 回の SGH 委員会の他に、各長期休みに集中討議を 2 回ずつ行う。また、各委員は様々な研修等に参加し、委員会での情報共有や立案が全体の動きの形を作る。全体への周知研修は職員会議で行う。正教員 54 人中 28 人が自らの意思で SGH 委員となり、全教科・全学年にまたがる。GRIT プログラムなど、各学年で内容が違えば、毎週の学年会で所属の SGH 委員がレクチャーと質疑応答を行うなどスムーズな運営が出来るようになった。改善点や課題が見つかった場合は、SGH 委員会にフィードバックされ、PDCA サイクルが行われている。

○運営指導委員会（運営指導委員会が、専門的見地から SGH の運営に寄与しているかどうか。）

・有識者をお願いした SGH 運営指導委員 3 名、管理機関より 3 名、本校より校長をはじめ 3 名以上が参加し、運営指導委員会に、評価・助言をいただいていた。

・1 学期末に行う第 1 回運営指導委員会は運営指導委員にお一人ずつ来校いただき開催することで、十分な時間をもってご助言いただくことができ、非常に有益であった。2 学期に行う第 2 回運営指導委員会は実際の授業や模擬国連の見学を、3 学期に行う第 3 回運営指導委員会は生徒のプレゼン、ポスター発表など実際に見ていただき、決して資料による報告だけに基づく運営指導委員会にならぬよう心がけた。

・梶田叡一先生、米田伸次先生、朝野富三先生よりは、本校の取り組みを細部までよくご覧頂いた上で、その都度明確な課題と評価を頂戴し、SGH の推進に大いに役立たせていただいている。またそれぞれの運営指導委員には教職員全員の前でご指導いただく時間を持つことで、教職員が本校の取り組みに対する客観的な評価を認識でき、また次の課題に向かって心を合わせ全員で取り組む力ともなった。

②教育内容等の評価

○教育課程の編成（SGH 課題研究を実施するために学校が設定した教科・科目および対象人数は適切であったか。）

本校の SGH プログラムは、全校生徒が国連の提唱する持続可能な開発目標(SDGs)を基に「環境・開発・人権・平和」の 4 分野からグローバルイシューを学ぶ。そして全員がテーマを選定し探究する。その学びはそのままグローバルリーダーとして必要な知識となり、視野を広げることに直結する。

全校生徒を対象に、各クラスを少人数のグループに分けて行った GRIT は大きな効果を上げた。生徒アンケートでは、入学前と現在との意識の変化として「世界で起こっている環境問題について関心がありますか」56%→87%、「世界で起こっている開発の現状や問題点について関心がありますか」45%→81%、「世界で起こっている人権問題について関心がありますか」61%→87%、「世界で起こっている紛争や平和に向けての活動について関心がありますか」67%→89%と変化し、大きく意識が高まった。また、変化の要因として生徒の 70%が「GRIT 授業である」と答えている。本校の SGH プログラムは、すべてにおいて「環境・開発・人権・平和」の 4 分野につながる学びとなっているため、UP 受講者や、フィールドワーク参加者、LC で学んだ知識や経験が、GRIT 授業でのディスカッションやリサーチの際に、フィードバックされ、大きな成果を得たと考えられる。クラブ活動や課外活動の盛んな本校（クラブ加入率 90%）においては、土曜日に全校生徒が学べる時間を確保し、さらに探究を希望する生徒に機会を与えたことも適切だった。今後の課題はクラブの大会で公欠となる生徒がいることである。

Global Citizenship Seminar を年 4 回開催した。国内外のフィールドワークに 104 名が参加。LC(Learning Cluster)に 26 名が選ばれた。

GRIT を全校生徒対象としたことで、1, 2 年次に生徒全員がグローバルイシューに関する知識を共有することが出来、その知識の積み重ねが 3 年生における集大成としての「学年全体での模擬国連」へとスムーズにつながった。よって、全校生徒を対象とするという選択が適当であったと思われる。

SP (SOKA Progress Class) は以下のカテゴリーで実施した。

- ① UP Class (グローバルイシューを幅広く学ぶ講座として開講)

・希望者が登録し受講した。クラブ活動や学校行事の盛んな本校であるが、単位取得者は 58 名となり、生徒が講座によって自由に深い学びができる貴重な機会となった。

② Advanced English Class (海外留学を目指す生徒を対象として開講)

・当初は 1 クラスで開講したが、生徒のニーズにより海外留学希望者クラスと国公立受験クラスとの 2 クラスに展開し、充実を図った。

③ Advanced Math Class (数理能力・分析能力を高める講座として開講)

・SGH 指定以前は通年での受講者数は 15 名程度であったが、指定以後は単位付与することもあり通年で受講し、単位付与した生徒が約 90 名前後と 6 倍近くに増えた。

29 年度より Feel Japan Program として、Advanced 日本語(仮称)、Advanced 古典も開設する。

以上のことを踏まえ、SP、UP とともに、生徒の要望に応えた、適切な人数で開催できたと考える。

○教育課程の編成(グローバル・リーダーを育成するため、現代社会に対する関心と深い教養、論理的思考力、批判的思考力、コミュニケーション能力、問題解決力、行動力等を育成するための先進的な教育課程の研究開発が効果的に進んでいるかどうか。)

GRIT では次のように進展した。

<1 年生>知識のインプットと、ディスカッションを中心にコミュニケーション能力を養う。

【環境】校内フィールドワーク、EarthKAM 体験、ホテル復活プロジェクト

【開発】国連の取り組み(SDGs 等)、貿易ゲーム(フェアトレード)、ムヒカ大統領のスピーチ、世界が 50 人の村だったら(格差)

【人権】マララスピーチ、世界で起きている人権問題、シナリオディベート

【平和】南スーダン(紛争)、日米における核兵器に対する意識の差(核兵器肯定の理由)、被爆体験朗読会、核廃絶・核不拡散への動き

特に、NASA の教育プログラムで、国際宇宙ステーションを遠隔操作し、地球を観測する EarthKAM を全員に体験させることで、宇宙から地球を見つめる視点を育成。俯瞰的な視野から、かけがえのない地球を意識することができた。また、本校が地域と協力して進める「天の川ホテル復活プロジェクト」も全員で学び、蛍を通して自然との共生の心を育むとともに、地域に貢献することの大切さを学んだ。3 学期には、あえて ICT を使わずに表現手法を工夫させ、保護者の前で、全グループが発表を行った。

<2 年生>少人数のグループに分かれ「環境・開発・人権・平和」の 4 分野からトピックを一つ選び、一年間通じての探究活動を行う。

【6 月】全グループが創価大学において、専門分野の大学教授に探究成果と提言を発表し、アドバイスをいただく。

【夏休み】個人でのフィールドワークを課す。

【11 月～1 月】大学院生に探求・調査の現状を発表し、ブラッシュアップを加えてもらう。

【2 月】高校生としての地球的課題の解決提言を ICT を駆使して完成。保護者を前に全グループが発表を行う。その中で優秀なグループが本校 SGH 報告会でプレゼンテーションを行い、いずれの発表も高い評価を得た。その中でも最優秀の 2 グループが大阪大学国際公共政策コンファレンスへの出場が決定した。

<3 年生>合意形成能力の育成とグローバルリーダーとしての心を育む事を目指したプログラムを実施する。

【1 学期当初】導入として核廃絶シュミレーションゲームを行う。

【1 学期後半～2 学期】SGH 中間発表会を中心として、3 年間の集大成として、学年全員が 92 ヶ国に分かれて模擬国連を行う。各グループが担当国の全権大使となり、下調べをし、模擬国連に臨んだ。

28 年度は「飢餓の終息に向けた農業分野での国際協力」というテーマで総会を開催。採択された二つの決議は後日、海外フィールドワークに参加したメンバーから元国連事務次長のチョウドリ大使に直接提出。

【3 学期】全員が探究したことを論文にまとめ、英語サマリーとして発信。

1 月下旬から行った海外フィールドワークの中で、チョウドリ大使からは、模擬国連の取組やテーマ、決議に至るまで素晴らしい取り組みと成果であるとお褒めの言葉をいただくとともに、「国連憲章の精神」をさらに深めてほしいことと、「国連は完璧ではない」ことを踏まえて取り組んでほしいとのアドバイスをいただいた。

このように、全学年において先進的な教育課程の研究開発が活発かつ効果的に進んでいると自負している。

○校内の授業改善（SGHによる取組が、独自の取組と併せて、課題の解決に向けて主体的・協働的に学ぶ授業になっており、また教科の連携・協力により学校全体の授業改善が図られているかどうか。）

SGH 採択とともに、課題探究の土台としての Active Learning について創価大学・関田教授をアドバイザーに迎え、研修を実施。全教員に対して 4 回、SGH 委員会に対して 1 回開催し、さらに授業参観をして助言をいただいた。27 年 7 月の研修では、名古屋市立桜台高校の水野正朗先生も招き、国語の模擬授業を通して全教員が研修。その後、Active Learning を実践する教員が増加し、28 年度は 93% の教員が授業に Active Learning を実践した。

29 年 3 月にも関田教授による研修会を実施。生徒の自発性を重んじる授業を進める共通認識がさらに広まった。

その結果、SGH 活動も自主性が増し、議論も深まっている。「使命感」「共感力」の育成にも効果が認められる。加えて教科指導そのものの授業改善がなされ、「自ら学ぶ」校風にまで発展した。

また、ICT 教育の推進も大きく前進し、1 月には 2 年生全生徒にタブレットを貸与。教員もタブレットを積極的に活用し、Google Classroom や Google Drive を活用した取り組みを開始した。教員対象のアンケートにおいて「本校が SGH となって、生徒の ICT の取り組みが進んだと思いますか」の質問に、の 97% が「進んだ」「大いに進んだ」と答えるなど、Active Learning を初めとする授業改善を大きく前進させた。29 年度からは全校生徒にタブレットが支給される。この流れを受け、生徒総会では生徒発の要望で、「ICT 機器を普及する際の懸案事項」について討論が行われ、生徒自らが健全なルールを構築しようとしている。

このように、全教員の意識が変わり、授業改善が大きく進んだ。

○特色ある教材開発（課題研究を効果的に推進するための教材を開発しているかどうか。）

GRIT は土曜日を利用して行われる探究型の学習であり、4 つの分野における地球的課題に、友と協力して挑むプログラムである。加えて提携する国内外の大学や国際機関、企業から最新の情報と専門的なアドバイスが寄せられ、生徒の知的好奇心を刺激する。生徒にはインタビューやフィールドワークの課題を課す。また 3 学期には数名からなるチームで、各分野のコアなテーマについてプレゼンテーションを行うなど、積極的な学習意欲へとつながっている。

本校では GRIT として、様々なプログラムを「環境・開発・人権・平和」について開発した。「環境」分野では本校の豊かな自然を利用した、『校内フィールドワークプログラム』や NASA と提携して本校が行っている『EarthKAM プロジェクト体験』、「開発」においては『世界が 50 人の村だったら』『貿易ゲーム』を本校独自のプログラムへと作り上げた。「人権」では『いじめといじりディベート』『世界の人権問題』、平和では広島フィールドワークとリンクした『被爆体験朗読会』、連携校である広島女学院から頂いた、『核軍縮交渉シュミレーション』を本校用にアレンジするなど、コミュニケーション能力、リサーチスキル、批判的思考力、プレゼンテーション能力の向上にも直結し、グローバルリーダーの資質向上につながるプログラムをたくさん開発し、生徒はそのすべて学びをポートフォリオとしてまとめた。SGHA からの 3 年目となる 28 年度は、その集大成として 3 年生全員で行う模擬国連に 6 ヶ月かけて取り組んだ。「飢餓の終息に向けた農業分野で国際協力」とのテーマで、学年 356 人を 3～4 人グループを 1 国として 92 ヶ国に分け、一人一人がその国の全権大使として自国の課題や問題点、人口や宗教、経済状況に至るまでリサーチした。また、8 クラスをそれぞれの地域（南米・西アジア・東、東南アジア・北中米・東欧・西欧・アフリカ・オセアニア）に分け、地域としての討議も行い、自国クローズ（政策）と地域クローズ（政策）を作成、ワーキングペーパー（18 カ国で提出可能とする）を作成した。JICA 関西にも協力していただき、各地域（8 クラス）に実際に赴任した方を講師に招き、自分たちの立てたクローズ（政策）に矛盾がないかを確認、アドバイスもいただいた。ICT も活用し 356 人全員が Google Classroom に登録し、どの国がどのような政策や課題を持っているかを 24 時間いつでも閲覧可能にし、グループ内の討議も可能にした。その結果生徒たちは休憩時間等にもロビー活動を開始、今まで聞いたこともなかった国の、見たこともない地域に住む人たちのために何ができるかを真剣に考えた。食堂でも先進国の生徒と発展途上国の生徒が「マクドナルド」の価格について真剣に討議し激論を交わすなど、授業の枠を超えて活動が広がった。講堂で行われた 356 人で行う学年模擬国連では、全グループがタブレットで各国のワーキングペーパーの動向を確認しながら、活発な議論、会議、ロビー活動が行われ、その模様は本校の SGH 中間報告会として公開。SGH 校を含む多くの教育関係者、自治体関係者が見守る中、二つの決議案が採択された。また、採択された決議を元国連事務次長のチョウドリ大使に直接手渡す模様は、全校生徒にライブ中継され、その時頂いたアドバイスも、共有すること

ができた。生徒たちは「環境・開発・人権・平和」の学びすべてが、関連していることを学んだ。そして、日本で目にする情報はほんの一部にすぎず、英語なら膨大な情報を得られることや、様々な立場や考え方があることを学んだ。また、それぞれに大義があり、その中で合意形成することの難しさも学んだ。一人も残らずアクティブに活動できたのは、全教員のサポートは当然として、SGHA からの3年間で「環境・開発・人権・平和」の深い学びがあったからと自負する。3学期には全員がそれぞれ自分の考えを論文にまとめ、英語サマリーとして残す事もできた。この取り組みにあたり、現代文の時間では論文作成のトレーニングや、TEの時間では英語サマリーのレクチャーなど、各教科と連携してGRITに取り組むこともできた。

この『学年模擬国連』のプログラムの教材は冊子にまとめ、多くの教育関係者に公開し、SGH 中間報告会の参加者にも配布した。このプログラムをもとに行えば、どの学校でも本校同様の大きな教育効果を得られると自負する。その他にも、1年生19時間、2年生20時間、3年生25時間のプログラムが完成している。これらの内容も様々な機会に教育関係者に配布、毎年の研究開発実施報告書にもまとめて、すべてのSGH校や地域の教育関係者に発信した。

③外国語教育・国内外研修等の評価

○外国語教育に関する取組（外国語教育に関する取組は、課題研究との関連性が明確であり、研究課題に取り組むために必要な能力を向上させるための取組が日常的に行われているか。）

SGHのプログラムを進める中で、「海外で通用する語学力は必要であると思いますか」の質問に97%の生徒が「必要」と答え、語学に対する意欲が大きく高まった。それを受け、英検の受験者は今年度の1年間で延べ1320名にのぼり、第3回英検では全校生徒の半数に及ぶ生徒が英検に挑戦した。合格者を前年と比べると以下の通り大きな飛躍が見られる。

1級 1名→4名 準1級 10名→45名 2級 175名→287名

さらに28年度卒業生では、356人中、CEFR/ TOEIC/ 英検を踏まえたCEFRのレベル別人数は、C1レベルが5人、B2レベルが27人、B1レベルが147人と全体の56%がB1レベル以上を達成するなど飛躍的に語学力が向上した（昨年度卒業生は38%）。すべての活動を英語で行う選抜メンバープログラムのLCは勿論、各フィールドワークでもオールイングリッシュでプレゼン作成・発表を行うなど生徒が恒常的に英語で活動する機会が増えたのも、大きな要因と言える。またその活動をサポートするために、“Critical Writing Center” というネイティブ講師の指導室を設け、授業でのエッセイ課題はもちろん、英語弁論大会に出場するための原稿や、個人で日常的に取り組む英語日記や英作文もチェックしてもらえる体制を整えた。今年度の後半からはその機能を拡充させ、“English Help Center” と改称、ライティングのみならず、英検の面接などのスピーキング練習、リーディングの質問など、あらゆる英語の質問や要望に対応できるように発展させた。開設以来、常に翌週の予約まで埋まってしまうほど、大人気の取り組みとなっている。英語教員については毎年3名、毎年イギリスの大学での夏季TESOL研修に派遣し、教師自身の指導技術と英語力の向上を目指した。さらに夏休みと春休みに2日ずつ、創価大学から講師を招き、TESOL研修を行っている。

○外国語教育に関する取組（英語等も含めたグループワーク、ディスカッション、論文作成、プレゼンテーション、探究的学習等は、課題研究を実施するための効果的な取組となっているか。）

1年生を対象に、Global Campを9月に行った。創価大学の留学生を本校に招き、2日間の交流で学びを深めるプログラムである。28年度は124名が参加し、35名の留学生と35グループに分かれて国際問題を扱うポスターを作成、ポスターセッションを開催した。ポスターの内容は、環境や児童労働、ジェンダーの問題など多岐にわたっており、留学生それぞれの出身国で問題となっていることを生徒がヒアリングしながらの作成であった。グループの取り組みの中で、英語でのディスカッションやプレゼンテーションに挑戦する機会が参加者全員にあり、終了後のアンケートでは実に100%の生徒がGlobal Campを通して「成長できた」と回答した。「参加してよかった」「後輩に勧めたいと思う」との回答はそれぞれ99%にのぼり、1年次での課題研究に大きく寄与する取り組みとなった。

2年生は創価大学研修で全員が留学生とGlobal Campを持つ機会があり、オールイングリッシュで交流、ディスカッションを行った。各国の最優秀である留学生と英語でのディスカッションは、語学力の向上、語学習得の意欲の向上に直結している。

3年生ではTEⅢの授業で英語サマリーについて学び、論理的な思考を英語で発信する能力を培ったことにより、課題研究の効果的な取り組みとなっている。

○国内海外研修等に関する取組（フィールドワークや成果発表等のための国内海外研修等が、課題研究を実施するための効果的な取組となっているか。）

国内フィールドワークでは東京が2コースで48名が参加。国連大学、近藤哲生 UNDP 駐日代表、田口晶子 ILO 駐日代表とセッションを行い、UN Women、JICA、NGO の Hunger Free World、外務省などを訪れ、プレゼンテーションやディスカッションを行った。SGU である創価大学でも、沢山の教授陣とセッションを持った。広島コースでは24名が参加し、毒ガス工場跡の大久野島、ホロコースト記念館を訪問リサーチ。平和祈念式典にも参加し、被爆体験講話や被爆体験記朗読会を体験。広島女学院をはじめするSGH校との交流も行いNPTについて解決策を模索した。広島平和文化センターでは小溝泰義理事長とのセッションも行った。岡山大学ではESDについて学び、「持続可能な開発のための教育」について学んだ。また、AMDA 本部では、災害や紛争発生時、医療・保健衛生分野を中心に緊急人道支援活動を展開する様子を聞き、人道支援の最前線を学んだ。東北コースでは20名が参加、被災地によるボランティア参加や、被災体験を聞いての災害ディスカッション、東北大学での最先端の防災研究、同じSGHの仙台二華高校や仙台白百合高校との交流を行った。海外フィールドワークではUCLA、南カリフォルニア大学で多くの教授とオールイングリッシュで講義を受けディスカッション。アメリカ創価大学ではチョウドリ元国連事務次長の前で研究をプレゼンテーションし、2時間に及ぶディスカッションを行った。また、この模様は全校生徒にライブ中継され、全校生徒と共有された。核時代平和財団のデイビット・クリーガー会長を訪問し、核廃絶に向けたディスカッションを行った。どのフィールドワークも、事前事後学習に時間をかけ、帰校後は全校生徒に対し発表の場を持つとともに、GRIT 授業の中でその経験を共有した。

すべてのフィールドワークは全校生徒に道が開かれており、毎回100名ほどの生徒が希望している。英語検定上位者に参加優遇枠を設けたことで、語学に対する取り組みも加速した。参加者の意識の変容は大きく、学校全体に与えた影響は大きい。今後はこの経験や知識を地域や近隣の学校に波及させていきたい。

④外部連携・その他の取組の評価

○国内外の大学や企業、国際機関等との連携（国内外の大学との定常的な連携により、専門性の高い指導（外国語による指導も含む）や高大の接続の改善を図るための効果的な取組が行われているかどうか。）

本校の特徴的な高大連携のプログラムとして、UP（University Partnership Class）がある。このクラスは希望者が参加できる。1年間を通じて週1回、提携する大学・国際機関・企業から講師を招聘し講義を受講。「環境・開発・人権・平和」についての深い知的基盤を固める時間となり、様々なディスカッションも行う。約100名が受講し、大変に人気のプログラムで、生徒アンケートでは「ものごとを色々な角度から見たり、考えたりすることができるようになった」は高評価が100%であり、生徒たちのものの見方や考え方を広げることに成功したと自負したい。

提携大学一覧

【環境】 京都大学、東北大学、創価大学 【開発】 東北大学、創価大学、南カリフォルニア大学
【人権】 アメリカ創価大学、創価大学、UCLA、岡山大学 【平和】 創価大学、オタゴ大学

○国内外の大学や企業、国際機関等との連携（国内外の企業、国際機関等との定常的な連携により、実社会との関わりによる社会貢献の意義や実感を芽生えさせる効果的な取組が行われているかどうか。）

生徒たちはLC(Learning Cluster)として高校2、3年生から26人選抜され、一年間を通じてオールイングリッシュで探究を行った。「環境・開発・人権・平和」の4分野について、UNDP 近藤哲生駐日代表、山口寿男元駐イラク・ノルウェー大使、また現役の外交官の方々など有識者の方々から直接講義や質疑応答の機会を持ち、世界の実情を知ること、探究活動を広げた。その研究や成果は定期的に全校生徒に発信の機会を持ち、知識経験は全校生徒に共有された。

主な成果

- 日本国際連合協会主催国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール文部科学大臣賞受賞、日本代表として国連本部視察。
- 米国国連協会主催の模擬国連の国際大会に2名が出場。日本代表として活躍
- 日米露の高校生による核不拡散教育会議（米国ミドルベリー国際大学院モントレイ校大量破壊兵器不拡散研究所主催）に参加する。※29年参加決定
- 核時代平和財団クリーガー会長による特別授業(米国にて実施)
- 元国連事務次長チョウドリ大使による特別授業(米国にて実施)

UP (University Partnership Class) としても様々な団体に多くの授業を行っていただいた。
GRIT では弁護士グループによる講座も行い、実社会での人権問題を学んだ。

提携した団体

【環境】 NASA、JAXA、交野市、樹医

【開発】 UNDP、JICA 関西、NGO 団体 GOODEARTH、田中バナナ

【人権】 UNHCR、UN-WOMEN、車椅子ウォーカー、毎日新聞

【平和】 広島平和文化センター

○その他に関する取組（地域や学校の特性を生かした取組が行われているかどうか。）

また日本の良さや伝統文化への理解を深めるための効果的な取組が行われているかどうか。）

環境フェスタ in 交野では、NASA の教育プログラムである EarthKAM への本校の取り組みを毎年発表している。「宇宙から地球を見つめる視点」を養い、地球をかけがえのないものと思える心を育むこのプログラムは、参加した市民より毎回好評をいただいている。

地域連携プロジェクト「天の川ホテル復活プロジェクト」の一環として、本校では 38 年間にわたり蛍育成・保存活動について取り組んできた。関西創価で育てた蛍は、毎年 6 月に一般公開されている。この取り組みはTV などでも紹介され、交野市民の憩いのイベントとなっている。生徒たちは蛍育成の体験を通し、生命の尊厳や自然との共生の心、地域へ貢献する心を育む。

本校の和太鼓クラブである「栄光太鼓」は校内で全校生徒を鼓舞するだけでなく、和太鼓フェスタにも毎年出場し、日本の伝統文化の継承に貢献した。

箏曲部は、全国大会に出場し、文化庁長官賞を受賞するなど活発に活動しており、地元の方々を招いての演奏会も、定期的に行っている。また、オープンキャンパスでは、希望者に体験演奏なども行った。

図書館においては、毎年1月に百人一首大会を開催している。

29 年度より Feel Japan Program として、SP の中に Advanced 日本語（仮称）、Advanced 古典も開設する。

○その他に関する取組（将来留学したい又は国際的に活躍したいといった自らの将来ビジョンを明確化し、自律的なキャリアデザインを促すための取組が行われているかどうか。）

本校の提携校であるアメリカ創価大学の学長や、学生部長による海外大学進路希望者懇談会を、定期的に開催している。本校卒業の海外大学卒業者（ハーバード大学、シカゴ大学、南カルフォルニア大学等）との進路懇談会、本校卒業の現役海外大学進学生との進路懇談会を定期的に開催している。また、元創価大学キャリアセンター職員の羽賀文湖さんを、本校のキャリアデザインアドバイザーとして迎え、将来留学したい又は国際的に活躍したいという生徒の希望を強力に推進する。28 年度に第 1 回キャリアデザイン講座を全学年対象に行った。29 年度よりは、1 年生が入学時、2 年生が創価大学研修時、3 年生でも年度内にキャリアデザイン講座を開催し、毎年 1 回ずつ自分の進路を見直す予定。各分野で活躍する本校の卒業生を多数招き、年 1 回のキャリアガイダンスを開催、生徒が自身のキャリアを考える機会とする。「トビタテ留学 JAPAN」プログラムにも応募担当教員を配置し、生徒の留学のサポートができるようにする。また、プログラムに参加した生徒がこれから応募する生徒に対して、アドバイスや参考資料の提示なども行っている。

⑤成果の分析・普及等の評価

○成果と課題の分析、検証（研究の課題や研究のねらいに対応した、SGH 指定前後の生徒の変容(学習意欲、進路の状況等を含む)が見られたかどうか。）

本校の SGH プログラムを受けての、生徒アンケートによると、入学前と現在では「グローバル 이슈に対する関心がありましたか」との問いに対し、「関心がある」が 53%→86%に変化。「グローバル 이슈に自分が関わりたいと思っていますか」との問いには「関わりたい」が 34%→59%へと変化した。その理由として、『苦しむ人を救いたいから』、『世界平和に貢献したいから』がともに 44%と、「使命感」に燃えてグローバル 이슈の解決に挑むタフなリーダーと成長していることがうかがえる。「身の回りで起こる問題に積極的に関わろうとする気持ちはありますか」との問いには「ある」が 49%→79%に向上した。その理由としては、『身近な問題が世界につながると感じたから』が 47%となり、共感が向上したと考えられる。考えの変化として、「自分と意見の違う人の話や考え方を認める力は向上しましたか」との問いに対し、「向上した」が 87%、「何か困難なことにぶつかったときに解決方法を探そうとする力は向上しましたか」との問いには、82%の生徒が「向上した」と成長を感じている。理

由として、『相手に対する共感力が増したから』42%、『さまざまな体験をしたから』25%、『多様性を認める心が芽生えたから』25%など心の成長が読み取れる。授業の中では多くの場面でリーダーシップをとる機会があるため、「グループで活動するときにグループをまとめ、課題を進める力は向上しましたか」の問いにも、68%の生徒が成長を感じている。これらの自信は、「問題解決への創造力」の源となる自己肯定感につながる。また、「世界の食糧事情について関心がありますか」が入学前42%→87%、「国際的な合意形成の難しさを知っていますか」については入学前22%→74%に変化するなど、大きく変容した。考えや知識量が変わったきっかけとして80%の生徒がGRITによる取り組みをあげ、その理由として『相手に対する共感力が増した』『多様性を認める心が芽生えた』『他国で起こることも自分と関係がある』『協力すれば道は開けることを知った』『苦しむ人を救いたい』などと答え、多くのグローバルリーダーとしての心を育んだと考えられる。

さらに、UPクラスの単位取得者数も27年度19名→28年度58名と徐々に増え、学ぶ意欲が向上していると考えられる。

○成果と課題の分析、検証（SGHの取組を通じて、グローバル人材育成の重要性の認識等、教員の意識の変容が見られたかどうか。）

創価大学教育学部の教授や、他校で大きな評価を得ている教員を本校に招き、全教員対象に4回のアクティブラーニング研修を行った。実際にワークショップも行い、真のアクティブラーニングについての議論や、課題探究、新学習指導要領についての理解を深めた。すべての教員がSGHに取り組む中で、生徒の中にSGH校としての誇りも生まれている。また、それを教える教員にも大きな変化があらわれた。教員アンケートでは、「本校のGRITプログラムは生徒に良い影響を与えたと思いますか」の問いに対して、98%の教員が「与えた」「大いに与えた」と答え、「教員としてGRIT（SGH）での生徒の意見や姿に触発を受けましたか」の質問には、97%の教員が「触発を受けた」「大変に触発を受けた」と答えた。「GRITや本校のSGHの取り組みはあなたの教師としての考え方や行動に影響を与えましたか」の質問には、95%の教員が「与えた」「大いに与えた」と答えるなど、教師自身の意欲も大きく向上した。各教科においても「自分の授業でアクティブラーニングの要素を少しでも取り入れた」教員は93%、「自分の授業に探究学習の要素を少しでも取り入れた」教員は84%と学校の授業が大きく変容した。

○成果等の検証の結果に基づく取組の改善（明らかになった課題を基に必要な改善の取組をこれまで進めてきているかどうか。）

メインプログラムであるGRITは、SGHAの26年にスタートした。当初は、3学年同時進行で「環境・開発・人権・平和」を学んだが、27年度にSGHとなった際、時間をかけ、より深く学ぶため1年次に「環境・開発」2年次に「人権・平和」と改めた。しかし、高大連携により、創価大学での各グループのプレゼンテーションが実現したことにより、1年次に「環境・開発・人権・平和」を一通り学び、2年次には自分たちで探究テーマを決めて探究・提言作成まで可能とし、3年次には合意形成をはかるという関西創価のGRITプログラムが完成した。

毎時間生徒に書いてもらっている振り返り用紙の内容をもとに、翌年度のGRITの内容検討を行った。例えば、貿易ゲームでは、27年度は振り返りの時間が少なく、いったい何のためのゲームだったのかわからなかったという意見があったのを、28年度は振り返りの時間を15分から50分に増やし、貿易ゲームにどんな意味があったのかを考える時間をとり、生徒のより深い学びにつなげた。

UPクラスは人気のプログラムだったが、7時間目に希望者で行うため、学校行事やクラブ活動の盛んな本校においては、時間的に支障をきたし、継続参加することが困難な生徒も多かった。また27年度は、生徒の集まりづらい曜日であったのを28年度は毎週木曜日に変え、さらに学校としてこの授業を最優先することを教員間で確認することで生徒の単位取得者数が約3倍になった。

またUPクラスの内容の記録を残し、全校生徒に普及することが27年度はできなかったという反省点を生かし、28年度はUPスタッフ（生徒）を募集し、26名が集まった。スタッフは授業最後の御礼のあいさつと、授業のまとめを作成した。各講座の内容をポスターにまとめて展示し、受講者以外に啓蒙をするなど、全校生徒への普及を図った。

○成果の普及、共有・継承（研究成果の普及に積極的に取り組んでいるかどうか。）

SGH研究報告会を年2回開催し、本校のグローバルリーダー育成の取り組みを報告している。GRIT（人権ディスカッション・貿易ゲーム・SDGsポスターツアー・模擬国連）やフィールドワークの報告やGRIT・LCの課題研究の発表、運営指導委員の先生による講演・講評を行った。

模擬国連の資料はすべて、来校者に配布した。また、GRIT の内容・ワークシートを研究報告書にのせ、全国の SGH 校に配布した。

「環境フェスタ in 交野」「SGH 甲子園」に参加し、生徒が発表を行った。

オープンキャンパスではラーニングクラスターコーナー、フィールドワークコーナーを作成し、展示を行っている。そこに生徒を配置し、本校を訪れる保護者・受験生に対し、学んだことを説明している。さらに、本校で行われる三大大行事と呼ばれる行事の際でも部門として学習したこと、様々な活動を内外に報告した。

○成果の普及、共有・継承（学校として研究成果の共有・継承が図られるような取組を進めているかどうか。）

SGH 委員が中心となり、GRIT プログラムの説明や研修、各フィールドワーク報告を職員会議で定期的に行った。その上でより細かい疑問に対する質疑応答や運営のレクチャーを毎週の学年会で行い、全教員が運営できる体制を作っている。小さい単位で行うことで、課題や問題点、改善点を速やかに発見することができた。

⑤総合評価

本校の SGH 関連事業は、全校生徒対象の GRIT を中心に Global Citizenship Seminar、SP(SOKA Progress Class)、UP(University Partnership Class)、各国内外のフィールドワーク、オールイングリッシュで行う LC(Learning Cluster)など多岐にわたる。すべてのプログラムが「環境・開発・人権・平和」を貫く学びのため、すべてが循環し、学校としても大きな学びへと広がった。「ユネスコスクール」への申請も終わり、何よりも生徒たちの中に「SGH 校」としての誇りと自覚が生まれている。その結果として、様々なコンクールへの応募や受賞、世界大会への出場、語学検定合格者の大幅アップにつながったと確信する。

世界の平和に貢献するグローバルリーダーとして、生徒自ら地球的課題に挑み、解決しようとするその「使命感」、多様な意見を理解し、問題の本質を見抜き、分断された人々を連帯させ、解決への新たな価値を生み出す、高い語学力やコミュニケーション能力の習得はもちろんのこと、世界が抱える諸問題を認識し、たとえ遠く離れた地域の出来事であっても積極的に関心を抱き、自らの意思と友との連帯をもって解決へ導こうとするグローバルリーダーとしての資質である「共感力」「問題解決への創造力」を育むプログラムとなっている。現在、ユネスコスクールにも申請を済ませ、SGH 終了後の国際バカロレア等も視野に入れ、目標の達成に向けて順調に進んでいる。

関西創価高校SGH GRIT全校アンケート結果

問1. 国連が推進するSDGsを知っていますか。

	①知っている	②少し知っている	③あまり知らない	④全然知らない
(入学前)1年	8.5%	10.9%	18.3%	62.3%
(現在)1年	46.1%	36.6%	10.9%	6.3%
2年	57.6%	30.0%	6.8%	5.6%
3年	51.0%	31.0%	11.4%	6.5%

問1a. 次のどのことから、国連が推進するSDGsを知りましたか。(複数回答可)

①GRIT	②TV・新聞・ニュース	③授業	④フィールドワーク	⑤グローバルシチズンシップセミナー
70.1%	17.7%	35.1%	10.0%	15.0%
⑥創立者の提言	⑦UP・LC	⑧友人や先輩の話		
29.0%	14.0%	7.2%		

問2. 世界で起こっている環境問題について関心がありますか。

	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
(入学前)1年	20.1%	36.6%	32.0%	11.3%
(現在)1年	46.8%	29.9%	20.4%	2.8%
2年	38.8%	37.6%	21.6%	2.0%
3年	39.2%	38.4%	18.4%	4.1%

問2a. 次のどのことから、世界で起こっている環境問題について関心を持ちましたか。(複数回答可)

①GRIT	②TV・新聞・ニュース	③授業	④フィールドワーク	⑤グローバルシチズンシップセミナー
46.4%	43.8%	33.2%	9.1%	17.3%
⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話			
14.2%	6.3%			

問3. 世界で起こっている開発の現状や問題点について関心がありますか。

	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
(入学前)1年	14.1%	27.5%	40.1%	18.3%
(現在)1年	39.8%	27.8%	29.6%	2.8%
2年	33.6%	34.8%	28.0%	3.6%
3年	38.8%	31.8%	25.3%	4.1%

問3a. 次のどのことから、世界の開発の現状や問題点について関心を持ちましたか。(複数回答可)

①GRIT	②TV・新聞・ニュース	③授業	④フィールドワーク	⑤グローバルシチズンシップセミナー
42.7%	36.3%	29.1%	8.2%	16.9%
⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話			
13.8%	5.5%			

問4. 世界で起こっている人権問題について関心がありますか。

	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
(入学前)1年	18.0%	30.3%	37.7%	14.1%
(現在)1年	37.7%	33.1%	25.4%	3.9%
2年	40.4%	31.2%	23.6%	4.8%
3年	35.5%	37.1%	22.9%	4.5%

問4a. 世界で起こっている人権問題について関心を持ちましたか。(複数回答可)

①GRIT	②TV・新聞・ニュース	③授業	④フィールドワーク	⑤グローバルシチズンシップセミナー
44.1%	40.4%	27.3%	7.1%	12.7%
⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話			
12.1%	6.8%			

問5. 世界で起っている紛争や平和に向けての活動について関心がありますか。

	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
(入学前)1年	27.8%	35.6%	27.8%	8.8%
(現在)1年	45.8%	29.6%	21.5%	3.2%
2年	45.2%	30.4%	20.4%	4.0%
3年	54.7%	26.9%	14.7%	3.7%

問5a. 次のどのことから、世界で起っている紛争や平和への活動について関心を持ちましたか。(複数回答可)

①G R I T	②TV・新聞・ニュース	③授業	④フィールドワーク	⑤グローバルシチズンシップセミナー
45.0%	49.5%	33.1%	9.5%	18.8%
⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話			
12.9%	7.4%			

問6. 世界の食糧事情について関心がありますか。

	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
(入学前)1年	10.9%	27.5%	43.0%	18.7%
(現在)1年	27.8%	39.4%	28.2%	4.6%
2年	34.0%	30.0%	31.6%	4.4%
3年	37.1%	35.9%	22.4%	4.5%

問6a. 次のどのことから、世界の食糧問題について関心を持ちましたか。(複数回答可)

①G R I T	②TV・新聞・ニュース	③授業	④フィールドワーク	⑤グローバルシチズンシップセミナー
41.5%	32.9%	29.5%	5.1%	11.8%
⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話			
10.8%	4.2%			

問7. 核兵器廃絶について関心がありますか。

	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
(入学前)1年	30.6%	33.5%	27.1%	8.8%
(現在)1年	50.7%	27.1%	19.0%	3.2%
2年	48.4%	28.0%	19.6%	4.0%
3年	53.5%	29.0%	13.5%	4.1%

問7a. 次のどのことから、核兵器廃絶について関心を持ちましたか。(複数回答可)

①G R I T	②TV・新聞・ニュース	③授業	④フィールドワーク	⑤グローバルシチズンシップセミナー
42.4%	49.2%	34.6%	11.0%	17.9%
⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話			
11.2%	8.5%			

問8. 国際的な合意形成の方法について関心がありますか。

	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
(入学前)1年	4.9%	9.5%	41.2%	44.4%
(現在)1年	10.9%	20.8%	46.8%	21.5%
2年	19.6%	26.4%	38.4%	15.6%
3年	21.2%	26.5%	39.6%	12.7%

問9. 国際的な合意形成の難しさを認識していますか。

	①認識している	②少し認識している	③あまり認識していない	④全く認識していない
(入学前)1年	11.3%	12.7%	45.4%	30.6%
(現在)1年	28.2%	16.9%	40.8%	14.1%
2年	31.6%	19.6%	31.2%	17.6%
3年	40.8%	21.6%	24.1%	13.5%

問10. 将来留学したいと思っていますか。

	①絶対にしたい	②できればしたい	③あまりしたくない	④したくない
(入学前)1年	21.8%	32.7%	22.9%	22.5%
(現在)1年	31.7%	33.8%	22.2%	12.3%
2年	32.4%	40.4%	17.6%	9.6%
3年	49.4%	32.7%	10.2%	7.8%

問11. 将来海外で活躍したいと思いますか。。

	①絶対にしたい	②できればしたい	③あまりしたくない	④したくない
(入学前)1年	20.8%	34.9%	27.1%	17.3%
(現在)1年	26.8%	36.6%	26.8%	9.9%
2年	18.8%	37.2%	34.8%	9.2%
3年	23.3%	38.0%	32.2%	6.5%

問11a. 将来海外でどのような立場で活躍したいと思いますか。(複数回答可)

①国連職員・国際機関	②NPOやNGO団体	③グローバル企業	④医療関係	⑤教育関係
5.3%	4.2%	10.8%	6.4%	9.7%
⑥科学者・研究者	⑦企業・実業家			
4.0%	9.2%			

問12. 将来、国際機関(UNDP、国連他)に関わる仕事がしたいと思いますか。

	①絶対にしたい	②できればしたい	③あまりしたくない	④したくない
(入学前)1年	5.3%	20.8%	39.4%	34.5%
(現在)1年	8.1%	27.5%	37.0%	27.5%
2年	3.2%	24.8%	42.4%	29.6%
3年	6.9%	23.3%	44.9%	24.9%

問13. 世界の平和に貢献したいと思いますか。

	①絶対にしたい	②できればしたい	③あまりしたくない	④したくない
(入学前)1年	33.8%	50.7%	12.3%	3.2%
(現在)1年	47.2%	38.0%	12.3%	2.5%
2年	41.6%	42.8%	12.4%	3.2%
3年	48.2%	40.0%	10.2%	1.6%

問13a. 次のどのことから、世界の平和に貢献したいと思いましたか。(複数回答可)

①GRIIT	②TV・新聞・ニュース	③授業	④フィールドワーク	⑤グローバルシチズンシップセミナー
41.8%	46.8%	36.2%	11.2%	24.0%
⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話			
14.2%	11.2%			

問14. 海外で通用する語学力は必要であると思いますか。

	①絶対に必要だと思う	②必要だと思う	③あまり必要ではないと思う	④必要ではない
(入学前)1年	47.9%	38.0%	10.9%	3.2%
(現在)1年	65.5%	25.4%	7.0%	2.1%
2年	64.0%	26.4%	6.4%	3.2%
3年	69.4%	24.1%	5.3%	1.2%

問14a. 次のどれから、海外で通用する語学力は必要であると感じるようになりましたか。(複数回答可)

①フィールドワーク	②Global Camp	③海外の方の講演	④海外の方と話して	⑤授業
16.4%	32.1%	31.7%	39.1%	48.5%
⑥友人や先輩の話	⑦UP・LC			
24.1%	12.7%			

問15. 世界で起こるニュースに対する関心は高まりましたか。

	①関心が高まった	②少し高まった	③あまり高まらなかった	④全然高まらなかった
(入学前)1年	15.8%	33.5%	39.4%	11.3%
(現在)1年	40.1%	37.3%	19.4%	3.2%
2年	37.6%	41.6%	16.4%	4.4%
3年	45.3%	35.9%	15.1%	3.7%

問15a. 次のどのことから、世界で起こるニュースに対する関心は高まりましたか。(複数回答可)

①G R I T	②TV・新聞・ニュース	③授業	④フィールドワーク	⑤グローバルシニアシップセミナー
37.7%	53.1%	34.6%	9.7%	21.9%
⑥UP・LC	⑦友人や先輩の話			
12.7%	8.2%			

問16. グローバリシューに対する関心がありますか。

	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
(入学前)1年	13.7%	25.0%	42.6%	18.7%
(現在)1年	39.1%	30.3%	25.7%	4.9%
2年	36.4%	41.2%	17.6%	4.8%
3年	38.4%	41.2%	14.3%	6.1%

問17. グローバリシューに自分が関わりたいと思っていましたか。

	①絶対に関わりたい	②関わりたい	③あまり関わりたいくない	④関わりたいくない
(入学前)1年	8.5%	23.6%	48.9%	19.0%
(現在)1年	16.9%	34.2%	41.5%	7.4%
2年	13.6%	39.2%	37.2%	10.0%
3年	12.7%	42.0%	35.9%	9.4%

問17a. グローバリシューに自分が関わりたいと思った理由は何ですか。(複数回答可)

①他国で起こることは自分と関係があると感じた	②苦しむ人を救いたい	③世界平和に貢献したい	④自分の可能性を試したい
32.1%	37.8%	36.3%	12.3%

問18. 日本や世界の歴史に関心がありますか。

	①関心がある	②少し関心がある	③あまり関心がない	④全然関心がない
(入学前)1年	24.6%	26.1%	32.0%	17.3%
(現在)1年	32.0%	30.3%	29.6%	8.1%
2年	35.6%	32.0%	25.2%	7.2%
3年	38.0%	34.3%	19.6%	8.2%

問19. 身の回りで起こる問題に積極的に関わろうとする気持ちはありましたか。

	①ある	②少しある	③あまりない	④ない
(入学前)1年	13.4%	38.4%	38.4%	9.9%
(現在)1年	22.9%	46.8%	22.5%	7.7%
2年	25.6%	44.4%	24.4%	5.6%
3年	29.0%	43.7%	22.0%	5.3%

問19a. 身の回りで起こる問題に積極的に関わろうとする気持ちを持った理由は何ですか。(複数回答可)

①身近な問題が世界につながると感じたから	②まず行動することが大事だと思うから	③さまざまな体験をしたから (失敗や成功)	④人は助け合うことが大切と感じたから
34.0%	42.4%	24.0%	36.2%

問20. 他人のために献身的に働こうとする奉仕の気持ちはありますか。

	①ある	②少しある	③あまりない	④ない
(入学前)1年	37.0%	37.3%	18.3%	7.4%
(現在)1年	50.7%	34.2%	10.6%	4.6%
2年	56.4%	29.6%	11.6%	2.4%
3年	57.1%	30.2%	7.8%	4.9%

問20a. 他人のために献身的に働こうとする奉仕の気持ちを持った理由は何ですか。(複数回答可)

①人に支えてもらったことがあるから	②人は助け合うことが大切と感じたから	③心を合わせることが大切だから	④クラブや諸活動
54.4%	54.7%	29.2%	40.1%

問21. ディスカッション能力(対話力)は向上しましたか。

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	13.4%	47.9%	31.3%	7.4%
2年	24.0%	45.2%	25.6%	5.2%
3年	25.7%	44.9%	23.3%	6.1%

問21a. 次のどの場面で、ディスカッション能力(対話力)が向上したと感じますか。(複数回答可)

①GRIT	②学校行事	③授業	④クラブや班活動	⑤UP・LC
40.9%	36.4%	32.1%	34.1%	7.8%
⑥友人や先輩との話	⑦フィールドワーク			
28.5%	6.8%			

問22. 英語の全般的な能力は向上しましたか。

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	13.7%	37.3%	38.0%	10.9%
2年	20.8%	44.0%	26.8%	8.4%
3年	24.9%	49.4%	19.6%	6.1%

問23. 語学習得に挑戦したいという意欲は向上しましたか

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	35.9%	32.7%	23.6%	7.7%
2年	37.6%	36.8%	20.4%	5.2%
3年	48.2%	31.0%	14.7%	6.1%

問23a. 次のどの場面で、語学習得に挑戦したいという意欲は向上しましたか。(複数回答可)

①フィールドワーク	②Global Camp	③海外の方の講演	④海外の方と話して	⑤授業
12.3%	28.5%	21.7%	30.8%	45.9%
⑥友人や先輩の話	⑦UP・LC			
21.9%	11.2%			

問24. プレゼンテーション能力について(発表する表現力)は向上しましたか

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	13.0%	41.5%	34.5%	10.9%
2年	32.4%	40.4%	20.4%	6.8%
3年	28.2%	43.7%	20.8%	7.3%

問24a. 次のどのような場面で、プレゼンテーション能力(発表する表現力)が向上したと感じますか。(複数回答可)

①GRIT	②学校行事	③授業	④クラブや班活動	⑤UPやLC
51.2%	22.4%	38.2%	14.2%	6.5%
⑥友人や先輩との話	⑦フィールドワーク			
6.5%	6.9%			

問25. ICT（タブレット、PCなど）の活用力は向上しましたか。

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	32.4%	42.6%	19.4%	5.6%
2年	35.2%	38.8%	20.4%	5.6%
3年	39.6%	40.8%	15.1%	4.5%

問25a. 次のどのような場面で、ICT（タブレット、PCなど）の活用力が向上した理由は何ですか。（複数回答可）

①GRIT	②学校行事	③授業	④クラブや班活動	⑤UPやLC
46.5%	29.4%	55.6%	22.3%	9.2%
⑥友人や先輩との話	⑦フィールドワーク			
6.4%	7.8%			

問26. 自分と意見の違う人の話や考え方を認める力は向上しましたか。

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	24.3%	54.2%	16.5%	4.9%
2年	38.4%	45.6%	12.8%	3.2%
3年	38.4%	45.3%	11.8%	4.5%

問26a. 自分と意見の違う人の話や考え方を認める力が向上した理由は何ですか。（複数回答可）

①相手に対する共感性が増したから	②多様性を認める心が芽生えたから	③話を聞くことの大切さを知ったから	④答えは一つではないから	⑤さまざまな体験をしたから（失敗や成功）
35.1%	45.0%	45.1%	48.7%	29.7%
⑥協調性の必要性を学んだから				
30.8%				

問27. グループで活動するときにグループをまとめ課題を進める力は向上しましたか。

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	14.4%	38.0%	41.9%	5.6%
2年	24.8%	40.8%	28.4%	6.0%
3年	20.0%	49.8%	24.5%	5.7%

問27a. 次のどのような場面で、グループをまとめ課題を進める力が向上したと感じましたか。（複数回答可）

①GRIT	②学校行事	③授業	④クラブや班活動	⑤UP・LC
45.4%	28.1%	35.4%	23.2%	6.4%
⑥友人や先輩との話	⑦フィールドワーク			
9.5%	5.6%			

問28. 何か困難なことにぶつかったときに解決方法を探そうとする力は向上しましたか。

	①大変に向上した	②向上した	③あまり向上していない	④向上していない
1年	21.8%	51.4%	21.1%	5.6%
2年	31.2%	47.6%	16.4%	4.8%
3年	32.7%	48.2%	15.1%	4.1%

問28a. 何か困難なことにぶつかったときに解決方法を探そうとする力が向上した理由は何ですか。（複数回答可）

①さまざまな体験をしたから（失敗や成功）	②答えは一つではないから	③協力すれば道が開けることを知ったから	④先輩や仲間の姿を見て	⑤困難を乗り越えた時に大きな結果が出ると知った
51.8%	23.7%	27.9%	35.9%	32.3%
⑥努力と信念の大切さを知った				
33.6%				

問29. あなたはGRITに積極的に取り組みましたか

	①積極的	②ほぼ積極的	③ほぼ消極的	④消極的
1年	22.5%	54.2%	18.0%	5.3%
2年	36.8%	44.8%	14.4%	4.0%
3年	27.8%	55.5%	14.3%	2.4%

問30. GRITに取り組んだあなたのクラスを評価してください

	①積極的	②ほぼ積極的	③ほぼ消極的	④消極的
1年	26.8%	56.7%	13.4%	3.2%
2年	43.2%	47.2%	7.6%	2.0%
3年	34.3%	46.5%	14.3%	4.9%

問31. GRITのプログラムを全体で評価してください

	①大変によかった	②よかった	③よくなかった	④まったくよくなかった
1年	20.1%	64.8%	11.6%	3.5%
2年	26.8%	51.2%	14.8%	7.2%
3年	22.0%	61.6%	11.8%	4.5%

問32. GRITの内容に触発されることはありましたか

	①大変にあった	②あった	③あまりなかった	④まったくなかった
1年	27.5%	43.7%	23.6%	5.3%
2年	34.0%	46.4%	13.2%	6.4%
3年	25.7%	55.5%	11.4%	7.3%

問33. GRITでの友人の意見や姿に触発されることはありましたか

	①大変にあった	②あった	③あまりなかった	④まったくなかった
1年	24.3%	46.8%	23.6%	5.3%
2年	40.8%	38.8%	13.6%	6.8%
3年	31.0%	50.6%	13.1%	5.3%

問34. 今までのグローバルシチズンシップセミナーの内容に触発されることはありましたか

	①大変にあった	②あった	③あまりなかった	④まったくなかった
1年	22.2%	42.3%	27.1%	8.5%
2年	32.4%	36.0%	20.8%	10.8%
3年	37.6%	40.0%	14.7%	7.8%

問35. 今年度のグローバルシチズンシップセミナーの内容はよかったですか

	①大変によかった	②よかった	③よくなかった	④まったくよくなかった
1年	25.7%	57.4%	12.0%	4.9%
2年	32.4%	45.6%	14.0%	8.0%
3年	30.6%	52.7%	11.0%	5.7%

問36. GRITや本校のSGHの取り組みは、あなたの進路に影響があったと思いますか。

	①大いにあった	②あった	③あまりなかった	④まったくなかった
1年	15.1%	34.9%	31.7%	18.3%
2年	16.8%	24.8%	36.0%	22.4%
3年	22.4%	29.0%	32.7%	15.9%

問37. 大学を選ぶときに国際化に重点を置く大学への進学を希望します（しました）か

	①強く希望する	②希望する	③あまり希望しない	④希望しない
1年	36.6%	29.6%	19.0%	14.8%
2年	30.0%	29.6%	17.2%	23.2%
3年	41.2%	37.6%	10.2%	11.0%

問38. 海外大学（S U A含む）への進学、海外大学院（大学卒業後）への進学を希望しますか

	①強く希望する	②希望する	③あまり希望しない	④希望しない
1年	11.3%	10.9%	33.5%	44.4%
2年	11.2%	7.2%	24.4%	57.2%
3年	10.6%	15.5%	34.7%	39.2%

問39. GRITや本校のSGHの取り組みを通して、成長できたと思いますか

	①大いにできた	②できた	③あまりできなかった	④まったくできなかった
1年	23.9%	55.6%	14.8%	5.6%
2年	25.2%	46.8%	20.0%	8.0%
3年	27.8%	55.5%	11.4%	5.3%

問40. GRITや本校のSGHの取り組みはあなたの考え方や行動に影響をあたえましたか

	①大いにあった	②あった	③あまりなかった	④まったくなかった
1年	23.9%	47.9%	20.4%	7.7%
2年	25.6%	47.6%	15.6%	11.2%
3年	26.5%	53.1%	13.1%	7.3%

問41. 今年の創立者の平和提言は読みましたか

	①読んだ	②少し読んだ	③これから読む	④読まない
1年	50.7%	32.0%	10.2%	7.0%
2年	19.6%	30.0%	32.4%	18.0%
3年	32.2%	29.0%	22.4%	16.3%

問42. あなたの取得している英語技能検定は何級ですか

	①準1級以上	②2級	③準2級	④3級以下	⑤もっていない
1年	1.1%	26.8%	35.6%	26.4%	10.2%
2年	4.4%	36.4%	27.6%	20.8%	10.8%
3年	9.8%	46.5%	20.0%	15.1%	8.6%

問43. 入学してから今までに何回海外に渡航しましたか

	①0回	②1回	③2回	④3回	⑤4回以上
1年	83.1%	10.6%	2.8%	1.1%	2.5%
2年	81.2%	12.0%	4.0%	2.0%	0.8%
3年	76.7%	12.7%	5.3%	3.3%	2.0%

問44. GRITで培った力は何ですか。(複数回答可)

①リサーチ能力	②発表力	③交渉力	④仲間を思いやる気持ち	⑤行動力
58.2%	48.7%	26.4%	33.1%	47.3%
⑥真剣さ・情熱	⑦根性	⑧世界を俯瞰する力	⑨リーダーシップ	⑩使命感
31.3%	24.1%	19.5%	18.2%	29.5%
⑪共感力	⑫問題解決への創造力	⑬論理的思考	⑭クリティカルシンキング	
29.6%	44.9%	30.8%	25.0%	

生徒アンケート自由記述分（抜粋）

○環境問題について「どういう気持ちの変化があったか」また、それに伴い「自分の行動がどう変わったか」ということを教えてください。

- ・実際に大学で学びたいとこに繋がっている
- ・スマートフォンを、二年たったら買い換えようと思っていたけど、壊れるまで使おうと思った。
- ・クラスの別の班の発表を聞いて、自分たちの今の環境が充分過ぎると感じ、水があることや靴があること周りのことに感謝して、水など無駄に使わないように意識している。
- ・GRITの授業で、予想以上に環境問題が深刻であることを知り、学校の勉強のみでなく様々な範囲で知識を集めなければならないと思い、個人で本やインターネットでリサーチをした。

○開発について「どういう気持ちの変化があったか」また、それに伴い「自分の行動がどう変わったか」ということを教えてください。

- ・発展していくための順序やその難しさを学びたくなった。進路が変わった。
- ・フェアトレード商品を買うようになりました。
- ・開発に伴う、人権問題、環境問題の発生など、全ての問題は関連していることを知りました。特に開発は、そのことがはっきりと気付けます。ですから、何かある特定の問題を解決する際、あらゆる面からアプローチすることが不可欠であると学べました。ニュースでテロや震災を見ても、今まではその問題しか見えませんでした。がニュースでは言われてない問題までも、想像することができるようになりました。この想像力は、問題解決に大きな力を発揮すると感じています。

○人権問題について「どういう気持ちの変化があったか」また、それに伴い「自分の行動がどう変わったか」ということを教えてください。

- ・前は可哀想とか感情のみだったけど、授業などで話に触れていくことでどうしてそうなったのかなどが知りたいと思うようになった。
- ・女性差別や男性差別の現状を学んで、普段の何気ない言葉に気をつけるようになった
- ・このアンケートで最初に男と女を選ぶところがなぜその2択なのか疑問に思った
- ・世界では人種差別が根強くあり、苦しんでいる人が今この瞬間にもいるのだと思い、世界のことに目を向けられるようになった。それにともない、身近な人で人種差別的なことを言う人には注意するようになった。
- ・LCやGRITを通し、問題提起をしてから対策を練るまでの行程がいちばん困難なのが人権分野ではないかと感じた。なぜなら、人権問題の研究の最後に行き着くのは必ず“人間の行動・態度・考え方を変える”というものであり、具体的なシステム構築を提案しにくいからである。行動としては、他人の人格等を自分のバイアスだけで決めつけて勝手に批判することが、人権問題の第一歩につながるから、それをやめようと心掛けました。

○紛争・平和について「どういう気持ちの変化があったか」また、それに伴い「自分の行動がどう変わったか」ということを教えてください。

- ・紛争、戦争が絶対悪ということが心に刻み込まれた。戦争をして、本当に幸せになれる人は誰もいないことを学んだ。テレビでも日本の軍事に関して、政策に対して疑問を抱くようになった。
- ・今自分が危険を感じず生きていることの有り難みを知り、将来平和活動に参加できるように英語を勉強しようと決意した
- ・戦争で苦しむ子供たちの支援活動など服や文房具を送るといった日本にいながら参加できる活動に興味を持った。
- ・紛争のことを前よりも知って世界は思ってるほど平和じゃないと思った。日常が大切だなと思うようになった。

○食糧問題について「どういう気持ちの変化があったか」また、それに伴い「自分の行動がどう変わったか」ということを教えてください。

・世界の人々が食べていける十分な食糧があるのにもかかわらず、届ききっていないことを学びました。また、日本などの先進国では簡単に食糧を捨てていますが、そのことに対して、強い懸念を抱くようになりました。

- ・どうすればゼロハンガーを目指せるか色々な国の立場になって考えるようになった
- ・自分の食べる量を前よりも考えて買い物し、無駄のないようにした。

○核兵器廃絶について「どういう気持ちの変化があったか」また、それに伴い「自分の行動がどう変わったか」ということを教えてください。

・核兵器はただなくなればいいのではなく、世界の人の核兵器に対する考え方から変えていかなければならないんだと感じました。

・アメリカで原子爆弾は正しかったと思っている人が多くいる事を懸念に思い、唯一の被爆国として、被爆者の方々の話を受け継いでいかなければならない。

・どのような問題も核廃絶に繋がっていることを知り、核という一見重く感じる問題への意識が変化した

・17年は、NBTという歴史的な条約の採択があり、自分もこの問題について学ばないと世界から置いていかれるなー、という気持ちの変化がありました。行動については特に変わっていませんが、家族と話したりリサーチしたりしてます。

○国際的な合意形成の難しさはどこにあると思いますか

- ・互いを尊重ないし尊敬していこうという意識の欠落。またその土台となるべき思想が浸透していない
- ・一人一人考えていること、理解力、共感力、国の背景などがバラバラであること。自国のこと自国の利益のみ考えて行動する国が多数いること。一人一人賢くないと頭のいい人に振り回されること。など
- ・”各国にはいろいろな考え方があって、それぞれの国が自分流の国の考え方が正しいと思っていること。だから、話し合いをしても全員が納得する答えを得られにくいこと。どの国も自国の利益を優先しようとするから、全会一致ができにくい。”

○世界の平和について「どういう気持ちの変化があったか」また、それに伴い「自分の行動がどう変わったか」ということを教えてください。

- ・感情精神からくる争いが絶対的に多い気がするから内側から優しい気持ちになれるように
- ・前までは、自分1人の行動で世界の平和に貢献できると思ってなかったが、今では、少しでも、なにか出来ることがあるかもしれないと考えるようになった。
- ・GRITなどで学んだり、友達の話聞くうちに、自分も世界平和に貢献できる人材に成長出来たら良いなと思うようになって、進路について真剣に考えるようになった。
- ・まだ教育を受けることが出来ない子供たちに教育機関を充実させ、たくさんの子供たちが夢と希望を持てる教育者になりたいと自分の第2の夢ができた。

○グローバルイシューについて「どういう気持ちの変化があったか」また、それに伴い「自分の行動がどう変わったか」ということを教えてください。

- ・英語を学ぼうと思った
- ・世界の問題は自分が考えて改善させる努力をしないと絶対前に進まないと思った。
- ・起こる原因はどれも似通っていると思うようになった
- ・身近なことから手間がかかっても行動を改めていこうと思った。
- ・SDGSを学習するようになった

関西創価高校SGH GRIT教員アンケート結果

問1. 本校のGRITプログラムは、国連が提起する地球的課題の探究に取り組む内容になっていますか

①大変によくできている	②よくできている	③あまりよくできていない	④全然よくできていない
73.5%	26.5%	0.0%	0.0%

問2. 本校のGRITプログラムは、「生徒自ら地球的課題に挑み、解決する『使命感』を向上させるプログラムの取り組みになっていますか

①大変によくできている	②よくできている	③あまりよくできていない	④全然よくできていない
64.7%	35.3%	0.0%	0.0%

問3. 本校のGRITプログラムは、「世界の現状を知り、苦しみを分かち合う『共感力』向上させるプログラムの取り組みになっていますか

①大変によくできている	②よくできている	③あまりよくできていない	④全然よくできていない
58.8%	41.2%	0.0%	0.0%

問4. 本校のGRITプログラムは、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての 問題解決への創造力を向上させるプログラムの取り組みになっていますか

①大変によくできている	②よくできている	③あまりよくできていない	④全然よくできていない
58.8%	41.2%	0.0%	0.0%

問5. 本校のGRITプログラムは生徒に良い影響を与えたと思いますか

①大いに与えた	②与えた	③あまり与えていない	④与えていない
82.4%	17.6%	0.0%	0.0%

問6. あなたは本校のグローバルシチズンシップの内容が生徒に良い影響を与えたと思いますか(内容を評価しますか)

①大いに与えた	②与えた	③あまり与えていない	④与えていない
67.6%	32.4%	0.0%	0.0%

問7. 本校がSGHとなって、生徒のICTの取り組みが進んだと思いますか

①大変に進んだ	②進んだ	③変わらない	④後退した
61.8%	29.4%	8.8%	0.0%

問8. あなたは本校のLC(ラーニングクラスター)の内容が生徒に良い影響を与えたと思いますか

①大いに与えた	②与えた	③あまり与えていない	④与えていない
67.6%	32.4%	0.0%	0.0%

問9. あなたは本校のUP(ユニバーシティ・パートナーシップ)クラスの内容が生徒に良い影響を与えたと思いますか

①大いに与えた	②与えた	③あまり与えていない	④与えていない
67.6%	32.4%	0.0%	0.0%

問10. あなたは教員として本校のSGHプログラムに協力的でしたか

①大変に協力的	②協力的	③あまり協力的でない	④全然協力的でない
35.3%	61.8%	2.9%	0.0%

問11. 教員としてGRIT(SGH)の内容に触発されることはありましたか

①大変に触発を受けた	②触発を受けた	③あまり触発されなかった	④触発されなかった
58.8%	41.2%	0.0%	0.0%

問11a. どのような内容で触発を受けましたか?(複数回答可)

①GRIT	②FW	③UP	④LC
61.8%	52.9%	55.9%	32.4%
⑤グローバルチンシップセミナー	⑥模擬国連	⑦生徒プレゼン	
58.8%	50.0%	50.0%	

問12. 教員としてGRIT (SGH) での生徒の意見や姿に触発を受けましたか

①大変に触発を受けた	②触発を受けた	③あまり触発されなかった	④触発されなかった
44.1%	52.9%	2.9%	0.0%

問12a. どのような内容で触発を受けましたか?(複数回答可)

①GRIT	②FW	③UP	④LC
64.7%	58.8%	29.4%	35.3%
⑤グローバルチンシップセミナー	⑥模擬国連	⑦生徒プレゼン	
38.2%	55.9%	55.9%	

問13. GRITや本校のSGHの取り組みはあなたの教師(職員)としての考え方や行動に影響をあたえましたか

①大いに与えた	②与えた	③あまり与えていない	④与えていない
55.9%	41.2%	2.9%	0.0%

問14. 自分の授業でアクティブラーニングの要素を取り入れましたか

①ほぼ毎回	②週に1～2回以上	③学期に数回	④実施していない
26.5%	23.5%	47.1%	2.9%

問15. 自分の授業に探究学習の要素を取り入れましたか

①ほぼ毎回	②週に1～2回以上	③学期に数回	④実施していない
5.9%	14.7%	52.9%	26.5%

問16. SGHの諸活動は、自分の授業や生徒に対する指導法・内容に影響を与えましたか

①大いに与えた	②与えた	③あまり与えていない	④与えていない
32.4%	64.7%	2.9%	0.0%

教員アンケート自由記述分（抜粋）

○本校のSGHプログラムに関して「どういう気持ちの変化があったか」また、それに伴い「自分の行動がどう変わったか」ということを教えてください。

- ・GRITの内容は教科横断型の知識を生徒たちに与え、思考力・判断力・表現力を大いに刺激する機会ばかりでした。私自身もそのような授業を展開するべく、生徒たちに実生活でも使える知識・技能、世界市民として成長できる刺激を与えていきたいと決意しています。
- ・授業に対して、生徒の意識、視点、主体性などが鋭くなっていることを感じており、授業内容の充実や生徒のモチベーションを上げるための工夫を考えながら、授業準備、アドバイス等を更に意識してするようになった。
- ・単なる知識の詰め込みの授業からの脱皮を図って、生徒一人ひとりが主体となって・歴史的な出来事を分析する・各影響力の力関係を把握する・歴史的な出来事から未来の変化を予測する事に取り組めるよう心がけた。

○GRIT（SGH）の内容に触発され「どういう気持ちの変化があったか」また、それに伴い「自分の行動がどう変わったか」ということを教えてください。

- ・さまざまなSGHプログラムに対し、ICTを活用する生徒を見て、ICTを最大限に活かせる協働作業、プレゼンテーションの方法を研究した。
- ・高いレベルの課題を与えられたとき生徒はどこまでも伸びていくという無限の可能性の再確認
- ・生徒が真剣に取り組む姿を見て、それに応えられる教師でありたいと思い、地球的課題の研究を寄り真剣にするようになった。

○GRIT（SGH）の生徒の意見や姿に触発され「どういう気持ちの変化があったか」また、それに伴い「自分の行動がどう変わったか」ということを教えてください。

- ・普段の授業では得ることができない知識を自主的に探究したり、より深く学ぶための経験や、より広い視野やより細かい視点で学習し、次への課題を見つけ出し、対策を考え、討論することや、伝達・プレゼンすることで、大学や社会人になったときに役立つ経験ができていると思う
- ・難しい内容に対して正面から取り組み、どのような解決があるかを真剣に考える姿はすごいとしか言いようがない。自分自身の考えに無いようなものを提示されたら、本当に感心する。

○GRITや本校のSGHの取り組みを受け、具体的に起こした行動を教えてください。

- ・国際的な問題を多く授業に取り入れ、グループ探求などに時間を使うようになりました。また自身も敏感にアンテナをはるようになりました。
- ・GRITやSGHの取り組みで目標とされる力を効果的につけさせるための、直接教室で生徒に関わる指導者としての教授法を体系化確立しなければならないと思うようになった。
- ・節水と節電

○SGHの取り組みについて通じて感じたことを書いてください。

- ・多くの生徒がSGH校としての誇りを持ち、授業に、色んな課題に取り組んでくれている。生徒が伸びてきているのを感じます。
- ・急速に変化していっているので、振り返りが大切だと思います。持続可能なSGHの取り組みについて考える時期が来ていると思います。
- ・意欲的に取り組む生徒にとってはかなりの充実したプログラムであることは間違いないと思う。しかし、フィールドワークやラーニングクラスターなどメンバーが限られるものに関してはその情報共有が課題だと感じた。せっかく素晴らしい取り組みをしても周囲には（少なくとも私には）始業式での報告などの短い時間では十分に伝わっていないと感じた。自分がフィールドワークに行って初めてこんなに

深い学びをしていることを知ったので他のフィールドワークでの学びがそこまで伝わらなかったことをより一層感じた。

- ・資料収集や、情報のまとめ方、レポートの書き方など基本的なことをしっかり教えると良いと思う。
- ・教師が変われば生徒が変わる。生徒が変われば学校が変わるということを、理論ではなく、実際に実現できていることにとても驚いている。
- ・SGHの取り組みが充実すればするほど、諸活動との兼ね合いに関して顧問としても悩む。FWなどの準備期間はクラブにとっても大事な時期が多い。LCやFWの活動優先なのは理解しているつもりだが、1日の活動時間のなかでも何時から何時までとくくりを設けたり、両立できる体勢を考えていただきたい。優秀なメンバーはクラブにおいても必要な優秀なメンバーであることが多い。
- ・担任が専門外のことにとりくまなければいけないので大変
- ・SGHの取り組みのおかげで、生徒が国際的な視野を身につけ、大きく成長する機会を得られたと思う。学校として新たなカリキュラムを作成しようという情熱が広く共有されており、生徒・教師共に素晴らしい触発の環境であると思う。

○GRITの影響について感じたことを書いてください。

- ・生徒の進路にまでよい影響を与えている。
- ・GRITでのディスカッションが、お互いを知り、関係を深め合うことにもやくだちスムーズなクラス運営やいい人間関係の構築につながっている。また、その取り組みが授業の共同研究や共同学習にも大いに役立っている。
- ・「何のために学ぶのか」という精神を多くの生徒に意識させ、経験させたことが、生徒にとっても、学校にとっても大きな財産となったと感じました。
- ・高校3年生は1年生からGRITに取り組んでいるため、探究学習に対して、自主的、積極的に取り組む姿勢がとても強いと感じます。自分で調べ、自分で学ぶ姿勢が培われていること自体が素晴らしいと思います。
- ・GRITの存在が生徒にとっては自然になってきつつあると思う。自然とグローバルイシューについて考える流れになっており、世間的な高校生から考えると信じられない程だと思う。生徒の学ぶ意欲に応えられるような授業を心がけたいと思う。
- ・模擬国連を学年全体でできることがすごい
- ・友人と協力して世界の諸問題を考えたり、対話したりすることは、相互により影響を与え合うと感じました。また、高校生の時から世界平和という大きな目的観を持って学びを進めることは、その後の人生を本当の意味で豊かにしていくことができると実感しています。

○GRITの運営について感じたことを書いてください。

- ・予め丁寧に担任に説明や予めのリハがあれば皆安心して進められると思う。
 - ・学校、SGH委員会メンバーの努力と熱意と工夫があったこそ、難しいと感じていた全校生徒で取り組むとの挑戦をクリアすることができたと強く感じています。
 - ・特に生徒プレゼンでは意識格差が大きく、頑張っている生徒には時間は足らず、あまり積極的でない生徒にはすることがないというような状態になっている様子。担任の指導力が必要だとは思いますが、なかなか注意してどうなるものでもないように感じる。
- また、生徒も教員も負担が大きいのは今に始まったことではないが、なんとか精査して改善できないかと思う。
- ・教室で生徒に直接関わる教師がやりがいと意欲をもって当たれるようにして欲しい。教材選択、研究、計画、教授法、具体的指導案まで関わられるようにして欲しい。

2017 年度第 1 回 SGH 運営指導委員会

日時：2017 年 6 月 19 日（月）10:20～11:20、12:00～13:00

会場：理事室

参加者：

＜運営指導委員＞ 梶田叡一 奈良学園大学前学長・米田伸次 日本ユネスコ協会連盟理事
・朝野富三 宝塚大学特任教授

＜関西創価高校＞ 中西校長・梶田副校長・本房教頭・大月教頭・千葉総合寮長
・小山 SGH 委員長・井上 SGH 副委員長

＜管理機関代表＞ 杉本規彦創価教育副センター長・狩野俊一創価教育センター参事

議事録：

——— S G Hの取り組みの説明（「SGH 関西創価の TRY 7」より）

- ・海外フィールドワークについて
- ・海外の名門大学に合格した生徒について
- ・国内フィールドワークについて
 - ①広島 FW：核兵器廃絶の署名に取り組んだこと
 - ②LC 東京 FW：今年のはじめて IAEA に行く予定
 - ③東北 FW：ボランティアに参加し、地元でも大きな話題になっていること
- ・国際大会への出場について
- ・英検について…合格者の増加の様子
- ・生徒全員にタブレット貸与（BYOD も含）…リクルートのスタディサプリを利用可に

——— 今年度の取り組みの予定や昨年度の分析

- ・今夏のフィールドワークの予定について
- ・UP の話題について
- ・特別講座（日本政策金融公庫から出張授業）について
交野発のビジネスを考える、高校生ビジネスプラン・グランプリに出場を目指す
- ・2016 年度 SGH の取り組みについて（成果集からの抜粋）
成果と分析、生徒のアンケート結果、教員のアンケート結果

○ SGH 三年目の目玉は何か。

——— 交野発の取り組みを始めたい。ユネスコスクールの認定を受けたので、ユネスコスクールとしての活動も始めたいと思っている。模擬国連については、昨年度は貧困を解決するための食糧問題について取り組んだ。今年度は、昨年度を踏まえて、「食糧の流通」をテーマに取り組む予定である。

○ 教員のアンケート結果（昨年度）を見て、きれい事になっていないところがいいと思う。10%の人が協力的でなかったというのがよい。これが大事だ。たくさんのことに取り組んでいる。この中から

何が一番印象に残ったかをきちんと聞いておくこと。生徒の将来・人生にどう影響するか。これを学校として掴んでおく必要がある。多様なことをやっていることはよい。その中で何が核になっているか。ユネスコスクールを始めるのはよい。その上で「フィールド」を絞ることが大事。例えば、カンボジア等。アメリカやヨーロッパではないこと。アジアが大事。いろいろな角度から学ばせること。ユネスコの活動の対象としては、アジアの貧困・格差などを研究対象にした方がよい。2～3週間、現地に行くこと。学校を訪問。互いに行き来して知り合う。模擬国連で議論したことが、ユネスコスクールの活動に生きてくる。

——— 東北FWで交流した仙台二華高校は、メコン川流域を研究対象にしている。先輩・後輩のつながりで、この研究が伝統になっている。本校もようやく先輩から後輩へと論文を残していくなどの取り組みが始まった。

○ ユネスコスクールの認定がなされ、国際的な活動に参加することになる。今年のチャレンジに感服した。成果報告集（昨年度）を再読した。多彩な実践をしている。全国的にも高いレベルの活動を行っている。よかったという評価の上で、2016年度の活動をしっかり総括すべきである。ESDの取り組みは、世界で広く行われている。関西創価高校でも模索を。関西創価高校の取り組みは、グッドプラクティスだ。ただし、全体的な取り組みとしては弱い。SGHの取り組みが、学校の教育にどれだけ大きな変革をもたらしたか。学校の理念を再度問い直しながら、取り組むこと。教育理念・育成目標・生徒像の部分では弱い。関西創価高校は、よく頑張っていると思うが、その上で、グローバルイシューを地域の課題とどうつなげるか。地域を踏まえてグローバルな課題にどう発展させるか。今年は、交野を踏まえて行うとのこと、これはいい。これまで学びを学校だけに閉じ込めていた。これを外へと学びのフィールドを広げることが大事。外へ行くことで出会いがあり、学びの領域が広がる。他校もこの部分が弱い。関西創価高校の今年の取り組みの方向性はよいと思う。教育は、子どもがどう変わったか。これがないと教育ではない。価値観を変えること。生徒の価値観を変える取り組みこそ教育。その実践・取り組みに対する評価や総括が弱いと思う。グローバルリーダーの育成とは、国際的に活動できる日本人の育成。グローバル化に対応した日本人の育成。ESDは持続可能な社会・未来作りを創造していく人間の育成を目指している。世界市民教育である。SGHとユネスコスクールをマッチングさせていくことが大切。これからの関西創価高校に期待している。学校の方針と重ねながら、上記の課題に取り組む。日本の教育に対する問題提起であって欲しい。世界市民の育成は、ESDの狙いでもある。世界市民の育成というが、世界市民とは何か、どうとらえるか。ESDでは、世界市民教育と呼んでいいようになっている。関西創価高校の取り組みに期待している。

——— 3人の先生方に支えていただき、感謝している。また、多くの先行する学校の取り組みを紹介していただき、参考にさせていただいている。先生方の指導で新聞への関心も高まった。

○ 最近では、新聞をとっていない家庭の割合が増加した。生徒たちは、新聞をあまり読まない。学校で教える必要がある。

——— 取り組みを行った上で、それをどう振り返るか。日常の活動にどうフィードバックさせるかが、大事になってくる。それが、核になる。問題解決や探究の取り組みは、生徒だけではなく、教師にも大

きな影響を与えている。教師に大きな気づきをもたらしている。生徒からの要求もさらにレベルアップしてくる。これに応えるためには、教師が成長していかないといけない。諸問題解決に目を向けるということは、教師の人間としての生き方も問われている。3年目ということで、足元を固めることが大事と思う。

—— 海外フィールドワークの引率をして、さらに多くの生徒を押し出していく取り組みをしていくべきと感じた。ピラミッドの頂点だけではいけない。これまでの創価教育におけるグローバルリーダーの育成の取り組みもしっかり見直し、再評価していくことが大切である。

○ 一つ一つが意欲的だ。逆に意欲的でない活動があってもよい。よくできる生徒はさらに上を目指せばいい。そうでない人もグローバル社会で生きていくことに慣れることだ。臆せず生活していくことができるように。全員をどのように育てるか。一律でなくてもよい。

—— 気仙沼高校とも交流したいと考えている。

○ 東北全体がようやく活気づいてきた。教育力が向上している。

—— なぜそうなったのか。

○ 派手さはない。地味な授業。経済的にも厳しい。しかし学力は高い。なぜか。生真面目でひたむきに取り組む姿勢がある。

—— 学力調査で東北の成績が高いとの評判がある。

○ ESDの取り組みも東北は盛んである。気仙沼もその一つ。一生懸命に取り組んでくれている。ユネスコスクールは世界につながっている。世界への視野を広げてくれる。同時に足元を固める取り組みでもある。

—— アメリカ創価大学でブラジル創価学園と中学生が交流している。同じ創価学園ということですからなじむ。すごい刺激になっている。

○ 天正遣欧少年使節の記念事業でバチカンに生徒を派遣した。行っただけでグローバルになった気持ちになる。体験させることが大切である。

—— 現在、創価学園の中学校がアメリカ創価大学に東西10名ずつ派遣している。英語の学力基準はあるが、最後はくじ引きで決める。学力だけで選抜しているのではない。

○ グローバルやインターナショナルという言葉には夢がある。

—— ブラジル創価学園の高等部は、国際バカロレア校になっている。交流ができれば嬉しいと思っ

ている。

○ 国際バカロレアを出れば、進学できる大学が広がる。千里国際高校の設立に際しても関わった。千里には、インターナショナルスクールもある。渋谷教育学園渋谷中学高校は、国際バカロレアを超えた教育を行っている。見に行くべきだ。もはや東大進学ではないと言っている。参考になると思う。

○ 先生方がついて来られるプログラムを作ること。過度な負担にならないように。ここまでできた。今度はここからどうやって手を抜いて効果を上げるか。これが長続きできるコツである。

—— GRITの流れはできたと思うので、今度は、各教科の授業の中でどれだけ探究型の内容を実施できるかが課題である。

○ 長続きさせることが大きな課題。カリキュラムマネジメントが大事。やり出したら教育は果てがない。良い意味で、どこかで手を抜かないといけない。

○ 2014年にユネスコスクールのグッドプラクティスを80校選んでサマリーを作成した。参考になれば嬉しい。SDGsの最も優れたハンドブックもある。参考になれば。英語パフォーマンス甲子園に参加できればよいと思う。SDGsは日本の教育のうねりになっていく。そこで、SDGs高校生実践甲子園をつくる予定である。高校生が自分たちでSDGs17の目標について、グローバルイシューについて、グループで研究に取り組み深めて甲子園に出す。新しい若者の自主的・自発的な研究の取り組み、つながりを燎原の火のごとく全国に広めたい。SDGs17の目標（159の項目）をまとめた共通のコンセプトがある。それは、だれも置き去りにしないということ。戦後のユネスコ憲章の中には、心の中に平和の砦をつくるとあるが、これは抽象的な表現である。このことは、私としては生命の尊厳だと思う。戦後70年の歩みの中で人類が積み上げてきた「生命の尊厳」というコンセプトを高校生がこのような活動をする中で、皆で共有していってもらいたい。そのような運動を起こそうというのが、私の夢である。

—— SDGs高校生甲子園ができれば、本校は全生徒が参加したいと思うと思う。

○ すぐにお知らせする。是非、協力してもらいたい。

—— 英語パフォーマンス甲子園の方は、何をどうしたらいいのかわからないところがある。

○ 英語パフォーマンス甲子園には、3つのキーワードがある。英語、パフォーマンス、日本の文化。日本の文化を英語とパフォーマンスで紹介するというのが、狙い。説明会もあった。しかし、わかりにくい点もあり、私もそこが大きな課題であると思う。

—— パフォーマーが英語を使うのか、英語をやりたいという生徒が新たに何かをするのか。本校には、日本文化といえば箏曲、和太鼓、パフォーマンスではダンス部がある。どのようにフュージョンすればよいかと思案している。

○ 素晴らしい実践を積み上げていると申しあげたい。その上で、報告書の中で生徒の変容をもう少し掘り下げた方がよいと思う。そのためには、設問項目の工夫をする必要があると考える。御校の大きな教育の目標は、世界市民の育成。世界市民とは何か。3つのキーワード、使命感・共感力・問題解決の創造力を強調している。それが、子どもたちの中にどのように根付いたのかを追求し切れていない。これがポイントになる。報告書の成果と分析の箇所。SDGsを子ども達がどう理解したかという分析と生徒がどのように変容したのかという分析が必要。SDGsは設問1、生徒の変容は設問14、17、20、21、40。SDGsの項目を設問1としたのは、SDGsを非常に重視しているからだと思う。御校はSGHの学びの内容として、「環境・開発・人権・平和」を挙げている。これはとても重要なポイントを挙げていると思う。当校は、GRITの中でSDGsを扱っている。SDGsについて知っていましたかと知っていますかとの2つの問いかけになっている。現在の時点の数で入学後の学びの後、知っているが60%、知らないが40%と回答。知らないという生徒が40%もいるということをどのように読み取るか。何故なのか。また、SDGsを知っていますかとの問いで、質問者は何を期待しているのか。何を知るとSDGsを知っていることになるのか。この問いかけがあいまい。問いかけと答えの分析が課題であると思う。GRITの開発のところで、SDGsを扱っている。SDGsは開発だけではない。開発の分野だけにSDGsを閉じ込めてしまっているのではないか。SDGsを学ぶ位置が問題。17の目標を全部つないで総合的に取り扱って学んでいくのがSDGsである。開発のところだけで取り上げてよいのか。ワークショップで取り上げていて、その中で生徒たちは何とかわかったつもりになっていたが、本当は、SDGsそのものをあまりわかっていない。御校の4つの学習内容を学びの入口としても、その学びの中で、どのようにつないでとりあげていくかが課題となる。その意味でSDGs学習は、あまり深まっていない。17の目標は、持続可能な社会をつくるためのもの、そのような人づくりがESDなのである。持続可能な社会を作っていくことがESDである。SDGsに取り組んでいることで実はやっている。SDGsの学び、誰も置き去りにしない。他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしないという教育理念は共通。SDGsの学びを通して、学園の教育理念をより深める。学校の誇りを持って取り組むということなのに、SGHの取り組みからここが見えてこない。世界市民のキーワードをもっと突っ込んで聞くべきだ。アンケートの問20・21等、使命感と共感力を問う設問がない。知的な学びが多いが、使命感・共感力の学びがどうなったかはわからない。いや低い。ドローレポートにも書かれているが、学びには二つある。どう生きるか。私としては、使命感・共感力の学びをもっと高くして欲しい。設問17のグローバルイシューに関わりたいという生徒が60%もいる。ここから見れば、使命感・共感力はちゃんと出ている。その他との分析でズレが生じている。せっかくいい教育をしているのに、ここだけを見れば、ズレが出ている。きちんと評価できていない。生徒は自覚できていないのではないか。矛盾なくすくい取ることができるようなアンケートをとって欲しい。同時にしっかりした分析をお願いしたい。問題解決の創造力と言われてもわからない。生徒にはわからない。大人でも難しい。ついたと思っていても行動力が弱い。何で行動力につながっていないのか。つながってはじめて問題解決の創造力がついたといえる。これを分析して欲しい。グローバルイシューの解決に関わりたいという評価は、高い評価なのに他と結びついていない。分析できていない。総括できていない。何を考えれば総括になるのか。現代の若者は、7~8割がボランティアをやっている。学園生はどうか。SGHの指導の前提としての課題だ。世界市民の育成。世界市民をどうとらえるか。少なくとも世界市民育成がどれだけ共通認識されているかが、総括のポイント。グローバルイシューに関わりたくない生徒33%これをどう見るか。ここを分析せずして総括はない。理由があるはず。理由を聞いていない。このような問題を含めてどう考えるか。何を総括すれば総括になるのか。生徒の変容は、

何を問いかねれば見えるのか。生徒の自己評価ができるのか。生徒に問いかねることが学びの場だ。アンケートこそ「振り返り」であり、生徒の学びの場であるはず。

—— アンケートの内容をずいぶん検討したつもりだったが、まだまだとわかった。

○ 一朝一夕でできるものではない。よく頑張っているが、もう一工夫を。アンケートは、生徒たちがもう一度自分を見つめる場であるべきだ。

—— アンケートに対する意識を高める必要があると感じた。また、アンケートを実施するタイミングももっと考えてやるべきだったと思う。

○ ユネスコスクールを考えすぎる必要はない。学園は充分にやっている。報告の量もそんなに多くはない。リラックスして取り組んで欲しい。日本国中のユネスコスクールで問題になっていることは、ESDの視点で、どういう子どもを育てていくのかということ。何のためにユネスコスクールの活動に取り組むのか、その点があいまいだ。学びをつなげること。つながり（生徒同士、生徒と教員、学校と地域も）が、ユネスコスクールの良いところである。しっかりとした学習計画を立てて欲しい。学園の取り組みは、素晴らしい。SDGsの学習をどうするか。生命の尊厳という学園の教育理念をもう一度問い直すこと。誇りを持って行うこと。

○ 共感力とは何か。SGHで学習すると、生徒は俯瞰的に見てしまう。もっと低い視線、当事者と同じ目線でないといけな。広島フィールドワークを見て、定番と言えば定番。「この世界の片隅で」がヒットした理由は、若い女性の生き様をさりげなく取り上げたところ、日常性の中にまで戦争の話題を落とし込んだところにある。身近なところと大きなテーマをいかに結びつけるか。共感力の有り様、身体化・血肉化をどうするか。一人も不幸にしないとあるが、どうやるのか。アンケートの中では、ついて来られていない人もいることがわかる。その人たちをどうフォローするか。なぜそうなのか、分析も必要。価値観が均一化されているかもしれないが、そこをどう見ていくか。違う価値観を持つ人たちとの交流を行うべきだ。交野を基盤にして違う価値観を持つ人たちとの交流の場を持って欲しい。

○ 私が変わらないと世界は変わらない。私をどう変えるか。子どもが変われば学校が変わる。教員が変わる。地域が変わる。色々な考え方があると知ることが自己発見につながる。

—— 学園はまだまだ井の中の蛙でもあり、今日のお話は、大変勉強になった。今後ともよろしくお願いしたい。

2017 年度 関西創価高等学校

スーパーグローバルハイスクール中間研究発表会

【日 時】 2017年11月11日（土）10時30分～15時00分

【会 場】 関西創価高等学校
〒576-0063 大阪府交野市寺 3-20-1
TEL 072-891-0011 FAX 072-891-0015

【研究開発構想名】

「TRY 人の郷・交野から平和の創造に挑戦する
グローバルリーダー育成プログラム」

【発表会の内容】

10:00	10:30	10:35		12:10	12:20	13:10
受付	校長挨拶	SGH プログラム GRIT 公開 模擬国連（3年生全員）			昼食	
(同窓会館 3 階)		(講堂)			(同窓会館 3 階)	
13:15	13:25	14:00	14:30	14:35	14:55	15:00
取組紹介	模擬国連の取り組み アクティブラーニング の取り組み	SGH 活動各種報告 ① 世界津波サミット ② 核不拡散教育会議 ③ Learning Cluster	休憩	講評	挨拶	
(同 窓 会 館 3 階)						

【配布資料一覧】

1. 研究発表会内容（本資料）
2. GRIT 報告
3. UP 報告
4. Learning Cluster 報告
5. GRIT 資料（模擬国連）
6. TRY 7
7. NEWS WEEK（抜刷）
8. キャンパスガイド
9. アンケート
10. ノート
11. シャープペンシル

【校長挨拶】(10:30 ～10:35 講堂)

【SGH プログラム GRIT 公開】(10:35 ～12:10 講堂)

GRIT とは、全校生徒を対象とした探究型総合学習プログラムのことで、毎月 2 回の土曜登校日に実施しています。「Global Research and Inquiry Time (地球的課題の調査と探究の時間)」の略称で、「根性・負けじ魂」という意味もあります。「環境」「開発」「人権」「平和」をテーマに掲げ、地球的課題の問題解決にグループで取り組む学習や、各界で活躍する講師によるセミナーを開催しています。常に自分の意見を持ち、ディスカッションを通して解決方法を探ることで、知識の習得だけではなく、積極性、主体性を育み、生徒同士の意識を向上させ、グローバルリーダーとしての使命感を高めていきます。

今回は、この GRIT の授業公開として、3 年生全員による**模擬国連**の模様を参観していただきます。昨年度は「飢餓の終息に向けた農業分野での国際協力」をテーマとしましたが、本年はその上に、「流通」を取り上げ、議論します。

< 模擬国連の概要 >

議 題：『ゼロハンガーを目指す 食料流通システムの構築』

参加国：92 カ国（3 年生 8 クラス 350 名を 92 のグループに分け、それぞれのグループに国を割り当てています。）

進 行：10:35～10:40 前時の模様を DVD にまとめ放映

10:40～11:10 各国の決議案に対する討議（ロビー活動）

11:10～11:20 各国で再立案

11:20～12:00 再立案提出及び討議

12:00～12:10 決議

【昼食】(12:20 ～13:10 同窓会館 3 階 IKEDAHALL 以下、会場同じ)

事前に学校のお弁当を申し込まれた方は、当日、受付にて 500 円をお支払いください。食券をお渡しします。お弁当は、12 時 15 分以降に、受付にて食券と引き換えにお渡しさせていただきます。

【生徒によるポスターセッション】(12:40 ～13:10)

お昼休みに、生徒によるポスターセッションを実施します。

- ①広島フィールドワーク報告
- ②海外フィールドワーク報告
- ③東京フィールドワーク報告（掲示のみ）
- ④東北フィールドワーク報告（掲示のみ）

【本校の取り組みについて】(13:15 ～13:25)

校長より、本校の SGH の取り組みについて紹介させていただきます。
全ての課題研究推進の土台としての Active Learning を全教科の授業に導入し、①GRIT（全校生徒を対象とした探究型総合学習プログラム）、②SP（希望者による放課後の特別授業プログラム）、③Leaning Cluster（2・3年生の希望者から選抜されたメンバーが英語で地球的課題に取り組むプログラム）という3つの SGH プログラムを実施しています。また、GRIT 等で学び、研究した内容を深めるためのフィールドワーク（FW）も国内と海外で行っています。

【模擬国連の取り組み・アクティブラーニングの取り組み】(13:25 ～14:00)

◇今回の模擬国連の取り組みについて、生徒がプレゼンテーションを行います。
◇地歴・公民科におけるアクティブラーニングの取り組みについて、本校教諭から報告します。

【SGH 活動報告】(14:00 ～14:30)

- ① 11/7～8 沖縄で開催された『『世界津波の日』2017 高校生島サミット』における本校生徒の取り組みを報告します。
- ② 4/1～5 長崎で行われた「日米露3国の高校生による核不拡散教育会議（CIF）」における本校生徒の取り組みを報告します。
- ③ Learning Cluster の取り組みを報告します。

【講評】(14:35 ～14:55)

本校 SGH 運営指導委員である米田伸次先生（日本ユネスコ協会連盟理事）にご講評をいただきます。

【挨拶】(14:55 ～15:00)

2017 年度第 2 回 SGH 運営指導委員会

日時：2017 年 11 月 11 日（土）15:15～15:40

会場：同窓会館会議室

参加者：

＜運営指導委員＞ 米田伸次 日本ユネスコ協会連盟理事・朝野富三 宝塚大学特任教授

＜関西創価高校＞ 武田学園長・中西校長・榊田副校長・千葉総合寮長

＜管理機関代表＞ 太田総二郎創価教育センター長・杉本規彦創価教育副センター長
・狩野俊一創価教育センター参事

議事録：

—— 今日の発表会をご覧になられた感想ならびにご指導を賜りたい。

○5年の事業の中で、3年目の後半に入りあと残り2年と少しという段階になった。これからどういうところに着地していくか、当然考えておられると思うが、成果や課題なども整理されていくと思う。と同時に、ここだけに留めず、関西創価高校の取り組みの良いところを他の高校へ広めてもらいたい。関西創価高校がSGHの取り組みとして行ってきたもののなかで、これなら他の高校でも使えるというプログラムや方法論というものを整理して、残り2年の間に是非つくってもらいたい。

○他校との交流、地域との交流をもっと活発にしていきたい。地元意識、ローカリティということは大切である。全国的な評価とともに、関西創価高校は私たちの高校というように、地元の人たちにとっての誇りにつながるような取り組みが重要なのではないか。それは、同時に生徒達にも必ず良い意味で、フィードバックされていくはずである。他校や地域との交流を通じて異なった価値観との出会いによって、創価教育の良さでもあり問題点ともいえるべき純粋さや単一の価値観の中でのもろさ等を乗り越えていくことにつながるのではないかと考える。また、他校にとっては、関西創価高校との交流で、その良さを吸収できることになると思う。

○現在の日本の教育には、2つの大きな流れがある。1つは、グローバル社会に対応する日本のリーダーをどのようにつくるかという流れである。もう1つは、もっと広い視野でどう生きるかという哲学も含めた、長いスパンで未来を睨んだ教育の流れであり、この教育が必要であると思う。SGHの指定を受けながらも独自の道を歩んできた御校に心からのエールを贈りたい。人材という言葉が嫌いである。人を物として材料として扱うという響きがあるのはよくないと思う。人材という言葉を使うのは、人間教育から離れていると思う。意地でも使ってはならない。御校は、独自の道を歩んでももらいたい。ユネスコスクールとうまく合体させながら素晴らしい教育を構築してほしい。SGHは5年、ユネスコスクールは永遠に続くものである。関西創価高校には、そのユネスコスクールのリーダーになってほしい。SGHも少し疲れが出てきているし、ユネスコスクールも取り組みが停滞気味のところもある。御校に、新しいこれからの方向を模索してリードしてもらいたいと強く願っている。

○多様性が大切である。子ども達は、異質なものと触れ合いの中で成長する。さきほど出た他校との

交流もそうであるが、異質なものと触れ合い、時にはまったく相反するものと触れ合いということになるかもしれないが、その中でしなやかな心、違いと向き合いながらもそこから学び乗り越えていく力を養っていくことになる。対話ということは、本来、違うものどうしがぶつかり合い、そこから相手の話をよく聞きこちらの意見も言い、相手にうなずけるところがあれば学んでいくということである。

「ダイアログ (Dialogue)」を日本では「対話」と訳したことから、お話し合いをしていれば対話になると思っているかもしれないが、本当は違う。違うものと触れ合いの場をできるだけ多くつくっていくことにより、しなやかな力 (レジリエンス) を養っていくことになり、それがさらに大きな違いを乗り越えていく力になると思う。

○御校はベースに創価の理念があるということで、色メガネで見られることもあると思うが、それを乗り越えてほしい。もっと普遍的な21世紀を切り拓いていく生き方の学びとして、堂々と胸を張ってこの素晴らしい教育を進めていただきたい。地元の大阪で評価してほしいと願っている。もっと多くの大阪の学校の先生方にこの研究発表会に来てほしいと思っている。

○東北にフィールドワークに行っておられることは報告書を読んでわかった上で、敢えて言うならば、いろいろな学校の生徒と一緒にボランティアをする中で、一緒に汗をかき、悩み、喜びをともにするような機会も必要だと思う。

——— まだまだ力不足ではあるが、ご指導いただいたことを1つ1つ自分たちの新たな実践として挑戦していきたいと思う。

○国際教育フォーラムという小さな研究会も行っている。そこで発表してもよいのではないか。

○今の学校は、様々なことがあり、とても忙しいことはわかっている。しかし、その中でも生き生きとしている先生もいる。その先生には夢があるからである。夢がないから仕事が生んできると感じるのである。夢がないと仕事は仕事としてしか捉えられないという教育の現実がある。先生と生徒がセパレートしている、校長と先生方がセパレートしている、一体化していないところに課題があると思う。

○2001年に日本・中国・韓国の子どもたち (小学校高学年) の交流事業をスタートした。現在まで16年間続いている。日本に中国・韓国の子どもたちに来てもらって、3か国の子どもたちで一週間合宿して童話を作るという事業である。そのうち、中国も韓国もその意味に気づいて、毎年持ち回りで行うようになって、今年は北京で実施した。嬉しかったのは、最初に実施した子ども達が今年で25、6になっていて、小学生が集まる時に合わせて自主的にOB会をやり始めたことである。子どもたちは、一週間も合宿すると、お互いの違いもわかるし共通している部分もよくわかるようになってくる。大人よりも子どもたちはよくわかっている、子どもたちには希望があるなと感じた。教育という視点で見ると、このような地道な活動は大変大事なことであると思う。関西創価高校のSGHの教育についても、先生方の苦勞が実り、花開きつつあると感じる。これから大きく花開かせるとともに、他の高校へも広げていってほしいと思う。

○日本・中国・韓国・北朝鮮の4か国の子どもたちで、同じテーマで絵を描き、さらにそれにメッセー

ジを添えたものを交換して、それぞれの国で展示するという絵画展を2012年から実施している。北朝鮮の子どもが韓国の子どもに対して書いたメッセージは、今は会えないけれど仲良くしていこうとの内容だった。大人とは違って、子どもたちの間には国境を越えた友情が結ばれていることを感じた。大人は子どもたちのそのような純粋さを学んでいかなければいけない。先生も生徒から学ぶという年齢を超えた学び合いをしていくことが必要だと思う。

——— 研究発表会の講評で視点ということに触れていただいたが、逆に自分たちも視点をしっかりとって自分たちのねらいが実現できているかどうか、生徒一人ひとりの変容がどのようなであったのかという振り返りをしていくことが必要であると感じている。そしてまた、私たち自身が夢を語り、同時に生徒たちの夢が広がっていくような創価教育をしていきたい。

——— 運営指導委員の先生方のお話をお聞きして、人と人との触れ合いの中でしか人を育てていくことはできないということが一番強く感じた。

——— S G Hも半分を終えて、いよいよ後半の半分となった。この期間にS G H後、ユネスコスクールとしてリーダーシップをとっていけるだけの教育ができるのか、しっかり挑戦していきたい。隣の高校の校長も来られていた。模擬国連やS G Hの取り組みを是非交野市の高校として一緒にやりませんかとお声がけをして来ていただいた。地域の皆さんとの連携、多様性との接点をもっと多くつくるということについては、第1回の運営指導委員会の中からご指導いただいている内容でもあり、今回ユネスコスクールにならせていただいこともあり、しっかり発展させていきたいと決意している。

——— これからの本校の教育活動について、ますます気を引き締めて、先生方のご期待にお応えできるように取り組んでまいりたい。

2017 年度 関西創価高等学校

スーパーグローバルハイスクール最終研究発表会

【日 時】 2018年2月24日（土）13時～16時

【会 場】 関西創価高等学校 同窓会館3階（IKEDAHALL）
〒576—0063 大阪府交野市寺 3-20-1
TEL 072-891-0011 FAX 072-891-0015

【研究開発構想名】

「TRY 人の郷・交野から 平和の創造に挑戦する
グローバルリーダー育成プログラム」

【発表会の内容】

12:30	13:00	13:20	14:00	14:20
受付	挨拶	生徒による課題探究プログラム GRIT プレゼンテーション	休憩	
14:20	15:00	15:30	15:50	16
ラーニング クラスター プレゼンテーション	教員による 研究まとめ報告 ・ ICT 活用報告	講 評	挨拶	

【挨拶】（13:00～13:15）

中西校長より、本校の SGH の取り組みについて説明させていただきます。
全ての課題研究推進の土台としての Active Learning を全教科の授業に導入し、①GRIT（全校生徒を対象とした探究型総合学習プログラム）、②SP（希望者による高大連携プログラム）、③Learning Cluster (LC)（2・3年生の希望者から選抜されたメンバーが、英語で地球的課題について取り組むプログラム）という3つの SGH プログラムを実施しています。

【生徒による GRIT プレゼンテーション】(13:20～14:00) <2階会議室>

GRIT とは、全校生徒を対象とした探究型総合学習プログラムのことで、毎月2回の土曜登校日に実施しています。「Global Research and Inquiry Time (地球的課題の調査と探究の時間)」の略称で、「環境」「開発」「人権」「平和」をテーマに掲げ、地球的課題の問題解決にグループで取り組む学習や、各界で活躍する講師によるセミナーを開催しています。

今回は、本校が取り組んでいる4つのテーマ「環境」「開発」「人権」「平和」のそれぞれについて、今年1年間の課題研究の成果を発表します。2年生の代表生徒による4つのグループが2会場に分かれ、下記の様にプレゼンテーションを行います。

セッション①：1グループ20分（発表10分・質疑応答10分）×2G

セッション②：1グループ20分（発表10分・質疑応答10分）×2G

※ 休憩時間（14:00～14:20）を利用して、海外フィールドワークのポスター掲示等をご覧ください。

【ラーニングクラスター（LC）プレゼンテーション】(14:20～15:00)

ラーニングクラスターのメンバーが、課題研究のまとめとして、高校生の視点から考えた地球的課題の解決への提言を英語で発表します。ラーニング・クラスターとは、2・3年生の希望者から選抜された25名で実施している特設プログラムで、活動の全てを英語で行い、SDGsよりさらにコアなテーマを設定して1年間課題研究を行います。

1. Climate Change

2. Nuclear Abolition

【教員による研究まとめ報告】(15:00～15:20)

GRITを中心にした1年間の学びと、それを通じて生徒がどのように変容したかについて報告をします。また、アクティブラーニングやSGHプログラムを推進するために導入したタブレット等のICTの活用についても報告します。

【講評】(15:30～15:50)

本校SGH運営指導委員である梶田叡一先生（奈良学園大学前学長）にご講評をいただきます。

【挨拶】(15:50～16:00)

2017 年度第 3 回 SGH 運営指導委員会

日時：2018 年 2 月 24 日（土）16:25～17:20

会場：同窓会館会議室

参加者：

＜運営指導委員＞ 梶田勲一 奈良学園大学前学長・米田伸次 日本ユネスコ協会連盟理事
・朝野富三 宝塚大学特任教授

＜関西創価高校＞ 武田学園長・中西校長・榊田副校長・千葉総合寮長・小山 SGH 委員長

＜管理機関代表＞ 太田総二郎創価教育センター長・杉本規彦創価教育副センター長
・狩野俊一創価教育センター参事

議事録：

——— 本日は、生徒の発表を中心に、本校 SGH の様々な取り組みの中のごく一部を見ていただいた。次の機会には、教室等での活動もぜひ見ていただきたいと思っている。今日の発表会をご覧になられた感想ならびにご指導を賜りたい。

○生徒の発表、先生方の取り組みを拝見して、私の想像を超えた学校になっていると感じた。

○梶田先生がご講評の中で言われた「教育のための社会」ということは、本当にその通りであると思う。

○教育の根幹は、生徒をどう変容させるかである。感動したのは、生徒が変容するだけでなく先生方も変容している点である。生徒が変わるから先生方も変わる、先生方が変わるから生徒も変わるという非常に良い相互作用が生まれていると感じた。

○今日参加された高校は、優秀な学校で意識の高い学校であると思う。新学習指導要領を見ていると、関西創価高校が取り組んでいるアクティブラーニングというか探究する授業を行う必要がある。かつて総合学習がスタートした時も、時間は確保したが何をどうすればよいか方法論がわからない高校が多くあったように記憶している。発表会は成果を見てもらうということであるが、この素晴らしい成果に至るプロセス、例えば一番難しい教員の心をまとめていくというプロセス・苦労等をどのように伝えていくのかが、これからの関西創価高校の大きな使命であると思う。一人の不幸の者も出さないという観点からすると、関西創価高校は、同じように取り組み、苦労している他の高校へのサポートをしていくという役割があると思う。その発信方法を今後考えていかれることを要望しておきたい。

——— 2 年前の運営指導委員会で外の世界と交わることの大切さを指導していただき、その後、SGH 校との交流については、ある程度進めていくことができた。ユネスコスクール等、地道な取り組みを進めておられる学校ともさらに交流を深めていきたいと思う。また、自分たちの取り組んできたことを他校さんとシェアできるようにも努力していきたい。

○素晴らしい関西創価高校の SGH の取り組みに関わらせていただいて光栄であり感謝している。3 年

目の今年、ずいぶん進展されたと感じる。

○体制について。SGH委員会に自発的に参加されたことは、全国でもここだけではないかと思い感動した。通常は、生徒がどう変容したかを話すものであるが、先生がどう変わったかという先生の変容を具体的な面について取り上げられた点に感銘した。

○学びの組み立て。GRITについて、深い学びができるように、よく工夫されたと感じた。

○教える教えられるという立場を越えて学び合っている、生徒と先生の間に対話がある、生徒と先生に相互の学び合いがあるという点を強く感じた。

○昨秋、2年目のアンケート調査についてシビアなコメントをした。今日のアンケートは、生徒の変容を捉えることに関して、ずいぶん深められたものと感じた。

○私は、2001年～2018年までユネスコスクールの再生に取り組んできて20年近くになる。関西創価高校がSGHに加えてユネスコスクールにもなられ、ESDを実践する学校として世界的な仲間入りをされた。SGHとユネスコスクールの両方を兼ねている学校は、大阪では関西創価高校を含めて3校だけである。全国的にはかなりあり、全て優秀な学校である。SGHとユネスコスクールの学びをどうかみ合わせいくかが課題。1+1=2ではなく、1+1=3、4、5というように、どのようにして発展させていくかが大きな課題である。SGHは、グローバル人材を育成するというキーワードで、国家的戦略として出てきた教育プロジェクトである。つまり、グローバル社会にどう対応するかの教育である。これに対してESDは、持続可能でない現在の世界を未来に向けてどう持続可能な世界にしていけるのか、地球に住む一人としてどう生きていくのか、どう新しい生き方を創造していくのかという哲学的な側面をもった教育である。この2つの教育は、ともに文科省が進めている教育であり対立するものではないが、この2つの教育をどのように総合して相乗効果を上げていくかについては、まだ明確ではないというのが、現状である。

○ユネスコスクールでは、SDGsにどうアプローチしていくかが大きなテーマになっている。

○関西創価高校では、ユネスコスクールになる前に、SGHで、すでにSDGsの先駆的な取り組みをされている。具体的には、環境・開発・人権・平和の4つのテーマ、これはすべてSDGsの17項目に入っている。ユネスコ・アジア文化センターの調査をもとに、この6年間に日本のユネスコスクールが取り組んできたテーマを分析してみると、SDGsの中で弱いキーワードは、人権と平和、そして開発であることがわかった。そこで、ユネスコスクールは、人権と平和の教育にどう取り組んでいくかが課題になっている。当校のアンケート分析について、昨秋に申し上げた点は、SDGsに取り組んではおられるが、なぜSDGsに取り組むかという意義については弱いということだった。

○平和にどう取り組むか。平和のベースには、人権教育がある。各学校に、豊かに繋がり合ったすべてのもの（教科・生徒・先生・地域）が、学校教育の中に1つの文化としてあるかということが平和を考える教育の基本であると思う。

○SGHとユネスコスクールで、平和をどのように押さえていくかについて2点申しあげたい。1つ目は、人間教育、人権教育ということである。平和と人権はワンセットである。2つ目は、ユネスコスクールとして、SDGsに正面からきちんと向き合うこと。SDGsのコンセプト、ベースは、「誰も置き去りにしない」ということ。これは、関西創価高校の校是でもある。当校のこれからの取り組みのテーマのベース、プラットホームこそ「誰も置き去りにしない」であり、生命の尊厳である。このことをしっかりと共有した上で、それぞれのSDGsの項目テーマがあるというようにしていくことが大切である。ESDは、SDGsの教育と同値である。

○平和をテーマにした深い学びとは、知識・情報の学びとともに、心情を揺さぶる感動の学びを一体化して総合的にどう捉えていくかが大切であると思う。

——— 魂を揺さぶるような感動ということでは、広島フィールドワークや東北フィールドワーク等で実際に体験した。生徒が現場で生の声を聞き、自ら何か携われることはないかというように心を変えた瞬間に大きく成長した姿を目の当たりにした。関西創価高校の次なる大切なステップを教えてくださいましたものと考え、頑張ってまいりたい。

○SGHがメインでなくなっただけからは、ユネスコスクールに軸足を移すことが大事だと思う。ユネスコスクールは、日常的な学校のあり方を国際的に開いたものである。指導要領の中でどう生かすかも考えなければならない。SGHもそうであるが、日本の国際理解は、欧米中心になっている。ユネスコは、発展途上国に視点が当たっている組織である。ヒューマン・ディグニティの問題をアジアの国と日本の若者との交流の中で考えていかなければならないと思う。欧米にあるヒューマン・ディグニティの問題は、移民の問題である。そこで、カンボジアでの体験を紹介する。学生たちが満足に食べていない子どもたちに炊き出しを行った、とても喜んでくれた。また、学生たちがお金をせがむ子どもに小銭を渡した。カンボジアの学生と日本の学生、カンボジアの先生と日本の先生がそれぞれ考え、意見を出し合った。よいか悪いか。答えはない。考えるきっかけとして、ヒューマン・ディグニティの問題として、食い込むクサビとしての体験が大切。これからユネスコスクールとして展開していく上で、こだわって考えるネタを生徒に沢山与えることをやってみられたらどうか。

○核兵器もそうであるが、兵器そのものが、「絶対悪」であると思う。展示してあったポスターの前で、大阪でも東京でも大空襲があったことを知っているかと生徒に聞いてみた。ある一人の生徒は聞いたことがあると答えた。そして生徒に、大阪でも核兵器は使用されていないが、同じように焼け野原になって、多くの人が亡くなったという事実がある。その人達がひょっとしたら、あなたたちの身内だったかも知れないということを、広島のことと重ね合わせて考えてみるといいかもしれないねと話した。

○LGBTの問題なども単に知識として知っているだけではなく、お互いに話し合ってみる中で、自分の友だちや友だちの友だちに性の違和感等を感じている人がいたりすることで、実感し身近な問題となる。

○関西創価高校の生徒は優秀である。優秀な人の弱みは、体験していなくてもある程度わかってしまうことにある。自分のことに、身近なことに引きつけて考えてみる大切である。先生方が良いしか

けをつくることで、生徒に実感をともなった学びをさせることができると思う。

——— いろいろなことを自分の人生と関連づけて考えていけるようにしていきたい。1年生の夏休みに、環境・開発・人権・平和に関わる人にインタビューをしてポスターを作成する課題を行っている。中には、戦争体験を聞いてまとめた生徒もいる。もう少し工夫して、いろいろなしかけを考えていきたいと思う。

——— 今回の広島フィールドワークは、初めて核だけではなく時代背景や第2次世界大戦のことについての学びも取り入れた。戻ってきてから交野市長との語る会を行い、交野市ではどのような平和教育を行っているのかを聞き、交野市においても戦争体験・平和への証言集を作成していることを知った。また、交野に住んでおられる戦争体験の語り部の方に学校に来ていただき、お話を伺った。このことで、生徒たちは、戦争の悲惨さ・平和の尊さを身近に感じる事ができた。

——— 先日の管理機関の会合の中で、優秀校の使命は皆に普及することであるとの言及があった。ありがたいことに今日も沢山の学校が参加してくださった。関西創価高校の取り組みをさらに大きく広げていけるように努力していきたい。

——— 本校がSGHの第2期校の中で最高評価をいただけたことは、運営指導委員の先生方の御指導の賜であると感謝している。今後ともよろしくお願ひしたい。

平成27年度指定 スーパーグローバルハイスクール 第3年次

研究開発実施報告書

平成30年3月31日

発行 学校法人 創価学園 関西創価高等学校

〒576-0063 大阪府交野市寺3丁目20番1号

電 話 : 072-891-0011(代表)

FAX : 072-891-0015

印刷 萩原株式会社

〒540-0005 大阪市中央区上町1-4-15

電 話 : 06-6761-8555(代表)

FAX : 06-6761-8553